10,11番惑星が存在する?!

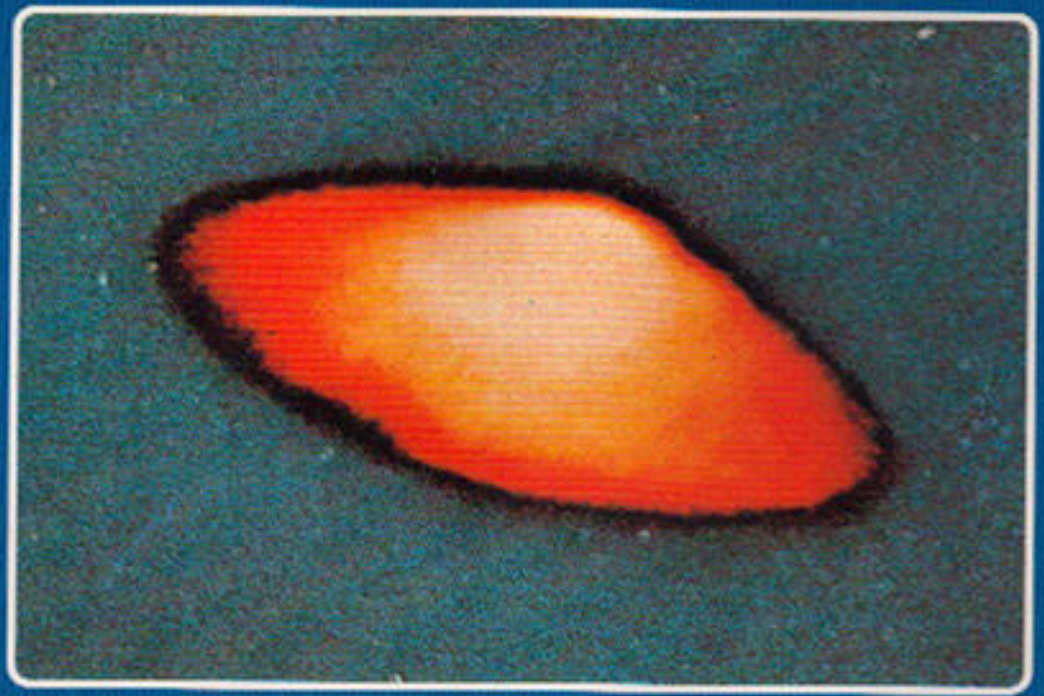
UFO contactee

GAP JAPAN NEWSLETTER
UFO・超能力・宇宙哲学
コンタクティ

〈連載第1回〉
UFO-宇宙からの完全な証拠

木星の衛星イオに古代都市跡を発見
静岡市上空にUFO頻繁に出現
太陽系惑星にまだ仲間がいる?
私は別な惑星へ行ってきた!〈最終回〉

AUTUMN
1987
98



UFO contactee　98号目次

〈巻頭言〉歴史的認識と直感力 —— 1
木星の衛星イオに古代都市跡を発見！ —— 2
UFO-宇宙からの完全な証拠〈連載第1回〉 —— ダニエル・ロス　4
静岡市上空にUFO頻繁に出現 —— 遠藤昭則　12
太陽系惑星にまだ仲間がいる？ —— 19
連夜のテレパシー送信に応じて出現した円盤 —— 片岡　豊　20
万物の実体と想念の重要性 —— 知念清邦　22
GAP短信 —— 25
科学——SCIENCE —— 26
私は別な惑星へ行ってきた！(最終回) —— 30
〈投稿欄〉ユーコン広場 —— 40
〈報告〉静岡支部大会／青森・秋田合同支部大会 —— 42
沖縄支部主催「アダムスキー全集読者感想発表会」 —— 43
〈予告〉62年度地方支部大会〈その3〉 —— 44
〈予告〉62年度日本GAP総会 —— 45
〈広告〉アダムスキー全集／英文版ユーコン —— 46
全国月例研究会案内 —— 47

◀金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について"知る"機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって設立されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来るべき時代に眼を転じること、人間はすべて"コスミック・パワー"の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた"生命の科学"の研究と瞑想を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に広めることにあり、事仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実現を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は知らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

■表紙写真は1965年10月21日、米ミネソタ州の保安官助手アーサー・ストラウチが、同州セントジョージ付近を4人の仲間と狩猟中に撮影した円盤。

〈巻頭言〉

歴史的認識と直感力

木星の衛星イオに古代の都市跡が発見されたのにソ連は隠しているというハンガリーの天体物理学者アルバート・フェルトシュタイン博士の爆弾声明はあまりに唐突であったためか、世界的に流布しなかったし、日本のマスコミは全く取り上げなかった。というよりもこのニュースが入らなかったのだろう。しかし高名な科学者が社会的地位の失墜を危惧することなく、あれほどの声明を出したというのは、よほどの根拠があってのことだろう。

近来、ソ連もアメリカも太陽系の未知の惑星の存在を推測するようになってきた。ソ連は隕石の軌道計算から、アメリカは惑星探査機パイオニアから送られてくる情報を基にして推測しており、まだ確認の段階に至っていないけれども、太陽系の惑星は九個しかないという固定概念に揺さぶりをかけるものとして注目にあたいする。なぜなら人間の持つ知識は絶対的なものではないというレッスンになるからだ。

『宇宙からの訪問者』の著者ジョージ・アダムスキーは、われわれの太陽系の惑星は九個ではなく十二個なのだと述べているが、これを発表したのは一九五〇年代前半の頃で、惑星探査機などは未開発の時代だった。当然、ほとんどの人から否定されたけれども、無理からぬことだ。学校で使用する教科書にはすべて「九個」説が挙げてあり、これを神の御宣託のごとく大衆は信じ込まされていたからだ。現在でもそうだろう。

ここで認識という問題が生じる。「およそ認識は、主観的には（認識する者の立場から見ると）、歴史的であるか、さもなければ理性的であるか、この二つしかない。歴史的認識は、与えられたものから成る認識であり、理性的認識は原理にもとづく認識である。いったい認識が元来どこから与えられたものであるにせよ、――換言すれば、その認識が直接に経験されたものにせよ、あるいは他の人から聞かされたもの、あるいはまた（一般的な知識として）教えられたものであるにせよ、とにかくはたから与えられた認識である限り、その認識を所有する者について言えば結局それだけの程度の、またそれだけの量の歴史的認識でしかない」と大哲学者カントは『純粋理性批判』で説いており、さらに「客観的な意味での理性認識（換言すれば、本来の人間理性からのみ初めて生じるところの理性認識）は、それが理性に存する普遍的源泉即ち原理から汲みとられたときにのみ、主観的にも理性認識という名を帯びることが許されるのである」と述べている。そしてヴォルフ哲学の体系のことを例にあげている。

いささか難解なようだが、これは要するに、真実を知るには他人から与えられる知識をウ呑みにするよりも自分自身の直感力を主体にせよと言っているのだ。早く言えば、宇宙的印象を感知するテレパシックな人間になれと説いているのである。この真意がつかめぬために深遠なカント哲学は一般に親しまれなくなった。それはともかく、教育というのは良くも悪くも恐るべき催眠術的効果を発揮するから注意を要する。その注意は教育する人の側に向けられてしかるべきだろう。

アダムスキーの諸説は未だに多くの人から否定されている。しかしその否定の根拠はカント流に言えば与えられたものから成る歴史的認識にすぎない。学校で九個と教えられたからという、それだけのことで既成概念が形成されて、以後は太陽系に対する認識の進展がないというのは恐ろしいことである。

しかし「隠されているもので漏らされないものはない」というイエスの警告どおり、太陽系諸惑星の真相は少しずつ一般に流れている。そして結局どのように客観的に見ても緩慢ながらアダムスキーの宇宙空間に関する諸説が正しかったことを立証する方向に宇宙科学が動いていると言えるようだ。

おそらく来世紀になればアダムスキーの著書類における記述や描写は日常茶飯事になるかもしれない。悪魔病原説を打破して病原菌説をとなえたパストゥールの発見が後世で常識化したのと同様にだ。

だが人間の直感力といっても個々のレベルがあり、千差万別であって、必ずしも一様ではない。各自が自分自身のレベルでもがき苦しみ、模索し、試行錯誤を繰り返しながらレッスンを学んでいる。つまり万人は各自が或る絶対値の上に立って思考し、それなりのレベルに自己を位置づけているのである。ある時点における絶対値は本人に必要なのであって、その時点においてはそれ以上でもそれ以下でもない。具体的に言えば、アダムスキーをどのように否定する人がいても、その時点において否定することが本人にとっては最良の学習なのだ。このようにみると否定論者をとやかく言えなくなってくる。むしろ祝福の想念を送りながらあたたかい目で見るのが高潔な態度だということになるだろう。

こうなると編者の持論「UFO研究は人間研究」の意義が浮上してくるような気がする。ひとくちにUFOといっても、ものすごく複雑多岐な問題が含まれていて、前述のごとくカントまで引っ張り出すことになるからだ。このカントが地球以外の〝人類が存在する惑星群〟を想定していたことは案外知られていない。

（久）

Ruins of an Ancient City Found on Jupiter Moon!

木星の衛星に古代都市跡を発見！

惑星探査機が撮影した驚異的写真をソ連が隠蔽？

イギリスGAP主催者クリフ・プール氏が今年五月に久保田会長へ伝えた情報によると、一九八五年にソ連が打ち上げた惑星探査機が、木星の衛星イオに古代の壮麗な都市跡が存在する事実をつきとめたが、ソ連当局は隠していることをハンガリーの天体物理学者アルバート・フェルトシュタイン博士が暴露したという。この驚くべき記事を掲載したイギリスのウィークリー・ワールド・ニューズ紙の記事も送られてきた。これには標題の大見出しと共に「古代アテネの異星版を発見したようなもの」という副題がつけてある。以下はその記事の全訳。

世界のトップクラス科学者の一人がソ連に対する公式な抗議を出して、一九八五年に木星の衛星に古代の都市を発見しながら、ソ連の科学者たちはこれを隠蔽（いんぺい）していると称して非難した。

ヨーロッパの科学誌に掲載されたその抗議文でアルバート・フェルトシュタイン博士は、「ひそかに持ち込まれた公式文書と写真類はソ連が世紀の秘密の科学的発見を隠そうとしてきたことを明瞭に示している」と述べている。

またこの抗議文は、火星で寺院の廃虚の存在を発見しながらソ連と同じように完全に口を閉ざしてきたアメリカの宇宙開発関係者をも非難している。

「アメリカもソ連も火星と木星の衛星イオに都市跡があることを知っている。なぜ彼らはこうまで隠しているのか？」とハンガリーの天体物理学者は抗議文の中で問いかけている。

「彼らは大衆がパニックを起こすのを恐れているのか。自分たちの威信を失うと思っているのか。彼らはわれわれのほとんどがすでに知っていること――この宇宙は地球人だけのものではないということを、なぜ認めるわけにゆかないのか」

フェルトシュタイン博士によると、氏がソ連のある軍事筋（氏名を明かしていない）から受け取った文書と写真類は、一九八五年七月十九日に一機の惑星探査機がイオの地表に古代の都市を発見したことを証明しているという。

「この都市は廃墟になっているけれども、残っている建築様式はすごく洗練されている。

コンピューターの分析によって、ゴバン目の広い大通りと小さな歩道があるのがだれにもはっきりと見える。建築物（複数）自体は巨大な長方形の構造物である。

それらには平たい傾斜のついた屋根があったらしい。また飛び控え（壁）やある型の建築デザインと構造などは、われわれがいまだに地球でそれを用いていることを裏付けていることもわかる。これは古代アテネの異星版を発見したようなものだ！」

●木星の衛星イオ 1979年3月5日，アメリカが打ち上げた惑星探査機ボイジャー1号が36万kmの距離から撮影した写真。目に見える最小の点すらも径約10km近くある。噴煙活動をする活火山が発見されて話題となった。13個ある木星の衛星のうち，1610年にガリレイが発見したイオは直径3,640km，明るさは5.5等級あり，小望遠鏡でも容易に見られる。(UPI・サン提供)

ウィークリー・ワールド・ニューズ誌の一九八四年十一月二十日号で報道されたように、ソ連の一探査機は一九八二年ないし八三年に火星の表面に寺院群と思われるものを撮影した。この建造物（複数）は青みがかった灰色で、ドーム状であり、少なくとも五万年昔のものだといわれた。しかしソ連はこの発見もできるだけ秘密にした。

クレムリンのソ連高官はフェルトシュタイン博士の抗議を受け取ったことを確認も否定もしていない。彼らは博士の〝隠蔽工作〟の主張をバカげたことだと言っている。

「彼ら（ソ連当局）はチェルノブイリ爆発惨事についても、ドイツとスエーデンの放射能測定器の針が飛ぶまではたいした事故ではないと私に語っていた。

ソ連はウソつきだが、アメリカも同じようなものだ。

両国とも同じ知識を持っているけれども、それは表面に出てこないだろう。

アメリカの〝知識情報の自由〟法にもとづいて何かを知ったというのなら、それは笑い草だ。アメリカは自由人の故郷かもしれないが、その国の指導者たちは大衆に知ってもらいたい事だけを知らせているのだ。

別な惑星に存在する古代都市の発見のニュースは世界のものなのだ」とフェルトシュタイン博士は述べている。

翻訳連載権独占

UFOs and the Complete Evidence from Space
By Daniel Ross

UFO——宇宙からの完全な証拠

金星、火星、月に関する真相

●ダニエル・ロス／久保田八郎訳

現代アメリカのUFO研究家として最先端をゆくロス氏がついに一冊の素晴らしい書物を書いた。わが太陽系内の各惑星に高度に発達した人類が住んで偉大な文明を築いているというジョージ・アダムスキーの主張を支持し、宇宙開発の知られざる実態を解明した上、UFOの実在を科学的に立証したこの書は、混迷を続ける世界UFO研究界の一大道標となるだろう。

日本GAP会長・久保田八郎はかねてからロス氏と親交を保ち、情報交換を続けてきたが、今年七月の米国英文版発行に先立って氏より英文原稿と添付写真類等資料一切を入手し、本号より連載を開始した。驚異的内容の展開を期待されたい。

本書は十二章から成る。各章の標題は次のとおり。

第1章　「謎」の実態
第2章　重要な目撃例
第3章　惑星の探査
第4章　火星——望遠鏡による立証
第5章　火星——マリナーとバイキングによる探査
第6章　本当の月を暴露する
第7章　アポロ、月へ行く
第8章　月は生きた環境を見せている
第9章　金星に関する真相
第10章　金星——わが姉妹惑星
第11章　人類の住む太陽系
第12章　結　論

▼ダニエル・ロス氏

われわれがすごしているような時代というものは常に敗北主義と絶望を生み出してきた。しかしそれにもかかわらず、人間はこの時代の最大の目標に立ち向かってそれを克服する力を自己の内部に持っていると信じる少数の人がなおもいる。われわれが敗北を避けようとするのなら、真実を知ろうとし、それにむかって行動をするだけの勇気を持たねばならぬ。真実を知るようになり、勇気を持つならば、われわれは絶望を必要としないのである。

アルバート・アインシュタイン

第1章 「謎」の実態

今日UFOという言葉を聞いたことのない人はほとんどいない。Unidentified Flying Objects（未確認飛行物体）の目撃の短縮形として用いられるこの語は、多年一般の認めるところとなってきた。この語に暗に意味されているのは、多くの未確認飛行物体は地球外から来る宇宙船であると、ほとんどの人が信じている点にある。このことは一般に受け入れられてきたけれども、UFOの存在そのものの背後にひそむ真相について知っている人は今日ほとんどいない。

現在それは謎とは言えないだろうが、多くの理由により、特定の事業などを支配する既得権を所有する人や団体などを保護するために、その問題はそれなりに促進されてきた。本書はこうした混乱を断固として排除し、四十年間にわたって空中に目撃され、世界中に報告されてきた惑星間宇宙船の背後にひそむ真相を提供するものである。証拠や解釈は堅固な基礎をもとにして提示されるはずである。UFO問題に関しては心霊的な基盤に立った発表はすべて誤ったものであり、したがって本書の内容に加えてない。

われわれの惑星（地球）との絶えまのない接触を続けてきたこれらの来訪宇宙船（UFO）は、わが地球と同様に人間の住むホーム惑星（複数）を持っている。ひとたびそれらの発進地が知られ、理解されるならば、UFOに関する謎は存在しなくなる。それらの発進地はわが太陽系の他の惑星群であり、その宇宙旅行者たちはどの点からみても人間なのである。

アメリカ政府内の各種情報部門、たとえばNSA（国家安全保障局）、CIA（中央情報局）、その他特殊な軍部各部門などは多年この（UFOの）情報を有してきた。NASA（米航空宇宙局）内の高位にある幹部連は、状況にたいする完全な知識を持っていた。しかしこの二十年間、宇宙開発による発見事と諸惑星の状態の完全な誤った情報が流されて一般化した。こうしてオーソドックスな科学的考え方が文句なしに支持され、その結果、UFO問題はさらに論争の的となり、大衆にとっては見たところ解けそうにもない謎になってしまったのである。

潜水艦で冒険にあこがれる

したがって本書の主な部分は、UFOの最近の歴史とともに、火星、金星、月などに関する実際の惑星としての状態を説明するつもりである。要約すれば、本書は宇宙科学に関する最新の発表なのである。

読者は私が最初どのようにしてこの分野（UFO問題）を始めたかを興味をもって知りたいだろう。

UFO問題についての私の探究は一九七四年に始まった。ニューヨーク州北部地方で発生した、しっかりした文書で証明されているあるUFO目撃事件のあとである。その当時以前にさかのぼると、私はUFO問題について知らなかったし、宇宙の探究に関心はなかった。しかしながら初期に受けた教育以来ずっと私は普通の状態で理科系の勉強を続けていた。

多くの学生と同様に私も化学、生物学、物理学、数学などの大学進学コースのすべてを勉強した。高校を出て約一年たったとき、私は米海軍へ入り、潜水艦勤務につこうと決心した。原子力潜水艦に乗って冒険に満ちた勤務の旅に出ることに胸を躍らせたのだ。

そこで一九六六年の初頭に私は入隊し、イリノイ州グレートレークスにある新兵教育隊にむかって列車に乗り込んだ。ここで基礎訓練を受けているあいだに私は海軍の電子工学学校へ入って原子炉オペレーターになるための原子力訓練教科課程を受ける資格を得た。

電子工学の三十八週間コースを終了したあと、私はサンディエゴへ向かい、潜水艦補給船に乗って一時的な勤務についた。一九六八年、カリフォルニア州の海軍の学校で私の原子力関係訓練が始まったが、これは原子物理学、原子炉施設取扱技術、化学、放射能理論、流体力学などに関する完全な教育プログラムだった。

この十二カ月の教科課程を完了するために私はアイダホ州の海軍原子炉試験場で模範的な訓練を受けた。続いてコネティカット州のある短期学校を終えた後、私はサンディエゴの急速攻撃

潜水艦勤務を命じられた。

ところがある日、びっくりするような命令がくだった。カリフォルニア州のメアアイランド造船所で新規に建造中の潜水艦へ転属せよというのだ。

この潜水艦はUSSピンタド（SSN672）だった。長たらしい建造期間中、乗組員はその艦の原子炉の第一、第二パワープラントの操作テストのあらゆる面で完全な教育を受けた。これを完了するためのあらゆる段階に乗組員にたいする新知識のきびしい学習と応用が含まれていた。新しい潜水艦を艦隊に編入するのに手っ取り早い方法はないし、しかも乗組員が教育を受けて高度に有資格者になる近道もないのだ。その潜水艦の任務に続いて、私たちは原子炉操作安全試験で最高の遂行評価を受けた。これは海軍の原子力潜水艦すべてにたいして毎年実施される試験である。

太平洋艦隊の新しい艦として私たちは西海岸沿いの各軍港にむかって出航した。カナダとハワイへ行ったあと、母港サンディエゴに帰ってきた（訳注＝サンディエゴはカリフォルニア州南西端の港市。米海軍太平洋側最大の基地で、海軍航空隊、海軍基地、海兵隊基地などがある）。この潜水艦乗りの体験は難儀な仕事と冒険の組み合わせである。私が海軍にいることは愉快な生活のように思われた。

ピンタドに乗り組んでからの三年間は一九七二年で終わり、そのあと私は電子工学の高度な勉強をするためにコロラド州のPME学校へ行った。私の海軍兵役の最後の十六カ月間は別な潜水艦ですごしたが、これはコネティカット州グロトンの海軍潜水艦基地を母港としていた。その艦に乗っていたあいだ、軍事行動のために東海岸の各港へ寄港し、バージン諸島へも行った。二カ月の別な航海で北極圏を通過し、北スカンディナビアをまわり、白海にまで入って行った（訳注＝白海はソ連北西部の海で、北極海の一部）。

回想すると、いま私にわかるのは、海軍にいたあいだ世界で発生している他の事柄について私は全く何も知らなかったということである。大気圏外で起こっている出来事については言うまでもない。海軍生活は人間によって造られたもののなかで最も精巧な技術的機械（潜水艦）に乗った教育的な冒険だったし、私は意欲をそそる仕事に没頭した。その結果、他の関心事を追求したり多くの物事を読んで調べる時間は全然なかった。宇宙問題に関してはアメリカが月へ宇宙船を送って帰還させたということしか知らなかった。

私の兵役期間は一九七四年六月に終わった。まる八年間である。一緒に勤務した仲間の多くは除隊してから地方の原子力発電所に就職したけれども、私は急いでそうした職業ルートをたどろうとはしなかった。原子炉物理学と技術はよい体験になったが、自分の教育をもっと高めることにし、大学で他の知識の分野を探ろうと思ったのである。私がカリフォルニア州サンディエゴへ帰ることは容易に決心がついた。結局そこでサンディエゴ州立大学において三年間の学業をおさめたのだ。私は多くの学科から提示されたいろいろな課目を勉強した。人文学、自然科学、哲学、機械工学、文化史、心理学、さらに上級クラスの実験コースに至るまで勉強した。

しかしその期間中に私は大学の学習以上に別な分野の個人的な研究調査の方をやっていた。私の努力の一部は見つけるのが困難な書物、雑誌、ほとんど知られていない刊行物を探すのに多くの時間と金を必要としたのである。何かの一職業に必要な知識を超えた別な知識を求めていた。

この新しい限界のない分野は宇宙科学と宇宙時代の哲学であった。しかしそれはいかなる国の宇宙開発計画とほとんど関係はなかった。むしろそれは基礎的な真実を求めての独学と自習による探究である。そうしてこそ多くの分野からの知識を統合して生命のより充分な理解を得ることができるだろう。私が海軍を除隊してまもなくある出来事が発生し、それがこの新しい方向における私の探究に拍車をかけたのである。

グレンズフォールズ大UFO事件

私はカリフォルニア州サンディエゴへ移動する前、ニューヨーク州北部地方に短期間滞在した。実は私が生まれ育った町、グレンズフォールズにいたのだ。

一九七四年八月二十日の夕方、史上最もすぐれたUFO事件の一つが私の小さな町の上空で発生したのである。強烈に輝く宇宙船（UFO）の編隊が空中に停止し、次に低空で空中をさまざまの方向に飛んで行くのを数百名の住民が目撃したのだ。

私は最初その目撃のことを、グレンズフォールズのWWSCラジオ局がレギュラー番組を中断して、興奮した住民たちが放送局へ電話をかけてきたのを流し出したときに聞いた。私は家族とともに屋外へ出てトランジスタラジオで放送を聞き続けた。すると数百名の人がラジオ局の近くへ集まってUFOを目撃していることがわかった。私のいた所からは良好な視界が得られたので、群衆が集まっていた場所まで一マイルばかりをドライブしないことにした。車の渋滞で貴重な時間がむだになるだろうし、ドライブ中に視界が悪くなると思われるからだ。しかも物体群はいつ永久に飛び去ってしまうかわからない。

州と地元の両警察が現場にいて交通

整理をし、大群衆にむかって近くの遊園地へ移動せよと呼びかけている放送も聞いた。

私は物体群を見つけようとして空を眺め渡したが、夜空を見ることに慣れていないため、最初に見たのは結局輝く星々のかたまりだった。しかし数分後に突然一機の輝くオレンジ色の物体が急速に視界を横切るのを見た。それは完全に停止し、ちょっとのあいだジッとしてから方向を逆転し、飛んで帰って、もっと弱く光っている一群の物体に加わってしまった。そのスピードは信じられないほどで、それから全物体群は空中の別な領域へゆっくりと移動した。

これは私にとって印象的な美しい瞬間だったが、空中のあの輝く物体を見た人々のほとんどもそうだったろうと思う。この船団はその夜中、しばしば密集して移動し、美しい蛍光色を放っていた。この気持を言葉であらわすのはむつかしいが、突然きわめて多くの想念と印象が私の心の中を通過した。この物体群が知的に操縦されている船団だということは疑いのないことだ。

どこから来たのかはわからないが、地球と彼らのホーム惑星間に密接な関連があるという絶対的なフィーリングがあった。多くのフィーリングは実際、言葉であらわしにくいし、そのときにそうするべき理由もないように思われた。それはただ畏怖、驚異、啓蒙のフィーリングだった。私が目撃したそのUFO出現事件は、宇宙は地球人だけではないということを私に納得させる証拠となったのである。それは言葉では伝えられないような、とてつもない実感であり、平安なフィーリングだった。

その夜、ラジオ放送を聞いたあとで興奮の原因が何であるかを知ろうとして目撃地点へ多くの人がやってきた。たぶんなかには懐疑的な人もいたことだろう。目撃の持続時間はさまざまで、いつ出てくるか予測しがたいものだったが、忍耐強い大多数の人はその夜数カ所で船団をチラリと見た。多くの人はこの印象的な出来事が大気圏外から来た宇宙船の否定できない出現だと感じていた。たしかに物体群を見ただけでその発進地を特定することはできないだろう。そして多数の人はたぶん自分自身の推測や説を持っているだろう。しかしわれわれが見ていた物の実在性の背後には、とてつもない意義をもつ圧倒的なフィーリングがあった。

ラジオ放送局は情報の調整にきわめて優秀な仕事をし、私たちの地域にいた人々へ目撃の興奮を起こさせた。また、グレンズフォールズのポストスター新聞は八月二十二日号に事件のあった夜に関してすぐれた記事を掲載し、大気圏外から来た物体群による驚異的な光景を数百の住民が目撃したと書いた。

これは私が目撃した事件である。しかし後になって私はニューヨーク州の州都オールバニー付近に住んでいる住民たちによってその夜早くもっと多くの目撃事件があったことを知ったのである。

オールバニーの目撃事件

実は一九七四年八月二十日のこのUFO目撃事件は、文書によって証明された史上最もすぐれた事件の一つになっているのだ。というのはこの事件は州警察、郡保安官、オールバニー空港の連邦航空管制塔、さらにすでに述べた数百の市民などが関連しているからだ。

午後八時頃、ラウンド湖の農業共同生活体付近の住民たちは、州警察へ電話をかけて、空中に多数の光体を目撃したと報告した。パトロール警官マイクル・モーガンは調査をするためにその地域へ派遣された。到着してから彼と同僚の警官はサラトガ湖上空をゆっくりと移動して行く大きな軟式飛行船型の物体に気づいた。その巨大な物体は赤味を帯びた脈動するような蛍光で輝いていたが、続いて警官は二機の小さな白色の物体が約四百五十メートルの高度で飛んで行くのを認めた。見たところ大きな光る飛行船型物体の中へ入って行くようだった。

警官が空港に電話をかけると、空港長ロバート・キングと勤務中の管制官たちは四つのレーダースクリーン全部にその巨大な物体を追跡することができた。突然、例の二機の小物体がふたたび現れて、もと来た方向へ飛び去った。

葉巻型物体はゆっくりとターンして近くの警察の隊舎の方へ移動したが、続いてそれはオールバニーの方へすさまじいスピードで加速して飛び去った。その地域で訓練飛行をやっていた空軍の一パイロットは、一機の物体が基地へむかう自分の航路を横切っていま飛んで行ったと連絡した。

管制塔では係官たちがレーダースクリーンを見つめて、その物体のスピードを時速五千七百六十キロメートルと計算した。この物体の飛行は州のパトロール警官ウォーレン・ジョンソンも見た。彼はたまたまオールバニー付近の八十七号ハイウェーで止まっていたのだ。

この事件後まもなく、別な光る物体群が目撃され、報告されたが、これはオールバニーの民間航空パトロール隊が調査のために飛行機を飛ばしたときである。

一パイロットが二千四百メートルの高度で飛んでいたとき、一機の無音の物体が彼の飛行機の近くを信じられないほどのスピードで通過するのを見たのだ。管制官たちは別なレーダーにスイッチを入れて、スクリーンに急速に

動く物体を発見した。クラッター消去（障害電波消去）装置を用いて彼らは一機の固型物体を追跡していたことを再度確認した。それがオールバニー地域から消えるにつれて四千八百キロから八千キロメートルに加速したのである。

一九七四年八月以前に私は宇宙科学を研究しようという個人的理由をもたなかった。そのあと私は自分や数百名の人々にとってUFOが存在するという証拠となった事件を目撃するのにたまたま適当な場所にいたのだが、私の科学的な素養や世俗的な教育はそれを解決するほどに完全なものではなかった。このことははっきりしていたのだが私は解答を知りたかった。私は謎だけでけっして満足はしない。UFOが存在することを知るだけでいかなる主眼点があるというのか。これらの宇宙船はある理由または目的で地球以外の生命をわれわれに気づかせようとしていたのだ。この宇宙からの訪問者たちは地球の文明にただあれこれと思いをめぐらすだけで果てしない混乱の中にわれわれを残そうとしているのだとは私は信じなかった。宇宙空間の航行は確実に知性体の存在を信じさせることになるので、それで彼らは地球の信頼できる信用のおける人々と実際にコンタクトする方法を用いてきたのだろう。

例の目撃の興奮は住民のあいだで数日間続いたが、妻と私にとっては大陸を横断してサンディエゴへ荷物とともにドライブするべき時となった。そしてまもなく私は一市民として最初の数カ月を楽しんでいた。南カリフォルニアのこの美しい地域に住んだので、特に楽しかったのである。浜辺、気候、公園、町の夜などは私たちが心から望んでいたものだった。私たちは海岸ぞいに短い旅行をしたり、北方のパロマー山へ登ったり、南方のメキシコへ行ったりした。別な日には私の古い艦船の基地であった海軍潜水艦桟橋へも行った。その町の東に横たわっている山岳地帯へキャンプに行くこともあった。サンディエゴの新しい家で未来が輝いて保証されているように見えた。

優秀な指導者についてアダムスキー問題を知る

私たちが新しい環境に落ち着いてまもなく、私は一冊の小さなペーパーバック本を見つけた。その内容は考古学上の謎とか地球上の未解決の謎に関するもので、過去の大気圏外からの訪問者に関する諸説について短い論説も載っていた。その本は多少とも興味はあるものだったが、厳密に言うと、基本的には意味のないものだった。私の興味は急速に失せて、まもなくその本のことはすべて忘れてしまった。UFOや古代の謎について書いた多くの本はそんなものなのだ。決定的なものはほとんどなく、推量や推測が渦巻いている。少しばかりの情報は真実だという見込みはあるけれども、読者（または本の著者）がUFOとそれに関連する宇宙科学に関する最良の書物を知るようになるまでは、問題の意義は理解されないのである。

長い年月を経ていまここで書きながら私が個人的に証言できるのは、単なる好奇心または何かを信じることと、惑星間宇宙船の証拠に関するところの宇宙空間で発生している物事の背後にひそむ真実の知識とのあいだには極端に大きな差があるという事実である。だれしも単に自分自身の推測または他人の推測でもってその間隙を埋めて、これがUFOに関する知識だと称することはできない。真実というものは人間の希望的観測に支配されないのだ。

新聞を読んでいるとき、私は地元のある学校で水曜日の夜にUFOについて教えるコースがあるという広告を目にとめた。ニューヨーク州の目撃事件はほんの一カ月前に発生したばかりなので、私はただちにその授業について問い合わせた。そして百名以上の人が十週間コースの最初の夜に姿を見せたのである。

教えている人はたいそう精力的な人で、非常に流暢に論じ、大いなる熱心さをもって話した。彼は明らかにUFO問題を他人に伝えることを楽しんでおり、非常に実際的な方法であらゆる事について語った。しかも彼は自分や他人の時間をむだにはしなかった。そこにはたしかにUFO問題に関する〝既知数〟があったし、多くのUFO目撃に関する信頼し得る証拠があった。彼はスライドや、近年に別々な目撃者によって撮影された各種の八ミリ映画のコマを映写したが、そのほとんどの写真は吊り鐘型のスカウトシップであった。その先生は空軍の記録にもとづいたセミドキュメンタリーのフィルムを全員に見せた。

その先生はただちに私の尊敬の的になった。彼はけっしてだれにも話しかけようとはしなかったし、また何かの職業上の地位を守ろうとするインテリのような話し方はしなかった。彼は多くの人々が自分自身のUFO目撃を体験してきたようにあなたがたの考えていることを表明せよと受講生に勇気づけた。彼らは地球の大気圏内で三次元の物質的な物を見ているのだ。二人の若い男の場合は、一個の大きな物体が地面のすぐ近くで見られたが、続いてそれはゆっくりと上昇して急速に夜空に消えていったという。このクラスの受講生のあいだには〝精神的体験〟またはナンセンスな心霊的な話は出なかった。彼らは私が見たような実際の肉眼による目撃を体験したのであり、しかもUFO目撃に関する真実の知識の何たるかを知りたがっていたのだ。言いかえれば、「彼ら（UFOに乗っている人たち）はだれなのか、そして「な

ぜ彼らは地球へ来るのか」という疑問を解きたがっていたのである。

先生はUFO存在の証拠に関する全領域について博識ぶりを示しながら話したが、彼の最も徹底した論説はジョージ・アダムスキーの業績に関するものだった。アダムスキーは空飛ぶ円盤に関する三冊の書物を書き、惑星間訪問の問題について自分の意見を述べたことで世界的に認められていた人である。彼の最初の著書『空飛ぶ円盤は着陸した』を私が一冊見つけるのに約一週間を要した。私たちはアダムスキーの他の二冊の書物のペーパーバック版を入手することができたが、ただし後になって私はその二冊の元のハードカバー版を古本屋で見つけた。

先生は一枚の推せん図書一覧表をくばったが、それは約二十冊の書物の著作目録だった。当時これらはほとんど絶版になっていたけれども、結局私はサンディエゴとロサンジェルスの古本屋を歩きまわって、その全部を手に入れた。

◀ジョージ・アダムスキー

しかしその頃までに私はUFO問題と関連分野に関する別な百五十冊ばかりの本を集めていた。科学、考古学、文化史、天文学、天体物理学、気象学、神話学、哲学、重要な伝記類、そして世に知られていない無数の刊行物などである。また月に関する多くの書物や記事も集めた。私は科学雑誌類を研究し、それらから記事を切り抜いてファイルし始めた。新聞の切り抜きも集めた。

私が入手した貴重な書物のほとんどは図書館でも見られないし書店にもない。人間は自分自身の図書館を造り上げねばならないのだ。私は公共図書館もよく利用したし、必要なものはコピーに取った。しかしこの手の研究調査は数年以上の期間を経てゆっくりと展開してくるものだ。宇宙科学に関する私の新しい興味は、ジョージ・アダムスキーによって書かれた著書類を読んだ後に、全く自然に起こってきたのである。

アダムスキーの最初のコンタクト

「空飛ぶ円盤は着陸した」におけるジョージ・アダムスキーの記事は正直で簡明な論説である。彼の話は新しい問題において知的に新天地を開いた。その問題は一九五三年までに円盤関係報告に関して世界中の人々の好奇心をそそっていたのだが、アダムスキーはこの宇宙の物体を写真に撮影するために、自分の五年の長きにわたる努力を詳述したのである。それは実際にはカリフォルニア州サンディエゴの米陸軍研究所の要求によって始まった努力である。

パロマー山の自宅から望遠鏡による空の観測を数百夜続けた後、アダムスキーは少なくとも十二枚の写真を撮影したが、これらは空中や月の近くを動きまわる飛行物体が地球のものでないことを示すほどに優秀なものだった。

一九五二年までに彼は、円盤はしばしばアメリカの軍事基地近くで見られるとか、ときには遠い砂漠地帯に短時間の着陸をするとかの多くの報告を聞いていた。アダムスキーは自分のカメラ道具や六インチ望遠鏡を車に積んで、こうした遠い地点へ何度か旅をしたけれども、近距離で物体を見ることに成功しなかった。しかしついに例の年の終わり頃に宿命的な日がきたのである。

十一月だった。手っ取り早くアダムスキーは二人の助手とともにパロマー山の自宅を出た。カリフォルニア州のモハーヴェ砂漠近くのある地点へ車で行くことになっている四名の知人に会うためだ。

ブライズの町に到着後、彼らはデザートセンターと呼ばれる小さな町へ車で引き返すことにきめた。そしてそこからパーカー・ハイウェーを十七・六キロメートルほどドライブし続けた。そして小さなグループは廃棄された古い軍事施設から遠からぬ仕置に停車することにした。

そこは砂でできた砂漠地帯ではない。地面は岩が多く、低い灌木がまばらに生えている。ほんの数キロむこうには山々の尾根がそびえていた（訳注＝モハーヴェ砂漠というのはカリフォルニア州中部から南部に展開する広大な不毛地帯で、砂漠といってもアフリカに見られるような砂の海ではない。地面は固くて石ころが多く、高さ五、六十センチの低いヤブが点在している）。

この旅行のために用意してきた軽食を食べたあと、男女から成る小集団は徒歩でその地域を少し調べてみた。

正午頃、一機の飛行機が頭上を飛び、砂漠の空気の静寂さを破った。この月並みな飛行機を数分間見ているうちに、遠い山の尾根を超えて高く無音で飛ぶ巨大な葉巻型物体にみんなが同時に気づいた。それはゆっくりと一同の方向にむかって旋回し、続いて音もなく空中に停止した。二個の双眼鏡を互いに手渡しながら興奮した目撃者たちは、これは（大気圏外から来た）宇宙船だということに気づいたのである。

アダムスキーはすぐ次のように考えた。もし一同がハイウェーの近くの地点にとどまっていたら、当然ながら走りすぎるドライバーたちの好奇心を引きつけることになるだろうから、個人的なコンタクトの機会を失うかもしれ

ないと。そこで彼と仲間の二人は廃棄された射撃場の荒れた道路を車で行って、もと一同がいた場所から約八百メートルの所で停車した。この間三人はずっと大宇宙船を見続けていた。

カメラ道具をセットしているあいだにアダムスキーは他の二人にたいして四名がいる場所へ引き返し、もし何かが起こったら全員で観察するように伝えてくれと頼んだ。

アダムスキーは何かが起こるだろうという確固たるフィーリングを持っていたが、ちょうどそのとき大宇宙船はターンして反対方向へ行ってしまった。数機の軍用機が突然空中に飛来し、見たところ円を描いて巨大な宇宙船の正体をつきとめようとしているらしかったが、宇宙船は急速に上昇して、アッというまに空中に消えてしまい、あとには米陸軍機がむなしく旋回しているだけだった。

さらに五分間がすぎたとき、アダムスキーは突然空中に閃光がきらめくのに気づいた。一機の美しい小型機が近くの二つの山の峰の間のくぼみの方へむかってゆっくりと滑空して来る。

彼は携帯用望遠鏡に取り付けてあったカメラで二、三枚のスナップ撮影をし、続いて別なカメラを取り出して一枚の写真を撮ったら、小型機は突き出た丘の群れのむこうへ消えた。

アダムスキーはそれほどまでに接近して小型機を見たことで畏敬の念を起こし、数分間がすぎるにつれて、次に何をすべきかを考えていた。

すると突然、彼は二つの低い丘のあいだの山峡近くに一人の男が立っているのを見た。その男は自分の方へ来いと手招きする。相手がどこから来たのかアダムスキーにはわからない。この地域の鉱山師なのか？　たぶんやはりあの小型機を見た人なのだろうし、それとも助けを求めている人なのか。

その男は約四百メートル彼方にいるので話しかけるのはむりだ。アダムスキーはその男の方へ歩いて行くことにしたが、その間、道路付近の友人たちにその男が充分に見えているはずだと考えていた。

アダムスキーは接近するにつれて、その男が友好的な態度で微笑しているのがわかった。見たところ若そうで、着ている服はやや違うものだった。スキータイプのズボンのついた上下続きの服のように見える。アダムスキーが接近すると、その男も数歩前方へ歩み寄ったので、ついに二人は互いの腕の長さ以内の位置に来た。

その瞬間、一言も発しないのに、アダムスキーは自分が宇宙から来た人の前にいることにはっきりと気づいたのである。別な世界（別な惑星）から来た人間なのだ。

その訪問者はすぐに限りない理解と親切さのフィーリングをアダムスキーに印象づけた。そのときまでにはほん

▼1952年11月20日，アダムスキーが6人の同行者とともに着陸した円盤を目撃したカリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯。矢印の下に黒く見える物体が円盤。船体の半分は丘に隠れている。

◀テザートセンターでアダムスキーが金星人とコンタクトしているあいだ、同行者の一人、アリス・ウェルズ夫人が双眼鏡で見ながらスケッチしたもの。

のわずかの警戒心すらアダムスキーから完全に消え去っていた。アダムスキーは相手の楽しそうな高貴な容貌に大いに関心があったので、最初はその小型機について質問しようとは思わなかった。彼は著書で次のように述べている。

「相手は握手するかのような態度で片手を差しのべた。私は自分たちの習慣的なやり方でこれに応じた。しかし相手は微笑し、頭をかすかに振ってこれを拒んだ。われわれが地球上で行う握手のかわりに、彼は片手の掌を私の片手の掌にぴたりとくっつけた。ただ触れただけで、強く押しつけたのではない。私はこれを友情のしるしだと解釈した。

相手は身長約百六十五センチで、体重は——われわれの標準に従えば——約六十キロである。年齢は二十八歳程度と推定したが、もっと年をとっているのかもしれない。

丸顔で極端に広い額があり、大きくて穏やかな灰緑色の目を見せているが、両横に少し傾いている。頬が西洋人より少し高いけれども、インディアンや東洋人ほど高くない。鼻はすてきな形だが、特に大きくはない。普通の大きさの口の中に美しい白い歯があって、微笑したり話したりするときに輝いた」

その宇宙人の髪は長くて両肩まで届いており、色は砂色で、風に吹かれて少し揺れていた。アダムスキーは相手の皮膚が美しく、手頃に日焼けしたような色に似ていると述べている。顔のヒゲをそったようには見えない。というのは相手の顔には子供と同じように毛がないからだ。

その男の衣服は非常にきめこまかく織られた生地のもので、長い袖とズボンの脚がついていたとアダムスキーは記している。それは腰のまわりを取りまいている金褐色のベルトを除いてチョコレートブラウン色だった。それは宇宙旅行用の非常に快適なユニフォームであるように見えた。アダムスキーはいかなるチャック、ボタン、バックルなども見なかったし、その男が指輪、時計、その他の装飾品を着けていないのに気づいた。靴は革に似ていたが柔らかくてしなやかで、爪先は丸かった。

テレパシーは自然の能力

その男の外観について考えをまとめながらアダムスキーは最初の質問を出して、どこから来たのか、と尋ねた。だが訪問者はアダムスキーの言葉を理解したようには見えなかったので、彼は身振り、サイン、自然のテレパシー手段などを用いて、自分の考えていることをあらわそうとした。テレパシーは最も重要な、フィーリングという感覚を通じて想念や心中のイメージを伝えることのできる自然の表現法である。アダムスキーはこの線にそって研究を続け、三十年以上もこれを事実として教えていたのだ。

〈これは人間やあらゆる生き物にそなわっている自然の先天的な能力である。しかし心はいつもの個人的想念、感情的な闘争、日常の不安などをなくさねばならない。気分を浮きたたせるような宇宙空間の自由な状態にあり、しかも心が日常の不安から解放されたアメリカの宇宙飛行士たちは、突然にこの自然の能力（テレパシー）を感じた。

ジェームズ・アーウィン（アポロ十五号）は彼の著書『夜を支配する』の中で次のように回想している。

「地球よりも宇宙空間のほうがもっと能率的なので、だれもが精神力という感覚能力を達成したと感じた。新たな透明感を起こしたわれわれ全員はほとんど遠隔透視力を持ったと思ったのである。私はデイヴ・スコットが何を言おうとしているかがほとんど予想できたし、彼が考えていることもわかったと思った」〉

テレパシーは自然の状態である。それは心霊的な事柄、超感覚的知覚（ESP）、または他のかたちの希望的観測などとは関係ない。それは〝超感覚〟ではない。なぜなら各感覚と関連した自然のフィーリングであるからだ。言いかえれば、それは想念を伝達させる自然の能力である。わが宇宙飛行士たちは宇宙空間にいるあいだ過然にこのことに気づいたのだが、一方アダムスキーは自習をし、ただ一人でこの生得の能力を開発していたのである。

意志を通じさせるための身振りとともに、ときおり言葉を繰り返したりしながら、アダムスキーと宇宙の訪問者は、互いに伝えようとした想念を理解するのにほとんど困難を感じなかった。その宇宙人は自分が金星から来たことを確言した。太陽の周囲の二番目の軌道を回る惑星である。彼はその答を繰り返し、「金星」という言葉を口に出して実際にそのことを確証した。

なぜあなたがたは地球へ来るのかというアダムスキーの質問にたいして、大気圏内の核爆発の実験の結果、宇宙空間へ出て行く放射能に関心があるからだと相手は答えた。しかし彼らが地球へ来るのは友好的なものだということがアダムスキーにわかった。

（以下次号）

Frequent Appearance of UFOs in Shizuoka

静岡市上空にUFO頻繁に出現——遠藤昭則

静岡支部大会翌日の興奮と歓喜の一日——超能力者の目撃体験

二千年以上もの昔からこの太陽系内の近隣惑星群の方々によってスペース・プログラムは続けられてきています。そして今回の静岡での出来事はそれを確証するものの一つとなるかもしれません。

静岡支部が結成されて今年で満十年ということで、五月四日（日）に静岡駅から歩いて三分程の所にある静岡ステーションホテルにおいて静岡支部大会が盛大に挙行されました。

私は第一回目の大会以来毎年参加させて頂いておりますが、年々参加者がふえてくるのを見ると、あらためて野口静岡支部代表、そして同支部の方々の大きな力を感ぜずにはいられません。

今年は大会の始まる一カ月程前から上空に思念をしていました。大会の当日かその翌日に円盤が出現してくれればよいのだがと思っていたからです。

五月二日（土）、大会の二日前。いよいよあさっては大会の日だと思うとなぜか心が宇宙的になってくるようでした。夜九時頃、机に向かっていると心地よいフィーリングが湧き起こってきました。円盤が上空にいる時や、少しして後に円盤が現れる時などに湧き起こるフィーリングです。急いでベランダに出て夜の空を見上げましたが、そこには円盤その他の発光体は見えず、ただどんよりとした雲があるだけでした。上空に見えるかと思って出たので少しがっかりしましたが、あのフィーリングは続いていました。それで上空に向かって再度思念をしてみました。

部屋に入り、考えてみると、これは静岡で素晴らしいことが起こるということだなという印象が湧き起こってきました。

母船型の雲を見る

五月三日（日）、静岡に午前十一時半に到着しました。着いてからは色々と見学をして、夕方ホテルに戻り、一息つきました。夕食をとっている時もまだ、今度の大会では円盤が必ず出現するという印象がありました。

五月四日（月）、空は昨日とは違って良い天気になりました。静岡支部大会当日です。午後一時に朏（みかづき）氏の司会で始まった大会は高梨氏のビデオを取り入れた講演から野口氏の力の入った講演へと移って行くにつれてますます熱気を帯びてきました。

両氏の講演が終了したのが三時半、そこで二十分間の休憩となりました。私はこの大会の素晴らしさにしばらく呆然としていました。ふと松村氏と安藤氏が受付の横で会員バッジを即売していることを思い出し、そちらへ行きました。

受付の前にはたくさんの人が談笑していました。松村氏達は静岡の駅が見える方の窓際の所にいました。私もそこで一緒に立ちました。しかしどうも窓の外に見える山の方が気になるのです。そこで振り向いて見ると、山の上の雲と雲との間に真っ黒な母船のような形をした雲がありました。私はひょっとしたらあの雲の中に母船がいるのかもしれないと思って見ていましたが、確信はありません。けれどもそちらの方向から上の方にかけて円盤がいるという感じがありました。外に出て空を見上げるとまるで円盤がその中にいるような雲がありました。しかし私の内部では、そこを見ているのではなくて反対側の空を見よという声なき声がありました。そこでしばらく反対側の空を見ていると、やや右の空にまっ白な円盤が現れて水平飛行を始めました。私は慌ててカメラを向けて撮影しました。後に現像してその物体が写っていたのは言うまでもありません。

その時の体験を覚えているので、五月四日静岡でのこの時も円盤は出現するかもしれないと、私の横にいた安藤氏に話してカメラを用意してもらおう々見ていました。

すると三時四十五分（これは時計を見たので覚えています）、あと五分で休憩時間が終了するという時になって、円盤が出現するからカメラを用意せよという印象が強烈に湧き起こってきました。

浜名湖で円盤を撮影

さてここで話は少しさかのぼりますが、今年の三月二十日のことです。私は妻の友人の結婚式に出席するために妻を乗せて車で東名高速道路を走っていました。そして浜名湖パーキングエリアで休憩をすることになりました。車がパーキングエリアに到着して外に出ようとすると、カメラを持って行けという感じがありました。外に出て空を見上げるとまるで円盤がその中にいるような雲がありました。しかし私の内部では、そこを見ているのではなくて反対側の空を見よという声なき声がありました。そこでしばらく反対側の空を見ていると、やや右の空にまっ白な円盤が現れて水平飛行を始めました。私は慌ててカメラを向けて撮影しました。後に現像してその物体が写っていたのは言うまでもありません。

その時の体験を覚えているので、五月四日静岡でのこの時も円盤は出現するかもしれないと、私の横にいた安藤氏に話してカメラを用意してもらおう

と思いました。しかしもし出なかったらどうしようという気持ちのために氏に言うことはできませんでした。しかたなく会場の中に入り、後の方の窓際にある席へ戻ることにしました。

戻ってみると橋口氏が空を指さしてキラキラ光る円盤が見えると言っていました。そしてそれはどんどん上昇しているそうでした。私はこのことだったのかと思い、氏の指さす方向を見ましたが分かりません。そこで先程感じた印象を確認するために、印象で感じたコースを指で描いて尋ねると、そうだということでした。このタイプの円盤は翌日の市内観光のときに度々出現することになりました。

母船の映像を透視

さて翌日の素晴らしい出来事に入る前に不思議なことを付け加えておきましょう。三時五十分から始まった久保田会長の宇宙的パワー溢れる講演の途中で、巨大な金星の母船の映像が透視映像のように見えました。私の目の錯覚かと思っていました所、他に二人の方も全く同じ映像を見たということを後に聞きました。上空からのパワーが先生の講演の時に送られていたのでしょうか。

五月五日（月）、快晴。市内観光には最高の天気です。バスには全国から参加された約六十名の方々がこの日の素晴らしい出来事を期待するかのように乗り込んでいました。

午前十時を少し過ぎてからステーションホテルを出発して一路浅間神社へとバスは向かいました。上空から必ず出現するというフィーリングがあります。

目撃前のフィーリング

先程からよくフィーリングを感じたというようなことを書いていますが、それはどのようなフィーリングなのだと思う方がおられるかもしれません。ここでそのフィーリングのことについて書かせて頂こうと思います。

Uコン96号に「想念放射、透視、UFO目撃」という題で拙文をのせて頂きましたが、その中に昨年の十月十四日の円盤目撃のことが出てきます。その目撃の時に思ったことは、ただ見ているだけではいけない、さらにそれを越えてスペース・ピープルの波動を感じてみようということでした。そして受けた感じを身体で覚えることにしました。それ以来、円盤を目撃する時にはそれに似た感じが起こるのが分かるようになりました。

また円盤とコンタクト（と言っても目撃するだけですが）をしようとするときにはそのフィーリングを自分から起こすようにしています。しかしこのフィーリングはなかなか起こしにくい時もあります。それでそのフィーリングをうまく起こすようにするには、円盤をよく見るようにして、そのフィーリングを蓄積していかなければなりません。

最近分かってきたことがあります。それは私が一人でいる時に目撃する円盤がそれぞれ同じような波動を持っているということです。これから考えられることは、円盤とコンタクトする人は、その人専門の波動を持った円盤とコンタクトするのではないかということです。つまりその人を専門に見て下さっているスペース・ピープルのグループがあるということです。

これで上空からのフィーリングを感じたということがお分かり頂けたでしょうか。うまく感じられるようにするには忍耐強い自己訓練が必要です。

バスの中は大騒ぎ

さてバスの中に戻りましょう。バスの前の方に座っている人々の間から、

「あっ、見える、見える」

「ほらあそこ、あそこ」

というどよめきが起こってきました。見るとキラッキラッと光る円盤が山の上をゆっくりと飛んでいます。まるで私達を祝福するかのように、鳥のように悠然と飛んでいるではありませんか。それを見失わないように私達はバスの中から慌てて見ていました。しかしバスは道なりに曲がって走っているので、円盤は途中で山のかげに隠れてしまいました。バスの中では、これからすごいことが起こるのだという気持ちが皆の間にあるようでした。

この興奮がさめやらぬままバスは浅間神社に着きました。バスを降りて少し広い場所に出ました。先程のことを思い出しながら歩いていると、道路のむこうの方向の空にかなり強い印象がありました。まだそこには円盤か母船がいるようでした。

神社の門には金色の大きな竜の彫刻がありました。そこでガイドさんの簡単な説明を聞いて中へ入りました。まだ塗りかえたばかりのように鮮やかな色をした装飾のある社が正面に見えます。ここで自由時間となりました。

多くの会員が神社ではなくて空の方を時々見ていました。私はただ、どこだどこだと見ているのは疲れるので、あまり上は見ませんでした。ここの神社は良いフィーリングを感じる所なのですが、その中でも特に良い場所はどこだろうと思って妻と境内の玉砂利を踏みしめながらゆっくりと歩いてみました。またせっかくここに来たのだから拝殿の中も見てみようと建物に近寄ってみました。

白いフォース・フィールドの円盤

よい印象を受ける場所に近付きなが

ら、私が時々見る円盤はこういう時には出てくれないのかな、もし近くにおられたら姿を見せて下さいと何気なく思いました。そこはとても良いフィーリングを感じる所でした。少しその場所に止まってそのフィーリングを感じていました。青い空、向こうの山々から降りて来るであろう風の爽やかさ、それらをも感じて深く呼吸をしました。

妻が歩き出したので私も歩こうとすると内部に印象が湧き起こってきました。

「待て、待って上を見ていろ」

と。足は歩こうとするのですが、どうしても見ていろという気持ちになり、立ち止まって上空を見ていました。爽やかなとても良いフィーリングです。しばらくして橋口氏が私のすぐ後ろに来て叫びました。

「あっ、あれ、あれ！」

と言って私の見ていた方向の空を指さしています。よく見ると白いフォース・フィールドに包まれた円盤が天頂方向へと上昇しています。私が時々見る円盤は白いフォース・フィールドに包まれているものがよくあるのですが、そのような円盤なのです。しかしいつもより重みがありました。この日にかなり出現したキラキラと光る円盤とは幾分違う波動を感じました。

この円盤を私と妻と橋口氏の三人で見ていると周囲に人が集まってきました。そして皆で、

「あっ、見える。あそこだ！」

と言いながら見ていました。高梨氏は双眼鏡でかなり細部まで見ていたようでした。しかしこの円盤に皆が気をとられている間に、その下の方にまた白い円盤がかなりの速さで二回左から右へと飛びました。これは橋口氏も見ていたようです。この時には円盤は少なくとも三機はいたのではないかと思われます。

先程の円盤は天頂付近で見えなくなりました。それから神社で結婚式を行う団体が入ってきたので巫女さんに道をあけるように言われました。迷惑になってはいけないと道をあけてその行列を見送りました。

断続的に光る円盤が出現！

山門の近くでは久保田先生がカメラを構えていました。先生と反対側の空を見ると遠くに飛行機雲のようなものが見えていました。しばらくそれを見ながら、どこかに母船がいるのだろうなと考えていました。すると夢想は誰かの声で破られました。神社の左側にいた人々が空を指さして何か言っているのです。見ると山の上をキラキラと光る円盤がゆっくりと左から右へと飛んでいるではありませんか。バスの中から見えた円盤と同じ飛び方です。自分から光っているのか、太陽の光を反射して光っているのか分かりませんが、間隔をおいて光っています。ビデオでは清水南氏が、カメラでは先生その他数名の方が撮影していました。あとで清水氏にビデオを見せて頂きましたが、見事に写っていました。

先程も書きましたが、浅間神社はとても良いフィーリングを感ずる所でした。どうしてかは分かりませんが、何か電磁気的にうまい関係にある所なのでしょう。それで円盤もここの上空に出現しやすかったこともあるかもしれません。考えてみますと円盤は少なくとも四機は上空にいたのではないかと思います。つまり浅間神社周辺に円盤が多くいたと思われるのですが。

集合の時間がやってきたので先程の目撃について皆で話しながらバスの方へ歩いて行きました。六十名もの人が円盤を目撃したというのはとても素晴らしいことであり、またとても重要なことであると思います。そして静岡支部大会の翌日に出現してくれたということは、来ていた人々を祝福し、激励をしに来て下さったのではないかと思います。

『宇宙からの訪問者』の中でスペース・ピープルが

「全人類の兄弟として私達は、私達の手が届くことのできる人で、しかも私達の援助を望んでいる人のすべてを喜んで援助するつもりです」

と言っています。確かにスペース・ピープルの方々は援助して下さっています。それはまじめに『生命の科学』を研究している人にはとてもよく分かることではないかと思います。同じ『宇宙からの訪問者』の中で火星人のファーコンが述べています。

「ご存知のように、人間は生き方を変えようとしない限り、救われるものではありません。〝無限なる者〟の法則をまじめに追求しようとする地球の少数の人々は、他人を導くように努力する必要があります。そうすれば他の世界の私たちもその人々を助けるつもりです」

そこで探求する道しるべとなるものがアダムスキー氏の残して下さった宇宙哲学であり、その中でも特に『生命の科学』であろうと思います。この書物を学び実践することによって、人間本来の持っている力が発揮されて来ることは、多くの方々の実例を見ても明らかです。

『生命の科学』のあとがきには、

「『生命の科学』講座はスペース・ブラザーズによって伝えられた知識です。それゆえこの世界を良き社会にしようとしている彼らブラザーズに協力する人はだれでも彼らからの援助を受けるでしょう」

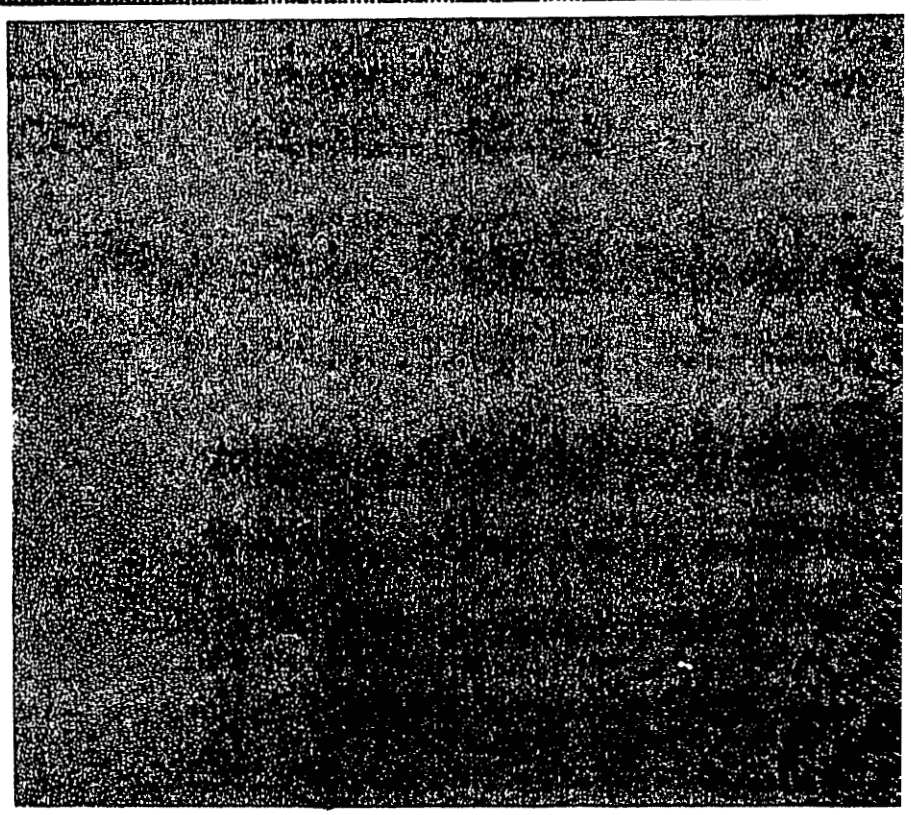
とあります。

つまり彼らは『生命の科学』を研究する人を援助しましょうと言っているのです。自分の力が出せるように援助して下さり、そしてその波動が周囲に

浅間神社上空のUFO

写真上は5月5日，静岡市内の浅間神社で清水南氏が8㎜ビデオカメラで撮影した写真の1部分を拡大したもの。中央左上に写っているのが断続的に光りながら飛んだ円盤状UFO。京セラ8ミリビデオカメラ，6倍ズーム。

写真下は同じ物体をほぼ同時に久保田会長がスチルカメラで撮影したもの(矢印)。
ニコンFE2，100㎜レンズに2倍コンバーター使用。モータードライブ装着。



▲駿府城趾公園の家康銅像前にて(久保田会長撮影)。

良い影響を与えるようになる。これ程素晴らしいことはないと思います。

駿府城趾でまたUFO出現

バスは浅間神社を出発して数分後、駿府城址に着きました。お堀の横にある体育館では中学生か高校生でしょう、柔道大会が開かれていました。その体育館の前でバスを降り、道路を横断して堀の上の橋を渡って城跡の公園へと行きました。公園入口の風にそよぐ木々は私達の心をなごやかにしてくれるようでした。

城跡の右手方向に強いフィーリングを感じました。見るとまるでカツオブシのような形をした大きくてまっ白な雲が一つありました。印象はそこからやってきているようでした。中に何か巨大なものがあるような感じです。その雲を見ていると他の人達はどんどんと歩いて行ってしまうので、遅れてはいけないと後からくっついて行きました。

広々としたグランドを通り、鷹狩り姿の家康の銅像の所へと来ました。ここで久保田先生自らカメラを構えて全員の記念撮影となりました。そこでふと背景となる空を見て驚きました。家康の像のまうしろに先程見た雲があるのです。まるで私達がそこに来るのを知っていたかのように。

撮影が終わって皆はまた空にUFOが現れないかと見上げていました。しかし私はその反対の方向を見たくなってそちらを見ていました。しばらく遠くの空を見ていると、キラッと光ったものがありました。そして少したって後から橋口氏が来て、同じ方向にUFOが見えたと言っていました。

後ろを向くと家康がお手植えしたというミカンの木の所に数人の人が集まっていました。至近距離で二、三人の人が不思議な形の物を見たということでした。ミカンの木の上に滞空しており、それから飛んで行ったということでした。小型円盤だったのでしょうか。

集合までにはまだ時間があったので妻と一緒に公園の池の周囲を歩いてみました。色とりどりの花がうまく植えられており、それらが陽に映えてとてもきれいでした。

トイレへ行って出てみると、皆帰り始めていたので慌てて二人で走って行きました。団体行動を乱してしまったかな、こんなことではスペース・ピープルも考えてしまうだろうなと思い、急ぎました。広いグランドに越崎さん達がいましたので、ほっとしてそのグループに合流しました。遠くの空に見えている飛行機とそれによってできた雲を見ていたそうでした。

少し下に視線を移すと木々の上を鳥が一羽飛んでいました。あれはUFOではないなと眺めていました。遠くて黒い点しか見えないのですが、鳥のよ

うだと思ったのです。しかしその鳥はまっすぐに向こうへと飛んで行きます。羽ばたきも何も見えません。そこで他の人に、

「あそこに見えるのはなんだろう」

と言いましたが、見つからないようでした。大きな木のかげに隠れてしまったので見えなくなったのですが、また出てくるような気がしたので、

「もうすぐ出てきますよ」

と言いました。そこで双眼鏡を持っていた人が探しました。そして

「あっ、キラキラ光ってるぞ」

と言うのです。皆でよく見ると、それはキラッキラッと光るまぎれもない円盤でした。肉眼でもよく見えました。やはり浅間神社の時に見たキラキラ光る円盤と同じ光り方でした。飛行機はもうだいぶ移動していましたが、その遥か下の方を飛んでいました。しかしここに止まっているわけにはいきませんので、待っているバスの方へと急ぐことにしました。

午前中は三カ所であのキラキラと光る円盤が出現しました。

午後からは登呂遺跡へ行きましたが、とにかく午前中フィーリングを感じようとしてばかりいたので少々疲れも出たのでしょうか、上空からのフィーリングはそれ程強く感じられませんでした。空を見ている方はたくさんおられましたが、私はこのフィーリングからするとたぶん出現しないだろうなと思い、遺跡を見学していました。しかしここの遺跡はよくある遺跡特有のじめじめとした暗さが感じられず、明るいフィーリングを感じます。たぶん弥生時代にここに住んでいた人々が明るい人々だったのでしょう。

その後バスで美術館へ行きましたが、やはり上空からはそれ程強い印象は受けませんでした。これはある理由によって、ここで出現しない方がよいであろうと考慮して下さったのかもしれません。が、遠くからこちらが見える位置に滞空していたのかもしれません。

今回はとにかくよくフィーリングを感じてみようという目的がありましたので、私にとっても貴重な体験となりました。このような体験をさせて頂いた静岡支部の方々、野口氏、久保田先生、そしてスペース・ピープルの方々に感謝致しますとともに、私自身これからも『生命の科学』をしっかりと勉強していこうと思います。そして地球が平和な良き社会となっていきますようにに頑張っていこうと思います。

編者付記

五月四日の静岡支部大会は百名の出席者があり大盛況だった。三人の大講演が続いて私（久保田）の持ち時間が少なくなり、質疑応答は省略されたが、これは労力軽減のためと解釈して主催者側のご好意に感謝した。

夜の夕食会も盛大だったが、私はビールを正味コップに二杯、ワインをグラス三分の二ほどにとどめ、一階で行われた二次会も遠慮し、早目に就寝した。翌日の観光用に体力を維持するためと、観光中にUFOが出現してどえらい騒ぎになるような予感があり、斎戒沐浴の意味で飲食を避けたのだ。

翌日は前日までの雨天がウソのように晴れ上がり、紺碧の空が展開。絶好のUFO観測日和となる。私の多年の経験では曇天よりも晴天がUFO目撃の確率が圧倒的に高い。

十時に六十名がバスでホテルを出発してまもなく車内で歓声がとどろき騒然となった。一斉にUFOが出現したと叫ぶ。見ると前方の空中を断続的に燦然と輝きながら左から右へ水平に飛ぶ物体が見える。目撃時間は六、七秒なのでカメラを構える余裕はなかったが、確かにこの目で見た。詳細な形状は不明なるも全体が規則的に一定の間隔をおいて強烈に光る性質のものだ。飛行機その他の確認物体ではない。もう出た、幸先がよいぞと思いながら浅間神社へ向かう。

浅間神社でUFOを撮影！

十時半に宮ヶ崎町の浅間神社に到着。四万五千平方メートルの広大な敷地に華麗な二十四棟の社殿群を配置したこの社は古代に創建され、鎌倉時代以降歴代幕府の崇敬を受け、文化元年（一八〇四年）から六十年の歳月と十万両の巨費を投じて再建された。現在の社殿群は当時のものだ。日光東照宮を思わせる派手な色彩と彫刻類が鮮やかで、神社にありがちな陰湿さがない。これなら外人観光客も喜ぶだろうと思いながら境内へ入る。

しばし散策。一行もほとんど空を見上げているばかりで、他のお客さんには異様な団体に見えただろう。

十時四十分すぎ頃、私は境内中央の舞殿の左方にいて、なんとなく正面の大拝殿の方を見ていた。

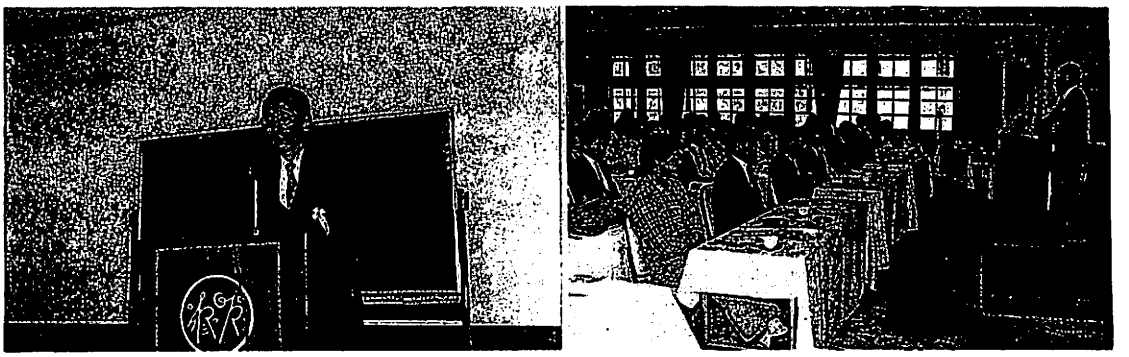
突然、喚声が上がった。

「円盤だーっ！　飛んでるぞーっ！」

一同が指さす方向を見ると、大拝殿の左手うしろの森の上空を、水平に左から右へ断続的に強烈に光りながらゆっくり飛ぶ物体が見える！

急いでカメラを構えた私はモードライブのコンティニュアスでもって機関銃のように撮りまくった。といっても物体が森の後方へ隠れるまでの数秒間だから、実際に撮影したのは八カットで、その内物体が写っていたのは三カットだけだった。百ミリレンズに二倍コンバーターをつけた上、絞りをf8にしていたのでシャッタースピードが落ちてブレたが、とにかく写った‖写真。

静岡でこういうことが発生するような気がして、少し前に中古品のモータードライブを買っていたのだが、これ



▲左は講演中の野口静岡支部代表。右は久保田会長（撮影　筒井　徹）

が絶大な威力を発揮した。これを使用しなかったら一カット撮るのが精一杯だろう。

清水南氏（山梨県）は8ミリビデオでキャッチした。あとでモニター操作により見せてもらったら見事に写っていた。これで見ると円盤型物体であることがわかる。断続的な輝きはまるで呼吸しているかのようだ。私たちの目を引こうとしてあのような光り方をしたのだろう。

UFO撮影に成功するには常時カメラを携行し、いつでも写せるように最適の状態にしておく。出現したら慌てふためくだけで思考は停止するから、シャッタースピード、絞りなどはあらかじめ空の明るさに合わせて設定しておく。シャッターがオートなら絞りはなるべく開いておくと高速で撮れる。空に向けた場合はオートフォーカスより手動が有利。望遠レンズは二百ミリまでが使いやすいなど、いろいろ言えるが、先号表紙に掲載された降籏和彦氏の素晴らしいUFO写真のごとく、撮れるときは千円余の使い捨てカメラでも撮れるのだから、問題は機材よりも撮影者本人の真剣さとそれに応えるUFO側の配慮にあると言えそうだ。単なる好奇心や功名心にかられるだけでは撮影はむつかしい。UFOが出てこないからだ。月並みだが、やはり撮影者の純粋さ、宇宙的カルマ、その他の要素がからんでくるようだ。

清水南氏からの報告

静岡支部大会での御講演、大変有難うございました。「マインド空間より意識空間へ移住すること」とのお話は私達会員にとりまして非常に重要な課題であり、これから努力をしてゆかなければと考えております。

ところで今日、浅間神社上空のUFOを撮影したビデオの引伸し写真が仕上がってきましたので同封いたします。やはり球形体のまわりにフランジが付いているような形に見えます。

撮影した日の観光バスの中で、私の座っていた中央の座席からも右側面に輝きを変化させながら飛行するUFOが見えました。この後、浅間神社境内上空に別の型のUFOが長い時間出現したようですが、私には双眼鏡がなく見えませんでした。

ここでの見学時間が終わったため門の方へ出ようとした時、何気なく後ろを振り返ると森の上空左手に先程バスの中で見たのと同じ型のUFOが輝きを周期的に変えながら右手の方へ移動しておりました。すぐみんなに知らせると同時にビデオカメラを回しました。ズーム6倍で撮りましたが、UFOの写っている時間は十一秒位です。最近8ミリビデオカメラをUFO撮影の目的で購入したばかりなのに早速UFOを撮影出来たのは大変幸運でした。しかしこの撮影成功のかげには、スペース・ピープルの配慮がうかがわれます。その一つにはバスの中でも見える位置に比較的長い時間出現した事。また輝きを激しく変化させて目につき易かった事。そしてビデオに撮った時は森の上を水平に飛行して、カメラで撮るのに非常に都合の良い速度と場所に出現した事等です。

▲浅間神社で上空を見る人々。

これらの事を考えてみますと、スペース・ピープルは私達GAPの活動を強く援助してくれている事を感じます。そして今度の事をきっかけにこれからもGAP活動を積極的に行って、更に良いビデオを撮って皆さんに見ていただくよう努力して行きたいと思っております。

Does Our Solar System Have More Planets?

太陽系惑星にまだ仲間がいる?

アダムスキーの十二惑星説に近づいてきた……

■十番目の惑星が存在?

別掲「科学」欄にソ連が太陽系の第十番と十一番惑星の存在を推定しているが、アメリカからも第十番惑星存在推測の報道が出た。七月一日付の朝日新聞によると次のとおり。

「太陽系に十番目の惑星が存在する可能性がある、と米航空宇宙局（NASA）の天文学者が六月三十日、記者会見で明らかにした。太陽系脱出をめざして飛行中の惑星探査機パイオニアから送られてくるデータから推測される結果だ、という。

発表したNASAジェット推進研究所のジョン・アンダーソン博士によると、百五十年前まで逆のぼった観測結果で、天王星と海王星の軌道がわずかに引き離されていることがわかった。太陽以外の天体の影響で惑星の運動の仕方がずれる、摂動と呼ばれる現象だが、パイオニア10号と11号の観測データでは、天王星と海王星の摂動に影響を与えたと思われる引力は全く観測されなかった、という。

そのため同博士は『これは十番目の惑星が存在し、かつて天王星と海王星に接近した時に軌道に影響を与えた結果と考えられる』という。この惑星は地球の五倍程度の質量で、太陽の周りを七百年から一千年かけて公転する不規則な軌道上を運動している、と同博士はみている。

太陽系では、太陽から最も離れた九番目の惑星、冥王星が一九三〇年に発見された。もし、同博士の予測通り十番目の惑星が見つかれば、木星、土星、海王星、天王星に次いで五番目に重い惑星になる。パイオニア10、11号は七二、七三年に打ち上げられ、地球からそれぞれ六十四億キロ、三十二億キロ離れた宇宙空間から毎日、観測データを送ってきている」

右と同じ内容の記事が七月二日付毎日にも出たがこちらは短い。後半で次のように述べている。

「現在までに発見されている九惑星が同一平面上の軌道を回っているのに対し、この十番目の『惑星X』は、これとほぼ直角をなす軌道を周回し、大きさは地球の五倍あるはずだという」

アダムスキーによれば、わが太陽系は九個ではなく十二個の惑星から成っているという。科学もこの説に近づくようだ。

■かつては火星にも大量の水

米学者が火星に大量の水があったと推測した記事が六月二十七日付河北新報に短く掲載された。ただし現在の火星ではなく大昔のことを言っている。

「太陽系惑星の中で地球に最も似ているといわれる火星も大昔には、火山活動によって惑星内部から大量の水が表面に噴き出していたと米国の地質学者が六月二十六日発売の米科学誌『サイエンス』に発表した。

ロナルド・グリーリー・アリゾナ州立大教授は、火星探査機マリナー9号やバイキング1、2号の観測で明らかになった火星表面の地質図を基に過去、噴火に伴ってどの程度の水が内部から噴き出したかを計算した。

この結果、誕生後二十億年（太陽系の年齢は約四十六億年）ほどの間に、火星表面を同じ厚さで覆うとすると四十六メートルの厚さに相当する水が噴き出した、と推定できるという。

■ソ連上空にUFO?

英国の旅客機乗員がソ連上空を飛行中、二個のUFOを目撃したと報告したが、またも天文学者によって否定されてしまった。日刊スポーツ六月二十九日付は次のように伝えている。

「英国航空（BA）のボーイング747ジャンボ旅客機がことし四月、ソ連カザフ共和国上空で未確認飛行物体（UFO）に遭遇していたと二十七日付の英紙タイムズが報じた。

同紙が報じたBA機のアンソニー・コリン副操縦士の証言によると、ロンドン発バンコク行きBA009便が四月二十二日、ソ連上空を飛行中、突然、機首右方向に『二つの青白い光を点滅する飛行機のようなものが現れた』。飛行機なら航行灯は赤なのに、緑色だったという。

この飛行物体は同じ高度でBA機に向かってきたため、コリン副操縦士らは進路を変えてこれを避けたが、機首前方約一・六キロのところを右から左方向へ猛スピードで通過し、地平線へ消えた。通過の際には小さなライトの長い列が見えたという。

ソ連の管制当局は当時、他の飛行機は飛んでいなかったとしており、コリン副操縦士は『決して飛行機ではなかった。五人の乗員のだれもがかつてあのようなものを目撃したことはない』と強調している。

しかし英天文学協会の人工衛星部長は『落下してきた人工衛星の大気圏再突入を目撃したのだと思う』とし『通常約百三十キロの高度で燃え尽きる人工衛星の光が、わずか十六キロ程度の高度を飛ぶ飛行機から見えたとすると、遠い光を見誤ったのではないか』と推測している」

Flying Saucers Appear Responding To Continuous Telepathic Messages

連夜のテレパシー送信に応じて出現した円盤

春川正一氏は真実のコンタクティーだった！

片岡豊

今、私の傍には本誌97号があります。その表紙に載せてあるUFO写真を見ながらペンを取っています。丸い大きな底部、そして全体の大きさに比して少し小さめのUFOを取り巻くように取り付けてあるフランジ(周縁部)。全体から放たれる高次元な波動が私に心地よく伝わってきます。

なぜ私がこの写真に親しみを感じてペンを取ったかと申しますと、実は私と家族は一緒に同型のUFOを昨年目撃しているからなのです。

本誌93号で初めて春川氏の連載記事「私は別な惑星へ行ってきた！」を読んで、その内容の凄さ、そして文中より発する高次元な波動に誘われ、その日からわが家の庭に立つようになりました。夜の外気が肌寒くさえ感じられる一年前のことです。

連日夜空に呼びかける

わが家の庭はほぼ真南に位置し、あまり広くないので私はいつも南南にむかって立っておりました。地理的には自宅から四百メートルほど南方に芦田川が西から東に伸び、さらに大きく蛇行し、南へくだり、瀬戸内海へと注いでいます。

最初は庭に立ち始めて十分間ぐらいで家に引っ込んでしまいましたが、日数がふえるにつれて三十分、一カ月も過ぎる頃には一時間以上、七月に入る頃には平日でも三時間近く庭に立つようになっていました。夜空を見上げるのが楽しくて仕方がないのです。金曜日の夜などは明日は休日だとばかりに夜九時頃から翌朝三時すぎまで夜空を見上げていました。

初めの頃は顔を見せていなかった木星がいつのまにか火星を追い越して、秋になる頃にはさっさと西へ姿を消すようになっていました。

天文マニアでもない私をこれほどまでに庭にクギ付けにさせた理由は何だったのでしょうか。私は庭に出ますと夜空を見上げて、まず初めに星たちに「こんばんは。いつも気持よさそうに光っているね」と心の中で声をかけます。それから「スペース・ピープルの皆さん、こんばんは。いつも応援を有難うございます」と無言で話しかけるようにしています。するとそれに答えるかのように光体が視野を横切って行きます。

しばらくしてまた話しかける。するとまた現れるといった具合です。あまり間隔が短いと常識に欠けると思い、ある程度間隔をあけるようにしていました。こうして私が庭に立っている時間が少しずつ長くなっていった理由がおわかりいただけたと思います。

もう一つ理由があります。それは夜も更けてきますと、昼間の生産活動で汚れた空気が澄んできて、夜空が非常にきれいに見えるようになり、宇宙からの波動もなんとはなしに多く降り注いでくる感じを受け、心身共に気持が良くなってくるのです。

アダムスキー型円盤の編隊が飛ぶ

七月二十九日の真夜中十二時を過ぎた頃、四機編隊のUFOが南からカーブを描きながら東方へと飛んで行くのが見えました。このときのUFOはまさにアダムスキー型で、三個の球型着陸装置が見えました。図に描くと次頁のとおりです。

高増山の上空あたりから自宅の上空にかけて大きくカーブを描きながら、ときおり小さく左右にスライドするように東方へ飛び去って行きました。

このように毎夜楽しい時をすごしながらも、この頃はまだ私の心の片隅にわずかながらも、もしかするとあれは錯覚ではないだろうかという愚かな考えがつきまとっていました。

秋も深まった十一月の最初の日曜日、私の人生にとって最も重大な事件が起こりました。それまでの私はアダムスキーを媒体として伝えられた高次元な宇宙哲学に引かれ、その高度な内容に共感しつつ、自分が求めていた真実に出会った喜びを心の励みとして、いくつかの疑問を押し消すかのごとくひたすら信じて久保田先生をはじめ皆さんについてきました。

しかしその日を境に一片の疑問もない百パーセントの信頼へと変わっていったのです。今回の一連のUFO目撃体験で私が得た最大の収穫はこの点にあります。

重大な目撃事件が発生！

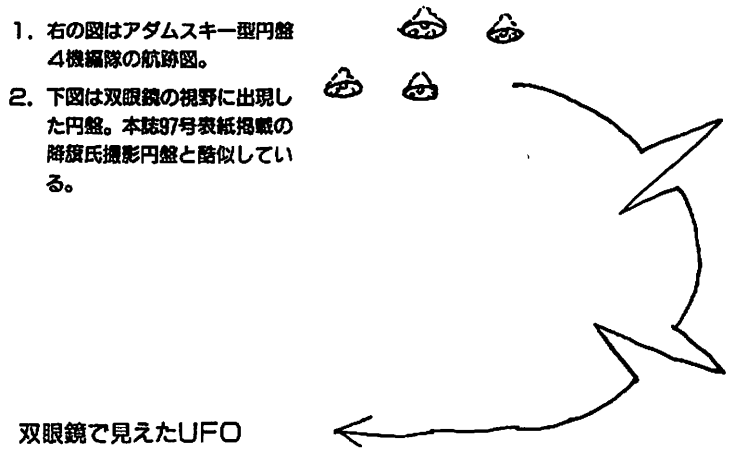
その日曜日、私たち家族は弁当を持って紅葉もさかりの近くの山岳地帯へピクニックに出かけることになりました。自宅からほぼ真西へ十五キロメートルほど車で行きますと、府中市のは

ずれに近い所に三郎の滝という幾段にもなった小さな滝があります。この地は夏には滝すべりの子供たちでにぎわう所ですが、秋ともなるとあまり人影は見えません。

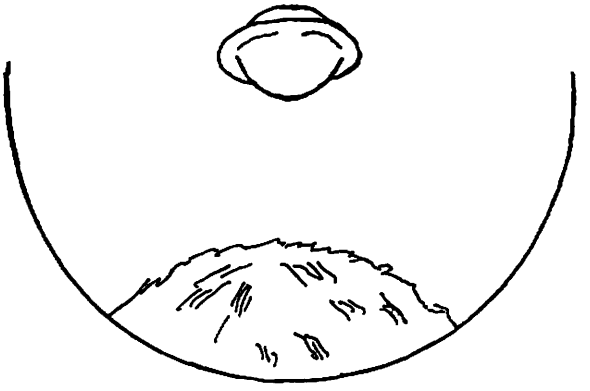
私たちは滝から少し離れた第二駐車場に車をとめました。そこには都合のよいことに他に車はいません。早速お弁当を開いてまず腹ごしらえをすることにしました。私は屋外に出るとたくさん食べますので、妻がいつもお弁当を多目に作ってくれます。

お腹もふくらみ、ちょっと一服。子供たちが車からラケットを持ち出し、「バドミントンをやろうよ」とせがみますので、休む間もなく相手をします。一時間ばかり遊ぶと、さすがに三十歳なかばの体では疲れてきます。また一服と座席に座り込んだ私は、なにげなく背く澄み渡った秋の空を見上げました。もう時刻は二時近くになっていました。

1. 右の図はアダムスキー型円盤4機編隊の航跡図。
2. 下図は双眼鏡の視野に出現した円盤。本誌97号表紙掲載の降旗氏撮影円盤と酷似している。



双眼鏡で見えたUFO



私は思わず「ああ、あれ」と指さしながら言いますと、妻が「なによ」と振り向き、あわてて子供たちに「あれ、あれ」と言いました。すると子供たちは「UFOだ！」と大きな声で叫びました。

私はいつも車に双眼鏡（二十倍）を乗せてありますので、早速その双眼鏡を取り出し、開いたままの車のドアーに双眼鏡をしっかりと押しつけ、レンズに飛びつきました。なかなかピントが合いません。「ピントが合った！」

しばし我を忘れてその突然の来訪者に見入っておりました。しばらくするとその来訪者はゆっくりと移動を始め、「また来るよ」との印象を残して山のむこうへ消えて行きました。その間三分たらずの時間でした。事実その夜、ふたたびUFOが現れました。

春川氏は正しかった

昼間のUFOの様子を少しくわしく説明しましょう。

一、デザインはシンプルで不要の突起は見当たらない。

二、アルミ合金のような光沢で、反射してピカピカ光らない。

三、重量感があり、揺れ、震動が全くない。

四、全体にくらべてフランジ（周縁部）の比率は小さい（フランジで空気抵抗を受けて飛ぶ構造ではない）。

五、騒音が全くない。

まさに容姿は本誌97号に紹介された降旗さん撮影のUFO写真とまったく同型でありました。

しかし私はこの一連のUFO目撃のもつ意味の重要性に気付きませんでした。本誌97号を手にした瞬間、私の目撃したUFOが降旗さんの撮影されたUFOと同型であること、また降旗さんと私は共に本誌に掲載された春川氏の体験を知った日から毎夜、夜空にむかって想念を送り続けていた事実。これらの条件を照らし合わせて考えてみるとき、初めてその意味に気付き、今私はペンを取らずにはいられませんでした。

これらの事実を示すまでもなく、春川氏が久保田先生を通じて本誌上に載せられた数々の高次元の記事を読まれた方々は充分にご理解されているとは思いますが、再認識の意味を込めましてあえて言わせていただきますと、「春川氏は真実のコンタクティーである！」の一言につきます。

今日の情報過多の社会ではノイズも多く、混乱を起こしやすい状況下にさらされています。何が真実であるかをしっかりと見定め、高次元な波動に従いたいものです。

春川氏の連載記事は98号をもって終わるとのことですが、非常に寂しい思いがします。ぜひとも第二弾、第三弾の企画をお願いいたします。（文・編集者）

A Lecture on Adamski's Cosmic Philosophy

万物の実体と想念の重要性

日本GAP沖縄支部月例会における会員講演より

知念清邦

司会者挨拶

〈今日はこれから知念さんのご講演をお聴き頂くことになりますが、ここにあります講演の要点のメモを拝見しますと、これは宇宙哲学の真髄に深くせまり込んでおりまして大変に楽嗜らしい内容です。ご期待下さい。

ところでアダムスキー氏やスペース・ピープル（注＝進化した別な惑星の人々）は、地球人が創造主と呼称しているのに対して、彼等も地球人のレベルを遥かに超えたところで理解し、知っておられて、それで創造主とは呼ばずに「宇宙の英知」とか「宇宙の意識」とか、あるいは「至上なる英知」とも「宇宙の力」とも表現しておられます。これまで地球人は創造主を、たとえば宇宙の中の異次元のどこかに一個の霊的な存在として想像したり、あるいはその他、人さまざまな観念でとらえていたし、現在もそうですが、これは誤りで、これをスペース・ピープルの方々は「宇宙普遍としての実在」「万物の内部に遍満する〝因〟」あるいは「生命力」あるいは「知性」であるという事実に気付かせようとしている訳です。

どこか遠い所にあると想像していたものを実は身近に、というよりも万物は実は創造主（宇宙の英知）ご自身がみずからをさまざまな姿にして具現しており、創造主は人間や万物の内部に宿っておられるのだということに気付かせようとなさっておられる訳です。無限の宇宙こそが実は創造主なのであり、それ（宇宙）はある知性の海なのだと。万物はその（宇宙の）意識なのだと。

この知性または意識はあくまでも知性あるいは意識であって、霊ではありません。

霊とはあくまでも地球人式の発想から出た言葉で、この霊の正体はといえば、実はそれは人間の想念エネルギーによるものです。

話がちょっとはずれましたが、とにかく初めのうちは以上の事がとらえにくいといいますか実感しにくいところだと思います。

他方、これはこの「宇宙の意識」の性格的な面に関する表現になると思いますが、それを「大いなる理性」とも言っておられます。

これについて私は以前によく考えたことがあるのですが、今でもときどき考えますが、その性格的な面を考えてみますと、これはもう人間の思考尺度ではとうてい理解しきれないだろうと思います。考えれば考えるほど解らなくなってきて、「あなた（宇宙の意識）という方は私には理解しきれません。勝手にして下さい！」とでも言いたくなるような所へ落ち着いてしまうんです。おそらく人間がいかに進歩しても「宇宙の意識」の性格的な面を完全に理解しきってしまうことはできないのではないでしょうか。

スペース・ピープルの方々はそれを「大いなる慈悲」とも言っておられますがね。

とにかくこの事につきましては皆様も考えてみるとよいでしょう。今日は私の講演ではありませんので私の前置きはこの辺でやめにしまして、早速知念さんのご講演をお願いいたしましょう。

沖縄支部代表・新里義雄〉

こんにちは。知念です。こうして人前で何かのまとまった事をお話するのは初めての経験で、慣れておりませんので、自分の思いを上手にも充分にも伝えられるとは思えませんが、その点はどうかお許し頂きたいと思います。

アダムスキー氏は『宇宙哲学』の中で、ヨハネの福音書の初めの部分を解説して、「初めに意識だけがあった。意識は神と共にあった。そして意識は神である」と述べておられます。

たしかに「宇宙とは唯一絶対意識であり、それが活動している無限の世界である」というのが完全な概念だと思いますが、このことは皆様も読んだり聞いたりなさってご存知と思います。また実感なさっておられる方もいらっしゃるでしょう。

人間界の活動を見ればわかりますように、意識なしには物は創造されませんね？　何を思いつくにせよ、造るにせよ、根源は意識になります。そして万物は空間から現象化しました。宇宙空間が意識の海でなければ万物が現象化するはずがありません。

その「根源なる知性」をアダムスキー氏やスペース・ピープルの方々は「宇宙の意識」とおっしゃっておられるのだと思います。そしてこれは「宇宙は意識」といってもよいのではないでしょうか。

宇宙は意識。この言葉を今ここで少しの間かみしめてみませんか。

そこで今日は皆様に、この「意識」の活動あるいは行為とは何かという角度から、これについて一緒に考えてみて頂きたいのです。意識の行為は何だろうかと。

私達の行為というものは身体を動かしたり、あるいはある状態にしておく

ことですが、「はじめに意識だけがあった」というように、「意識」だけの場合その行為とは何だろうかということです。

そうですね。それは思考ですね。それしか考えられません。想念と言った方がいいと思います。でもここでは思考と言った方が話の内容が複雑化しないで済みますのでこの言葉を使用することにします。

思考が「意識」がする唯一の行為であり全てだと思います。そうしますと結局現象の世界というものは、思考によって条件づけされた活動の、あるいは波動の結果、いわば波動のおりなす模様のような物であるということになりますね。これを換言すれば、「意識」は思考することによってみずから現象化するということになります。

ここでもう一度初めに返って考えてみましょう。万象の根源にあるのは、「意識」以外にはないのです。そうは思えませんか？　この万象の根源をあの方々が「意識」と呼称なさっておられるのは実に適切だと思えるのです。意識のないところからは思考または想念は発生しません。そうでしょう？

私はこの「宇宙の意識」を全能の知性だと感じております。

とにかく、アダムスキー全集第四巻「宇宙哲学」の十八頁のあたりに述べられているのは、この辺の重大な真実についてのことだと思います。

結局宇宙は、思考（想念）の発信源が直接に「宇宙の意識」によるものであったり、現象物を通じてであったりしている訳です。

たとえば私達は「自分」という「意識体」です。「人間」と呼ばれています。しかも人間ばかりか万物は皆「意識体」ですよね。ですから万物は皆それぞれパターンは異なっていても「自分」という意識を持っているはずです。これはたとえば万物が想念または波動を放っているということでも証明されるのですが、このことは感じる方もいらっしゃれば、お聞きになってご存知の方もいらっしゃいますね。

万物が「想念波動」を放つためには思考しなければなりません。そして思考するのは「意識」です。そうですね？

ところでそうやってここまで考えてきまして〝それじゃァー〟という訳で周囲を見渡しますと、ここでなおも、宇宙には何だかめったやたらに沢山の意識があるように感じてしまわれる方がいらっしゃるかもしれません。しかしこれはちがいます。

「宇宙は唯一絶対意識」というのが完全な概念です。

そこでそれではいったいさまざまな創造物とは何なのでしょうか？

これが実は意外で、しかも簡単な原理だったのです。こういう事なんです。「さまざまな現象物（万物）とは、それぞれが皆「意識体」であり、しかもそれは唯一絶対意識すなわち、「宇宙の意識」が、ご自身の目的の遂行のための手段として、みずからをさまざまに条件付けして思考しておられる状態である」と。

こうしてここで更にお気付き頂きたいことがあります。それは何かと申しますと、それぞれの「形」、人間でいえば「人体」ということになりますが、万物はそれぞれの条件下で活動＝思考＝生活をするための完璧な形あるいは完璧な手段なのだということです。

そういうことにはなりませんでしょうか？　なぜなら万物は、「宇宙の意識」が〝これで良し〟という「形」でみずからを表現なさっておられるはずですから……。

こうして解ってきますと結局「形」（フォーム）というものは「宇宙の意識」の方法あるいは手段にすぎません。万物も、私達の人間という状態も方法でしかないのです。

だから私達は「形」を見ずに、その物の正体（意識）を見るべきです。その人を「意識体」として見るべきです。形や姿や見かけにごまかされない事です。その物は「意識体」なのです。

ところで、人間の造る形ある物は何であるにしろ、そもそもの基は〝想念〟ですよね。たとえば今この部屋の中にある物を見渡して見ますとみんな人間の想念をあらわしています。すべての物が結局は想念すなわち思考が原因になっています。そうでない物が一つでもありますでしょうか？　絶対にありませんね。

何事につけ、まず思考が原因ということになります。そしてこれこそがすべての人に気付かれなければならないと思われる、人間にとっての最重要事ということになりますが、それは想念または思考は現象になるという事です。

確かに今ここにある物は人間の手によって、身体を動かすという行為によって一個の形になりました。しかしそれはその前に思考が原因になっております。そして私が今から話を進めようとするのは、その原因の段階の思考についてです。

皆さん。「意識」の行為は思考がすべてであり、それによって万物は現象化したということ、そして思考が現象になるのがこの「宇宙」という絶対世界の中の一大原理だということはご理解いただけておりますでしょうか。他方、人間が宇宙の子「宇宙の意識」の子であるということはまちがいのない真実ですね。ならば人間が「宇宙の意識」の持つ資質を受け継いでいるということも真実のはずです。そうですね？　それは自然界で示唆されている絶対的な法則です。

それでは、私達人間が親である「宇

宙の意識」から受け継いでいる最重要な資質とは何でしょうか？　もうお気付きだと思います。そうですね。それは人間も思考パワーあるいは想念パワーを現象化させることが出来るという資質ですね？

僭越な言い方になってしまいますが、皆様に充分に時間をかけて洞察を加えて頂きたいことはこの点なのです。

私はこれに気付いたとき何だか嬉しさに加えて実は恐くもなりました。人間はこの想念パワーをいかようにでも応用出来るはずだからです。

私達の一人ひとりに、ある人の身の回りに、本人に発生する出来事や現象（心霊現象ですらも）は、すべてがとは言えないかも知れませんがそれらは主に本人の思考習慣――習慣想念の性質の結果なのです。

それらは本人の内部に在る「意識」に本人が思考習慣という行為でもってプログラミングされたものの現象化であり、今思考したものの結果なのです。今思考したものは今は現象化または実現しなかったとしても、ほうっておけば必ずいつかは本人に現象化することになるのです。それはダイレクトに現象化することもあります。

つまり、神において、「宇宙の意識」においてそうであるように人間においても、本人が気付こうと気付くまいと思考の性質がすべての出来事――現象を引き起こしているのです。この点が私達が注意しなければならない最も重要な所なのです。

あまり詳細にお話し致しますことはここでは控えたいと思いますが、たとえば物や現象とは何かと申しますと、それは「はっきりと、こうなんだと確信された考え」です。

皆さん。万物は「宇宙」の絶対確信の現れです。そして人間は「宇宙」の子です。だから人間にも確信されたものならば本人に実現するのです。それが人間が親（宇宙）から受け継いでいる重要な資質と申しますよりも「宇宙の意識」の一部は私達に密着しているから……。

大変に僭越ですが、以上に申し上げました事柄につきましてよく考えてみて頂きたいと思います。そして僭越のついでに今一度、絶対にお忘れになってはならない事、あなたのために重大な、忘れてならない事をおたずねします。

今、あなたの目の前におられる方はどなたでしょうか？

そうですね。自らを人間という条件下に置いて思考しておられる「宇宙の意識」御自身です。

そしてあなたはどなたでしょうか？

まったく同様ですね。

これまで、人間には神性または仏性があるといわれてきましたけれども、実は以上に申し上げましたことが、この言葉の真意であった訳です。

また、万物は一体であるということの真意も、いまだご存知でなかった方には、これでお解りいただけると思います。

そして何故に人間には、どんな人間にでも内奥には平和の望みや幸福の望み、そして富や健康の望み、その他あらゆる良き物の望みがあるのかということの理由もお解りになるのではないでしょうか。

それらは皆、内部の「宇宙の意識」にうながされたものなんですね。

人間というものは、多種多様な条件（手段）の中でも最高の条件であり、それを通じて思考しておられる、すなわち活動しておられる「宇宙の意識」そのものです。このことは、たとえある人が今はどんな状態にあろうと、人殺しであろうと、情けない状態にあろうと、賢者であろうと、愚者であろうと、聖者であろうと、たとえスペース・ピープルの方々であろうと、そんなことには一切関係なく、だれでもがその実体は「宇宙の意識」そのものではないかと申し上げているのです。万物は「宇宙の意識」以外の何者でもありません。以上のことをふまえて「生命の科学」を読んでみてはいかがでしょうか。ある方にとってこれまでは「むずかしい有難い本」から「やさしい有難い本」に変化しているのではないかと思います。

そして最後にもう少しつけ加えさせて頂きますが、私達はもはや自分を貶めるのはやめようではありませんか！　無知の中に迷い込んでいる、いわゆる悪人をも貶めるのはやめるべきです。この地球のどこにも宇宙のどこにも実は悪人は存在しないのですから。「何がなんだかわからない人」や「どうすればいいかわからない人」や「誤解する人」などが居るだけです。それでも皆、その実体は宇宙の意識ご自身ですよね？

「地球や地球人に悪いものは何もありません」とマスターはおっしゃっておられます。

「ただし理解力の欠之のために、唯一最高の生命界において彼らは幼児です」ともおっしゃっていました。私達はいわば幼児なのであって悪人でも罪人でもない訳です！

ですから私達はもはや自分をも他人をも貶めるのはやめようではないかと申し上げたいのです。そして、さァーて！ということで一歩でも二歩でも前進すべきだと思います。人間になったときのあの楽しい気分で。人間は人間らしく。

以上です。ご静聴をどうも有難うございました。

〈講演者は現在東京で勉学中〉

GAP短信 GAP NEWS

■青森支部代表・副代表交替

青森支部は多年鈴木武男氏が代表として活躍されたが、体が不調（高血圧）のため六月より副代表の田村嘉彦氏が代表に、副代表に弘前市の小杉博氏が就任した。

■大盛況／静岡支部大会

去る五月四日、静岡支部大会が静岡市ステーションホテル大ホールで開催され、出席者百名に達して大盛況だった。翌日の市内観光ではUFOが数度出現して大騒ぎとなり、久保田会長、滑水南氏（山梨県）が撮影に成功した。詳細は本号記事「静岡市上空にUFO頻繁に出現」を参照。

■沖縄支部主催「アダムスキー全集読者感想発表会」成功裡に終了

六月七日午後一時より那覇市中央公民館で標記の大会が開催された。支部代表・新里義雄氏が琉球新報と沖縄タイムスに出した広告により来会者は十八名に達し、ア全集読者数名による感想発表、久保田会長による講演（スライド使用）、質疑応答と続き、終始熱気の溢れる真剣な雰囲気に満ちて成功裡に終了した。詳細は本号43頁の報告を参照。

■西ドイツ国際UFO大会より招待

西ドイツのUFO研究誌「UFOナハリヒテン」主宰者カール・ファイト氏はユーコン英文版第三号を読んで感動し、六月二十六日にピースバーデン市で開催の国際UFO大会に本誌に連載中の「私は別な惑星へ行ってきた！」の主人公、春川正一氏を招待してきたが、氏が行けないために代わって久保田会長を指名し、同大会で春川氏の体験と日本GAPの活動状況について講演を行うよう要請してきたけれども、六月二十一日の青森・秋田合同支部大会と続くために断り状を発送した。

■青森・秋田合同支部大会

青森・秋田両支部による第一回合同支部大会が予定どおり六月二十一日午後、青森県観光物産館「アスパス」で開催され、出席者二十三名を得て熱気下に終了した。翌日は十六名で観光に出発。好天下を車でカヤの高原、笹の子、十和田湖等を周遊。新緑の絶景を観賞しながら愉快な一日をすごした。詳細報告は本号42頁。

■長崎支部が誕生！

日本GAP二十番目の支部として長崎支部が発足した。支部代表は同市在住の元木和雄氏、副代表は島田利勝氏。いずれも会員歴の長いベテランでGAP海外研修旅行にも参加した。第一回月例会は六月二十一日に同市市民会館で開催。毎月第三日曜日に開く。詳細は本号47頁の「全国支部月例会案内」欄を参照。

■長野支部主催UFO写真展大成功

去る六月四日より九日まで六日間、松本市深志のブックスロクサンギャラリーで開催された長野支部主催UFO写真展は延べ二千名の入場者があり大成功を収めた。会場側の話によるとこれまでの催事のなかで最高の入りだったという。参観者はみな信じられぬほど熱心な態度で写真を見学し、アンケートの結果も多数の人がこの種の写真展を期待していたことを示した。

上―左端は説明する中村公一氏。下―中央は神原心一氏。

■新潟支部主催第二回UFO写真展

昨年に続き新潟支部は今年も八月六日より九日までの四日間、新潟市西堀通五番町八六六の三越デパートでUFO写真展を開催する。八月中同デパートは定休日なしに営業、特に七、八、九日は新潟祭りが行われるので人出が多く大盛況が予想される。詳細問合せは新潟支部代表・星富治夫氏へ。電話＝〇二五七九―二―五五六二。

■今年八月五日より十六日まで実施予定の「アメリカ東部・西部、メキシコの旅」は申込者が増加した。六月末日現在の氏名は次のとおり（敬称略）。最終的には四十名近くに達する見込。

伊藤芳和（東京）、中島和子（千葉県）、芳賀弘子（岩手県）、菅原優子（同）、安藤澄雄、博子、汐南（東京）、鈴木まり子（静岡県）、海老原まゆ美（大阪市）、坂本茂子（秋田県）、今西正子（神戸市）、田中法代（山梨県）、園崎澄夫（金沢市）、小渕信久（前橋市）、大畑忠（千葉県）、滑水南（山梨県）、萩原昭彦（横浜市）、矢田真理（埼玉県）、越崎裕子（東京）、大場範子（同）、青木雅孝（神奈川県）、浜村美里（千葉県）、河辺宏幸（名古屋市）、梅沢明（静岡市）

※第二回旅行説明会

七月二十六日（日）午後一時より五時まで銀座七丁目の銀座ガスホール（☎〇三―五七三―一八七一）六階会議室で開催の予定。JR有楽町駅下車。

■八月東京月例会、日時会場を変更

八月の東京月例会は次のとおりに日時と会場を変更するのでご注意を。

(1)日時　第一土曜日の一日午後一時半より六時まで。

(2)会場　皇居北の丸公園「科学技術館」六階大会議室。地下鉄東西線竹橋駅下車、徒歩数分。タクシーなら東京駅丸の内側より五百円台。同館入口右手エレベーターを利用。

■静岡支部再度UFO写真展開催予定

今夏八月に行う。詳細は野口代表へ。電話＝〇五四二―八六―七七二九

■九月の本年度総会

本年度総会は九月二十日に有楽町朝日ホールで盛大に挙行の予定。今年度はアメリカのダニエル・ロス氏が講演を行う。詳細は本号45頁の予告を。

〈毎日、読売、朝日各紙に掲載された六十二年四月以降の科学記事を抜粋紹介。各記事末尾の数字は掲載月日を、Mは毎日、Yは読売、Aは朝日を示す〉

野菜、果物にやはり制ガン効果がある

ふだん食べている野菜や果物の中に発ガン性と密接に関連する変異原性を抑える未知の物質がかなりの量含まれていることが農水省食品総合研究所の篠原和毅室長らの研究で明らかになり、四日まで東京で開催の日本農芸化学会で発表された。調べた野菜のうち抗変異原性の強さ（制ガン効果の強さ）のベスト3はナス、ブロッコリー、コマツナだった。

これまで野菜や果物には酵素のペルオキシダーゼ、植物繊維、ビタミンCなどの抗変異原物質が含まれていることが知られている。篠原室長らはこれら以外にも抗変異原物質があるのではと考え、十三種類の野菜と果実三種類を調べた。各一〇〇グラムからとったジュースのうち、研究されつくしている低分子部分は除き、残った高分子部分を対象に強い変異原物質のトリプ－P－2の作用でサルモネラ菌が起こす突然変異をどれだけ抑えるかをみた。

その結果、野菜ではナスが突然変異を起こす（ガン細胞になる）割合を八三%抑えてトップ。以下ブロッコリー（キャベツの一種）八〇%、コマツナ（関東の野菜）七八%、ホウレンソウ七七%、ピーマン七三%の順。最低のニンジンでも二五%を示した（これからみるとナスをしっかり食べればガンにかかりにくいということになる）。

果物ではリンゴ五八%、ハッサク五〇%、アマナツ二〇%だった。注目されるのはリンゴやハッサクの皮にも抗変異原物質（ガンになるのを抑える物質）がかなり含まれ、「リンゴの皮は体によい」が裏付けられたこと（4・4M）。

エイズ抑制作用を発見

動脈硬化症の治療に使われているデキストラン硫酸と血液凝固阻止剤のヘパリンに、エイズ（AIDS＝後天性免疫不全症候群）ウィルスの増殖を抑制する働きがあることが福島県立医大（福島市）の伊藤正彦助教授（細菌学）らの実験でわかった。同教授は「エイズ患者の延命効果があるとしてアメリカなどで広く使われているアジドチミジンより安価で副作用も少ない。臨床試験を待たねばならないが、免疫増強剤と併用すれば延命薬になることが期待される」と説明している（4・12M）。

異星間分子の正体突き止める

東京天文台付属野辺山宇宙電波観測所と名古屋大学分子科学研究所のグループは六月三日、オウシ座暗黒星雲の中で強いナゾの電波を発していた星間分子の正体を突き止めたと発表した。炭素鎖の端にイオウがついたC_2SとC_3Sの二種類の直線状分子で、地上でも見つかったことがない。同観測所は今年一月、同星雲にC_6Hという新しい星間分子を発見しており、これに続くヒット（4・4M）。

超電導体を開発したIBM研究班

〈臨界電流百倍アップ〉米IBM社の研究チームは六月十日、これまでより百倍もの電流を流すことができる超電導体を作る方法を開発したと発表した。これで高性能のコンピューター素子や、送電線、電気モーターなどへの使用が可能になるという。

世界の科学者はこれまで超電導体の臨界温度を上げる上でいくつかのブレークスルー（突破口）をなしとげてきたが、超電導体の臨界電流のアップにはほとんど成功しなかった。発表によると、この超電導体は液体窒素温度（絶対温度七七度＝セ氏氷点下一九六度）で、一平方センチあたり十万アンペアの臨界電流を流すことができる（5・11M）。

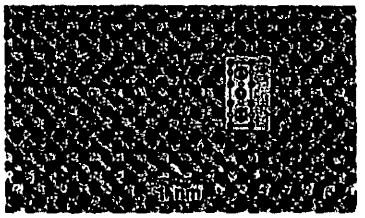
タバコは胎児に悪影響

妊娠中の女性と夫がともにタバコを吸う夫婦は、非喫煙者カップルに比べ、二千五百グラム未満の低体重児が生まれたり早産になったりする危険性の高いことが四月十六日までに厚生省の「喫煙の母子の健康に及ぼす影響研究班」の調査でわかった。同班の松山常務理事によると「妊婦の喫煙が胎児に悪影響を与えることは日本をはじめ各国の研究で明らかになっている。今回のデータをみると、夫の喫煙もやはり妊婦にとっては危険なようだ」という（4・17M）。

超電導酸化物の原子配列写真撮影に成功

東北大学金属材料研究所の高温超電導酸化物研究グループがこのほど四百キロボルトの超高分解能電子顕微鏡（EM－四〇〇EX）を使って、イットリウム、バリウム、銅、酸素の化合物である超電導酸化物の原子配列を直接観察、きわめて明瞭に写真撮影することに成功した。

今回の撮影に使われた試料はイットリウム、バリウム、銅を一対二対三の比率で混合、九三〇度で十時間以上空気中で焼いたあと、電気炉の中で冷やした高品質のもの。写真は平賀賢二教授が撮影したもので、この一部を五千万倍に拡大。直径約五ミリの黒点としてイットリウム、バリウム、銅の金属原子がはっきり見え、原子番号の違いにより黒点の濃さが微妙に違うため、それぞれの原子を識別することができる。酸素は原子番号が小さいため明るい点として見える。写真は撮影に成功した超電導酸化物の原子配列（4・26M）。



▲写真が撮影に成功した超電導酸化物の原子配列。数字と記号は写真の上に記入したもの。1nmは10^{-9}mの長さ。Oは酸素が抜けている部分を表す。長方形の図中のBaはバリウム、Yはイットリウム、Cuは銅、Oは酸素を示している。

遅寝遅起きはぼんやりっ子。早寝っ子は大脳活発。体温にも影響。

早寝早起きをする幼児に比べて、就寝や起床の遅い幼児は大脳の活動水準が低く、活動リズムも乱れていることが佐野勝徳・徳島大学総合科学部教授（行動科学）の研究でわかった。

調査対象は三－五歳児百十三人。午後八時半までに就寝、午前六時半までに起床する教育を実践している丘庫県尼崎市の保育園児三十人と、沖縄県の五保育所の八十三人をフリッカー値実験と体温測定。その結果、早寝・早起きの子供に低体温児はいなかったことが判明した（5・18M）。

超新星のすぐそばに突然ナゾの星

今年二月二十四日、地球から約十六万光年離れた大マゼラン星雲で超新星（一九八七A）が誕生するのが観測されたが、

このすぐ近くに謎の明るい星が出現した。このナゾの星はハーバード・スミソニアン天体物理学センターの天文学者グループが三月二十五日と四月二日の二日間、チリのラセレナ近くのセロトロロ・インタアメリカン天文台の口径四メートルの望遠鏡とスペックル干渉法と呼ばれる技術を使って発見した。超新星から光の速度で約二週間の所に存在しているが、大マゼラン星雲では超新星に次ぐ明るさで、このような星は超新星誕生以前にはそのあたりには存在せず、「宇宙の巨大事件」とされている（5・24M）。

宇宙人の遺体、米政府が調査していた

三十一日付英オブザーバー紙は四十年前に米国内で墜落したUFOと〝宇宙人〟の遺体について、米政府特別チームによる調査が実施されたことを示す極秘資料を英国のUFO研究家が入手したと報じた。

この研究家はティモシー・グッド氏。資料によると四七年六月二十四日に米ニューメキシコ州にあるロスエル空軍基地の北西約百二十キロに、円盤型の飛行物体が墜落するのを付近の農場主が目撃、UFOの捜索が極秘に開始された。

調査の結果、UFOの墜落した地点から東へ約三・二キロ離れた場所に、墜落寸前に機内から脱出したとみられる人間に似た肢体が発見された。遺体は動物に食べられ、いずれもひどく腐敗していた。資料の中で、当時の中央情報局（CIA）長官は、遺体は一見すると人間のようだが、生物学、進化論的分析によると、人類とは異なった生物だったと述べている（6・1M）。

中国で大水獣を見た!?

中国湖北省の自然保護区神農架で最近大水獣を見たという証言が相次ぎ、野生動物考察学会が調査に乗り出した。この大水獣が出るのは神農架南坡新華郷石屋頭村と猫児観村付近の湖。これまでに三回目撃されたが、いずれも灰白色。目は茶わんほどで、口も一メートルあるという。水面から顔を出すと水を高々と吹き上げ、この水獣が出てきた後は、なぜかよく雨が降るという。

神農架は海抜三、四千メートルのところにあり、周囲数百キロメートルは一面原始林の樹海で住民が一九六八年八月、白い毛の二匹の野人を、続いて七六年五月には赤毛の二匹の野人を目撃した。早速、湖北省西北奇異動物調査隊が結成され、三十三センチの巨大足跡を発見。七八年には地元住民が五回にわたって褐色の毛の野人を見つけたという。

この調査隊の活動はその後も活発で、今では会員五百人にふくれ上がった。最近の調査では、野人は尻尾がなく、体が大きい割には「人に向かって笑みをもらす」人なつっこさを持つという（6・8M）。

スーパー電算機より百倍早いジョセフソン素子を東大が開発

高温超電導物質を使い、次世代コンピューター用の高速演算素子として注目されているジョセフソン素子を作るのに成功したと東大工学部電子工学科の岡部洋一助教授が十二日に発表した。これが実用化されれば現在のスーパーコンピューターより演算速度が百倍も速くなるという（6・13M）。

寿命長い常温超電導物質を開発

住友電気工業は二十九日、セ氏二七度の常温で電気抵抗が完全にゼロになる新しい超電導物質を開発した。同物質はイットリウム、バリウム、銅、酸素に別の物質を加えたセラミックス系。直径七ミリ、厚さ三ミリの試料五個をテストしたところ、最長で一週間、最短で一日、セ氏二七度で電気抵抗ゼロの状態を持続した（6・30M）。

超電導物質、実用化へ道

世界中が開発にフィーバーしている超電導物質を実用化するには薄い膜かコイルにする必要があるが、工業技術院・化学技術研究所（筑波研究学園都市）の水田進エネルギー化学部第四課長は、四月二十三日、陶芸の上薬を塗るやり方で超電導物質を手軽に実用化できる画期的な方法を世界に先駆けて開発したと発表した。

新方法は超電導物質の原料（金属元素）を溶かした有機溶液（アルコール系の溶解液）を筆で基板に塗るか、直接ひたすだけの簡単な方法。真空装置やレーザーは数億円もし、しかもちっぽけな超電導物質しかできないが、新方法ではこんな装置は不要で、超電導物質を大型化できる。新方法は非常にコスト安なので、この方法を使って超電導物質を大量生産できるようになれば、経済的波及効果ははかりしれない。

新方法は超電導物質のイットリウム、バリウム、銅を含む市販の粉末や溶液をアルコール系の有機溶液で混ぜるだけ。できた緑色の混合液を別のセラミックス基板の表面に絵筆で塗ったり、基板を直接液につけたりすればOK。これを電気炉に入れ、八百度前後で焼くと有機物が蒸発したり燃焼したりし、超電導の薄膜だけが基板表面をしっかりと覆うというわけ（4・24Y）。

超電導コイルで磁場

東芝は四月二十八日、世界に先駆けて高温超電導セラミックスの線材でコイルを作り、従来よりも大量の電流を流して磁場を作ることに成功したと発表した（4・29Y）。

ガンの進展抑えるサンゴ

国立ガンセンター研究所・藤木博太ガン予防研究部長らの研究によれば、ガン予防薬もまんざら夢ではない。オオウミキノコ（軟サンゴの一種）に含まれる「ザルコフィトルA」という物質が最近有望らしい。

オオウミキノコは日本では三重県以南の岩礁などに生息し、野菜のブロッコリーを大きくしたような形をしている。重量の〇・四%がザルコフィトルAというからかなり採れる。毒性もほとんどゼロ。ザルコフィトルAのガン抑制効力はこれまでに同じような作用が確認されている他の物質のざっと千倍。ザルコフィトルAがガンを抑える仕組みがわかれば、もっと強力なガン予防物質の合成ができるかもしれない（5・29Y）。

ソ連スペースシャトル用ロケット打上げ成功

ソ連は五月十五日午後九時三十分（モスクワ時間）、スペースシャトル用の新世代ロケット「エネルギヤ」をソ連中央アジアのバイコヌール宇宙基地から打ち上げた。「エネルギヤ」は多目的の運搬ロケットで、この実験の成功はソ連の宇宙開発が新たな段階に入ったことを意味すると受けとめられている。

「エネルギヤ」は全長六十メートル、八基のエンジンを搭載、発射時の重さは二千トン以上で、百トン以上の荷物を宇

宙基地に運ぶことができるという。テレビニュースは「一億七千万馬力で世界最強のエンジン」と伝えた（5・10Y）。

「月面基地」開発へスタンバイ

NASA（米航空宇宙局）は二十一世紀初頭の宇宙開発計画の柱となる「月面基地」の本格的検討に着手することになった。NASA報道官が五月十三日に明らかにしたところによると、NASAのジョンソン宇宙センターはロッキード・スペース社など宇宙企業三社とこの構想に関する一年間の委託研究契約をこのほど結んだ（5・15Y）。

ソ連版シャトル打ち上げ準備

五月十三日のタス通信によると、ソ連のゴルバチョフ党書記長が今月十一日から十三日までカザフ共和国のバイコヌール宇宙基地を訪問、スペースシャトル用ロケットの打ち上げ準備を視察した。ソ連がスペースシャトルの打ち上げ準備を公式に表面化したのはこれが初めて。

同通信はこのロケットについて「反覆使用可能な低軌道衛星などを打ち上げるための多目的新型ブースター・ロケット」と説明しており、これはソ連版スペースシャトルを意味するとみられる（5・15Y）。

世界最高速のLSIを開発

超高速で作動する「HEMT（高電子移動度トランジスター）」の研究で世界をリードしている富士通研究所は五月十一日、「HEMT」を使ってコンピューターの計算の基本論理回路のLSI（大規模集積回路）を作ることに成功、このLSIで世界最高速の機能を達成したと発表した。同社ではこれにより二年後にも「HEMT」による全く新しい〝超スーパーコンピューター〟を実現できる見通しがついたと説明している。

「HEMT」はガリウム・ヒ素とガリウム・アルミニウム・ヒ素の半導体接合面近くで電子がきわめて速く移動する現象を利用したトランジスター。開発された「HEMT」のLSIは、四個の「HEMT」で構成する論理回路を四千個も集積したもので、十六けたと十六けたの掛け算を十億分の四・一秒で処理するという世界記録を作った（5・12Y）。

これがブラックホール

何でものみ込んでしまうという宇宙の彼方のブラックホールの姿を大阪教育大学地学教室の福江純助手（三一）がコンピューターを駆使して、世界で初めてカラー映像化に成功。五月十二日、京大会館で開かれた日本天文学会で発表した。

ブラックホールは光学的に見えないため、その正確な姿は明らかになっていない。したがってブラックホールの姿は近くの天体の運行異常や、物質を吸収する様子などを通じて推定。地上から観測できるのは白鳥座X－1から出るX線だが、これが出るのはブラックホールにのみ込まれるガスの渦の回転によるものと考えられている。

福江さんはX－1のX線を逆にたどり、ガスの渦がブラックホールに吸収される姿を真上からほぼ真横に至るいくつもの角度から見たケースで映像化に挑戦。一画面に必要な約四万の点について、これまでデータとして得られている重力、温度、ドップラー効果（動く物体から発する音、電波などの周波数）などを計算して、色と光度を決定、映像化した（5・12Y）。

大西洋に巨大クレーター

六月十八日発売の英科学誌「ネイチャー」によると、カナダの海洋学研究者らが、カナダ東方の大西洋海底にいん石かスイ星の激突跡とみられる巨大なクレーターを発見した。海底で発見されたのは初めて。

発見された場所はノバスコシア半島の南東二百キロ。石油探査のためのボーリング調査と地震波観測データから大陸棚の縁、水深百十メートルの海底に周囲ときわだって異なる地形が確認された。クレーターの直径は少なくとも四十五キロ。中央部に直径十一・五キロの隆起部がある。研究者たちは約五千万年前に直径二、三キロの巨大いん石あるいはスイ星の核が激突したと推定している（6・18Y）。

十、十一番惑星が存在する？

ソ連国立ゴーリキー教育大学のアナトーリー・アルテムイエフ助教授が雑誌「科学と技術の進歩」最近号で、スイ星の軌道の分析結果として太陽系の最も外側に地球の質量の六十倍、五十倍の二個の惑星が存在するという仮説を紹介している。

今回の仮説はソ連の天文学者、ウラジーミル・ラジエフスキー教授とワジム・トマノフ氏が作成したスイ星のカタログの分析から得られた。推定質量が正しければ太陽系で三番目、四番目に重い惑星になる（6・8Y）。

世界初、エイズ抗体開発成功

エイズ（後天性免疫不全症候群）ウイルスと結合して感染を阻止する抗体を作ることに熊本大学医学部の松下修三博士（三一）が成功、ワシントンで開催中の国際エイズ会議で六月三日発表した。

松下博士が発表した抗体は、感染力を殺したエイズウイルスを注射したマウスの脾臓細胞から作ったモノクローナル抗体。松下博士によって作られたモノクローナル抗体は、ウイルス外皮タンパクとだけ結合する抗体を生み出す細胞から作り出された。試験管内の実験の結果は、この抗体がエイズウイルス自身はもとより、エイズウイルスに感染した細胞のいずれに対しても外皮タンパクの特定個所を見つけ出し結合することが確認された（6・4Y）。

コンドームの使用エイズ予防に有効

米カリフォルニア大のグループは、コンドームにエイズウイルスを入れて外からさまざまな圧力を加えてみたが、ウイルスが漏れ出した証拠はなかった。

エイズが大流行しているザイールで売春婦三百七十六人を検査したら、感染していなかったのはわずか八人のみ。何と感染率九八％。この八人に詳しく聴くと、客にコンドームを使わせていた（4・10A）。

ピラミッドは墓でなく来世の象徴？

エジプト・カイロ郊外の大ピラミッドはなんのために建てられたのか――。エジプト学最大のなぞに、日仏共同の先端技術による内部調査が、これまで常識と考えられていた「国王墳墓説」をくつがえし、「国王の来世を地上で象徴する建造物」との新たな仮説を前進させた。

パリ市の科学産業センター「ビレット」で四月三十日、日仏調査団、各国のエジプト学専門家らによる初の記者会見と公開討論会が行われ、この新仮説に約四百人の聴衆がどよめいた。とくに日本のハイテクに裏打ちされた発表に大きな関心が集まっていた。

今年一月、仏調査の後を受け早稲田大学古代エジプト調査隊（団長・吉村作治・人間科学部助教授）が電磁波探査装置をピラミッド内に持ち込み、コンピューターで分析した結果、フランス隊発見の空洞を確認。さらに新たな空洞のあることなど「電磁波によるピラミッド調査」という論文を今回発表した。

日本調査団の関和明・関東学院大工学部助教授は空洞調査を機会に、ピラミッドを建築学的視点から再検討すると「王の遺体を埋葬するという実質的機能のためのものではなく、卒塔婆（そとば）のような象徴的建造物ではないか」と発表した。

また、吉村助教授は一九七〇年代から古代エジプトの遺跡発掘を続けてきた経験と今回の調査から「エジプトのファラオ（国王）や王族の遺体はすべて地中に埋葬されてきたはずだ。ピラミッドという立体的建造物は墓地なのではなく、来世を信じていたファラオが、この地上に来世を象徴化するため、あるいは来世のシミュレーションのために建てたものと考えた方が自然。したがって、確認された空洞の内部に、王の遺体が埋葬されているとは考えられない」と公開討論会で述べた。エジプト学の伝統を持つフランスで日本の調査が評価されたのはこれが初めて（5・4A）。

強力ポリエチレンの製法を開発

強力なポリエチレン樹脂をつくる研究を進めている奈良女子大家政学部の松生勝・助教授と静岡大教育学部の沢渡千枝講師（いずれも高分子物性）は、銅と同じくらい伸びにくく、高温にも耐えられるポリエチレンをつくる技術を開発、近く米国化学会の高分子専門誌に発表する。この技術を使うと、普通なら七〇度を超すと軟らかくなるポリエチレンが、一〇〇度までの温度では現在最強のアラミド繊維よりも強くなる（5・6A）。

電総研、磁気センサーを開発

世界に先駆けて工業技術院電子技術総合研究所（茨城県筑波）標準計測部のグループが開発した超高感度の磁気センサー（感知機）システムは、地磁気の十億分の一という脳の中枢細胞から出る極めて微弱な磁気を検出することができる。神経細胞の磁気反応を通して生体内の微妙な変化や異常をキャッチできることから、聴覚、視覚神経など脳中枢の仕組みの解明や精密な臨床診断に役立つと期待される（5・19A）。

世界の原子力発電状況八六年度分判明

国際原子力機関（IAEA）はこのほど、八六年の世界の原子力発電状況を発表した。全二十六カ国中十六カ国で前年を上回り、全電力量に占める原子力の割合はフランスの六九・八％（前年六四・八％）を最高に八カ国が三〇％を超えた。世界には三百九十七基の原発があり、全世界の電力の約一六％を生産したとみている。各国の状況は次のとおり。①フランス②ベルギー③スウェーデン④台湾⑤韓国⑥スイス⑦フィンランド⑧ブルガリア⑨西ドイツ⑩スペイン⑪日本⑫チェコスロバキア⑬イギリス⑭ハンガリー⑮アメリカ⑯カナダ⑰東ドイツ⑱アルゼンチン⑲ソ連⑳南アフリカ（以下略）（5・19A）。

（編注＝以上は原子力発電所の保有基数の順ではなく、一国の全電力量に占める原子力の割合の高い順から列挙したもの）

ストレスの解消にビタミンCが効果

ネズミに対する大量のビタミンC投与がストレスによる胃かいようの発生や、出産率の低下を防ぐ効果があったとの実験結果を、西川善之・甲子園大教授（食品栄養学）のグループが、久留米市で開かれた日本ビタミン学会で発表した。

実験に使ったのはハツカネズミ。ビタミンCを飲料水に混ぜて一日に三五ミリグラム程度を二週間与えた。続いて二十時間、二三度の水に首まで漬けるストレスを与えた後、胃かいようの発生状況を調べるため解剖した。すると、ビタミンCを与えたネズミは与えなかったネズミに比べて、大きさ一ミリ以上の大きないようの数は半分しかなかった。

人間は体内でビタミンCをつくれないが、ネズミは自分でつくれる。今回の投与量は大きなストレスがかかった際に自分でつくるとされる量の四倍近い大量なもの（5・20A）。

細菌をろ過する携帯用浄化器を開発

東京の多摩川はもちろん、上野の不忍池の水でも、ろ過装置を通すだけで細菌類はすべてこされ、普通の水道水並みの安全な飲み水になる携帯用浄化器が開発された。

原理は簡単。細菌の大きさは、例えば大腸菌は太さ千分の〇・五ミリ、長さは千分の一―四ミリ。こうした細菌より細かな穴が壁にあいているチューブのような中空繊維をたばね、やや太めの容器に通す。中空繊維の外周に汚れた水を入れて圧力をかけ、内側に浸透した水を集める。菌は穴を通れずにひっかかる。

東邦大医学部の海老沢功教授（公衆衛生）らの実験では、大腸菌、チフス菌、コレラ菌、赤痢菌、ネズミチフス菌、セラチアを一リットル当たり数十万から数億個入れた水が無菌になった。特種な活性炭を併用しているため、臭気などの不純物もかなり除けた。

「上水道の完備していない開発途上国の田舎へ旅行する人は下痢に苦しめられるが、これで細菌によるものは防げる」と、青年海外協力隊の熱帯病予防講座を受け持つ海老沢さん。「風呂水でも飲めるようになるので、地震のような災害時にも」とメーカーの三菱レーヨンはつけ加えている（5・22Y）。

（編注＝これは「クリンスイ」という名でデパートで売っている。S型二万三千円、D型二万八千円）

新型の球レンズを開発

屈折率を内部で変化させ、均一な屈折率のものより十倍もピントが絞れるプラスチックの球レンズを、慶応大理工学部の大塚保治教授、小池康博助手（応用化学）らのグループが開発。京都で開かれている高分子学会で五月二十八日発表。

レンズの集光性（ピントの鋭さ）を上げるには、何枚かのレンズを組み合わせたり非球面にするなど、形に工夫をこらしていたが、レンズ内の屈折率を変える、という新しい方向を示したもの、と注目されている。球レンズだと、どの方向から見ても同じだから、従来の平たいレンズのように入射光と直角に置く必要がなく、位置さえ決めればよいので、ぐんと扱いやすくなる。また、違った方向から入射する何組かの光も一つのレンズで集光できるので、光ファイバーで運ばれてくる光を交差させる結合器など、これまで考えられなかったような使い道も見つかりそうだ（5・27A）。

（次号以後も連続掲載）

I Visited Other Planets!

私は別な惑星へ行ってきた！

混乱を起こすニセ情報、単極磁気を発見せよ、心霊現象は波動の映像化、宇宙空間と時間

〈連載最終回〉

驚異的秘話を春川氏（仮名）がついに語り終えた

地球救済のための転生の方法

――話は変わりますが、宇宙人、たとえば金星人のなかにはイエスみたいに地球を救済しようとして転生して（生まれ変わって）地球へ来る人があるでしょう？　この場合は老衰死するのを自然に待って、それから転生するのではなくて、たぶん途中から転生しようと決意するんだろうと思いますが、その場合は自分で命を絶つのですか。

「これはいまでも地球に儀式みたいなかたちが残っているんですが、お坊さんなどで即身成仏というのがありますね。あれに近いんです。

まず彼らスペース・ピープルは、地球のどこそこに生まれ変わろうと、自分でその場所を選びます。そしてそこへ意識を集中して、生まれ変わる家庭の波動や、血筋、その他を徹底的に調べるんです。そしてその家系の未来まで読んでおいて『この家庭ならよし』と決めたら、ここへ入ろうというわけで、そこへものすごく想念を集中します。『自分は絶対にそこへ生まれる！』と強烈に念じるのです。そして食物を全部絶って、全身全霊でもってそれに集中します。

そうすると、別に肉体を傷つけなくても、自然に肉体が急激に物質に還元して、意識体だけが急速に移行するんです。

こうしたテクニックはたぶんチベットあたりに残っていると思いますね。あそこから後に中国経由で即身成仏という考え方が出てきたのだろうと思います。

ですからチベットでは金を塗布したミイラがあるという話ですが、金というのが先の話のように微妙に関連しているらしいんです。

というのは私も調べたんですが、金というのは高度な殺菌作用があるのと同時に、特殊な音波その他の波動に響鳴する作用があって、その特異性を利用してICその他に利用されているという話を聞きます。どうも他から来るマイナスの想念をシャットアウトして、出ている想念を完全にルックする作用があるらしいんです。そうすると固定された念に意識を集中できるわけです。そういうことらしいんですが、なにかそういう方法が昔、地球へ伝えられたのかもしれません。

地球ではそれが形式的に伝わっているだけで、転生の目的を果たすというよりも装飾に金が用いられるだけでしょうね」

作為的な誤謬コンタクト

話はオバケ宇宙人に及んだ。奇怪な姿をした小人宇宙人とコンタクトしたという別な人のケースについて論評し合ったあと、編者はイギリスの有名なUFO専門誌『フライイング・ソーサー・レビュー』がよく取り上げる宇宙人による誘拐事件を思い出した。

――南米やアメリカなどで宇宙人に誘拐されて身体検査を受けたとか、なかにはセックスしたというような話がありますが、あれはどうです？

「なかには情報錯乱を狙うケースがかなりあると思うんです。それこそ南米の飛行機も見たことのないような農夫を連れ出して、おかしな話をインプットして大騒ぎさせるというわけです。

近頃は催眠術で記憶を逆行させてUFOに乗った体験をしたと言わせるケースがありますが、あれなんかは騙す側からすれば最も楽な方法です。円盤にみせかけたセットを作らなくても催眠術をかければよいのですから。ああいうケースのブームがあること自体、非常に作為的なものを感じますね。

キャトル・ミューティレーションと

いう現象も明らかに作為的ですね。最初は薬物実験か何かのカムフラージュだったのかもしれません」

つまり地球人の〝だれか〟が作為的な謀略を仕組んで、宇宙人というのはワルなのだと思い込ませようとしているというわけだ。こうして一般地球人に恐怖心を起こさせることによって、太陽系内の別な惑星群の大文明と偉大な発達をとげたスペース・ピープルの存在に気づかないように工作をしているのである。しかしこうした裏面まで読み取れないUFO研究家がいて、宇宙人は別な太陽系から侵略に来るワルの集団で、アダムスキーのとなえる説はすべてフィクションだと騒ぎたてる手合がいるが、これはまんまと彼らのワナにおちいっていることになるのだ。これに類似した謀略は世界で渦巻いているので、真実の宇宙問題に目を向けようとする人は重々警戒する必要がある。UFO問題に関する雑多な本や雑誌を手あたり次第に読みまくる態度を捨ててかかることが先決だろう。

心霊現象とUFOとを区別すること

「近頃はKという人の説が出まわっていますが、あれも混乱を起こしますね。Kと親しい人を私は知っていますが、すっかり神がかってきたということです。心霊的なものと相容れやすいんです。心霊的現象と現実のUFO出現とは厳然と区別をつける必要があります。

多いのは、宇宙人のメンタル・テクニックを心霊的なものだと誤解しているケースです。地球人の心霊現象に関する考え方や信仰的なものは、地球人の習慣によって、こうだと思い込むような考え方にもとづいています。

ところが精神の作用は光速を超えた大変な性質を帯びています。しかしほとんどの心霊的な人の説明はヨーロッパのスピリチュアリズムをベースにして、その枠を超えられないんです。それ自体が科学でなくて信仰であるからです。

たとえばテレパシックな人は何かの波動に感応して、いろんなビジョンを見たりするんですが、そうだとは思わずに『そこに霊がいる。空中に浮揚している』と言ったりするわけです。

ところが自分だけに像が見えて他の人に見えないのは、自分の体質的なものがあるエネルギーに感応しているのではないかと考えて、その発想で堀り下げてゆく超能力者は強いですね。つまりアダムスキーの言う波動的なものに一歩参入しているわけです。

そこまでゆけば超能力者自体も自分で体験する現象をコントロールできるんです。一方、見える映像に気をとられて恐怖心が起こりますと精神的に異常をきたすケースが多いんです。

ですからこの問題は、アダムスキーの言う波動説に同調するかしないかで超能力者の質が二分されますね。ですから超能力者がビジョンを見る現象もアダムスキーの信憑性を肯定する非常に良い材料になると思います。

『類は類を呼ぶ』で、いままで私の所にコンタクトの体験者や超能力者など、いろんな人が来たり出会ったりしましたけれど、その波動説までに至っている人は少なかったですね。ただ一人だけ念写をやる人で、その説を持っている人がいましたが、その人は大変立派な方でした。つまり心霊論というのは幻であって、その奥にある物理的な法則性にまでゆきつかないとだめだと言っていました。私もその考え方には大賛成です。

これだけオカルトブームで心霊がもてはやされると、みんなが追求しますから混乱もしますけれど、別な意味では波動説に至る人も沢山出てくると思うんです。そうすれば逆にアダムスキーの主張が見直される時代が来るのではないかという気もしますね。

とにかく心霊に凝っていたら何もわからなくなります。一歩、現象の奥を見つめることが必要で、その点、アダムスキーはかなり高度な事を（宇宙人から）教わっていますね。ただそれを発表したのが時代的に早すぎたのではないでしょうか」

続いて内外のいろいろなUFO研究家の話が出てくる。毎度のことながら春川氏の博識に驚くほかはない。かなりの情報網を持っているようだ。

コンピューターは神様ではない

アメリカでコンピューターを使ってUFO写真の真為を鑑定するというグループの話題に及び、これについても春川氏はコンピューターによる写真の解析が究極的には不可能であることを、各種の研究結果を引用して説明する。

編者自身も以前この問題が気になって、当時神奈川県秦野市に住んでいた親類のコンピューター技術者に聞きに行ったことがある。アメリカの一グループによると、アダムスキーの円盤写真は模型を糸で吊り下げたのを写したことがコンピューターによる解析で判明したというが、一体そんなことがコンピューターで出来るのかと尋ねたところ、阪大の数学出身で大手メーカーの課長である相手は大いに驚いた。

「えっ、そんなことがコンピューターで出来るはずはありませんよ。糸で吊り下げたかどうかは、写真のネガをタタミ数帖大ぐらいに伸ばして検査する以外に方法はないでしょう。印画紙にプリントされた小さな写真から糸を検出するなんて、コンピューターには何の関係もないことです。コンピューターはしょせん人間の手で作られたものですから、ただの死物にすぎません。これを人間の手であやつれば、どのような結果でも出てきます。だから糸ら

しい物が出てくるように仕向けることも可能ですが、それはただ糸のように見えるだけのことです」

科学は重要である。そしてコンピューターは多方面で絶大な役割を果たし、社会に図り知れない恩恵をもたらしている。しかしコンピューターは万能の神ではない。これで万象のあらゆる謎が解けるわけではないのだ。妄信して操作を誤ると、むしろ悪魔と化すことは各種の映画や小説で描かれているとおりで、一部の愚かなアメリカ人はこれを地でいっていることになる。非常に重要なUFO写真を片っぱしから葬り去ろうとしているからだ。

太陽の放射エネルギーの性質は

――アダムスキーによりますと、太陽は普通に考えられているような熱を持つ天体ではないと言っていますが、この点はどうです？

「基本的には太陽の内部は極端な高温ではないと思いますね、中心部は――。あれはやはり単極磁気がからんでいると思いますよ。空中から熱が発生する現象とかですね。とにかく磁気というのが曲者ですね」

どうも春川氏は真相を知りながらもこの辺の話をボカしているようだ。明確に言えない事情があるのだろう。

――太陽の放射線は粒子という説と波動という説とがあるようですが、これについては？

「やはり光子と同じで両方の側面を持っていると思います。しかし基本的には波動でしょうね。波がまずあって、それに粒子が動かされるという状態でしょうね。ただどんな波にどんな粒子が乗って、どんな方向性をもって動くかという問題があると思います。それに密接にからんでくるのは時間の問題です。この時間が物理的にとらえられるものであるとすれば、それにたいして影響を与えるのは磁気でしょうね。そうすると磁気の手前に何が存在するかということになりますと、まだ地球では科学的観念が生まれてきてないですね。これがアダムスキーの言う波動なのであって、これが根本になると思います。

以前にある物理学者と話をしましたら、まず原子が存在し、プラスとマイナスがあって、中性粒子のニュートリノがある、それでニュートリノが秘密をにぎっているらしいけれども、しかし曲者はニュートリノだけではない、これに影響を与える手前の〝モノ〟があると言うんです。必ずあるんだというわけです。それは物理的理論からいってあるはずだ、ニュートリノが動くエネルギーを持っているのだから、それを動かしているもっと微弱な根元的なものがあるはずだというのですが、そこから先は限界があってわからないと言っていました。

ところがその先は精神とか人間の生命の本源とか、そこら辺に回帰するのではないかと思いますね。そうなると地球の科学ではまだ努力不足であるということでしょう。

宇宙人はその点を解明していると思うんです。ですから彼らは精神的な作業と科学的な作業を完全に併用して、いわば精神と物質の一体論科学というものを確実に把握しているんです。そして自分たちの生活に生かしきっています。地球もそういう姿勢が出てこない限りむつかしいでしょうね」

ブラウン管は譬え話にすぎない

――先程の太陽の話ですが、アダムスキーによれば、私たちの太陽系には九個ではなく実際は十二個の惑星があり、その全部の惑星に人間が住んでいて、しかも各惑星に偉大な文明があるというわけです（注＝詳細はアダムスキー全集第一巻「宇宙からの訪問者」を参照）。そして全部の惑星に地球と同じような太陽の熱と光が与えられて快適な生活をしていると言っています。

ところが従来の物理学では逆二乗の法則によって、太陽のごとき放射線は距離の二乗に反比例して弱まってゆくということになっています。これは確かに真実でしょう。そうすると地球より太陽から遠く離れた惑星、たとえば海王星や冥王星のような遠方には熱も光も得られず、ものすごい冷たい天体であって、人間など存在するはずはないというのが一般の常識となっていて、これがアダムスキーの説を信じさせない原因になっています。

ところがアダムスキーはこれをテレビのブラウン管にたとえて説明しています。つまりブラウン管のカソードから出る負の電子ビームは正のアノードに引っ張られて進行し、そこを通過して次のアノードに引っ張られ、さらにそこを通過して蛍光板にあたり、画像となるわけです。

これと同じように、太陽から放射される正の放射ビームは火星と木星の間にある負のアステロイド帯に引っ張られてそこを通過し、さらに海王星と冥王星の間にある第二アステロイド帯に引き寄せられて加速され、このようにして全十二個の惑星に地球と同様の光と熱が与えられるのだとアダムスキーは述べていますが、これは間違いないことでしょうね。

「ええ、間違いないと思います。ただあれは一つの譬え話であって、もっと奥の深いものがあると思うんです。たとえばカソードをとりあげても、あれだけでは説明しきれないものがあるでしょうね。あの譬え話だけを取り上げてアダムスキーは知識のないやつだと非難する人もあります。現実は違うじゃないかと。だけどあれはあくまでも一つの譬え話であって、原理を説明す

るための最も近い観念を、アダムスキーはいろいろな知識のなかから勉強して導き出した上で、これが最も近いんじゃないかというわけで応用したのでしょうね。

やはり単極磁気と、あとは光の問題です。UFOは光を自由自在にコントロールするんですが、地球人類は光をまだ克服していません。そこら辺が壁です。そこから光のことを宇宙人からいろいろ教わりましたけれども、いまその知識を出してもなかなか生かせないでしょうし、むつかしい問題です。科学者がその知識をとりあげるときに、どこまで謙虚な姿勢で迎えることができるかという問題があります。科学者は自分の知識さえふえればよいというのが普通の態度ですから、そこに別な惑星の精神と物質一体の科学と、地球の物質一辺倒のアカデミズムの科学との根本的な相違があります」

精神と物質との統一理論が重要

「たとえばいま私と非常に親しくしている一人のテレパシストがいます。この人はピーター・フルコスという有名な超能力者と同じようなケースで、交通事故で頭骸骨を打ったんです。するとそのとたんに非常に正確なテレパシー能力が出るようになったんですが、特にサイコメトリー的な力があるんです。波動を非常に正確に感受します。

面白いことに、いまその人に取り組んでもらっている仕事として、原子や分子や単極磁気などの構造をテレパシーで図形に描かせるんです。それを一部の科学者が非常に注目していて、そのマニュアルを作らせたんです。それにたいしていま何人かの科学者が取り組んでいるんですが、面白い結果が出そうですよ。

そういう手法でもってやり始めないとだめですね。精神的なチューナー能力を持つ人がいて、科学者がそれとタイアップしながら研究をすすめることにすると、すごい結果が出るでしょうね。

たとえば円盤というのは宇宙人の想念的なものでコントロールされているのですが、こういう発想は地球上の今までのやり方では絶対に出てきませんね。この円盤の開発でも別な惑星にたぶんパイオニアーが最初にいて、想念が物質に影響を与えるということを知って、その能力を発揮して、科学者がそれにまじめに取り組んで、結局、円盤と呼ばれるような宇宙船が出来たと思います。まず想念の研究があったんでしょうね。ところが現在の地球では精神的な能力者と科学者が背を向け合っていますから、これではむつかしいですね」

カギは単極磁気にある

――そうすると冥王星までも地球と同じような熱と光が行くのは、単極磁気が根本の原因になるのですか。

「ええ、そうだと思います。原理的に詳しいことを宇宙人から教わりましたが、それを私が正確に説明する知識を持たないもんですから――。

以前にお話ししましたように、円盤は光の指向性をコントロールするんです。たとえばここに十人の人間が並んでいて、この端にいる二人だけに円盤を見せようとすると、光を空中で曲げる必要があります。そうなると非常に強力な磁気か時間的なエネルギーが必要になってきます。その場合円盤は時間の部分のエネルギーと密接に結びついているのが、いまの地球の物理学では仮説の段階ですけれども、磁気単極なのです。高速度で回転している、他極に引っ張られない磁気です。単極存在です。高速で一定方向に回転しているものですから、ほかの磁気とぶつつからないんです。

しかしこの問題はものすごく難解ですから、地球人総出でやらないと解決しないでしょうね。しかもこう言えます。たとえば原爆があります。あれはいけないものだということはだれでも知っています。しかし、だからといって原爆という形だけの物を地球上から廃絶したとしても、地球人の他人の生命にたいする攻撃本能がある限り、その原爆にとってかわるようなものが必ず出てくるでしょう。それが根本的に変革しない限り、この門は開かれないと思うんです。

以前、宇宙人と一緒にいましたとき、道路上に小さな石が一個ころがっていたのですが、宇宙人がひょいと手をかざすと、石がピュッと飛び上がって相手の手の中にポンとつかまえられたんです。そういう光景を見たことがあります。

その直後に相手はその石を私に持たせてくれました。すると、石の下側が少しあたたかいんです。それは波動的な感覚ではなくて、実際にあたたかいんです。そして上側がすごく冷たいんです。これも何かの原理を示そうとして、わざとやってみせたのでしょう」

――どういう原理で石が飛び上がったのですか。

「いや、これは私にもわかりません」

といって春川氏は笑う。

「国内のある研究家が、円盤のコイルはなぜ冷たくて発光するのかという問題に取り組んでいたことがあります。そこら辺ともからんでいるような気がしますね。どっちにしてもコイルがらみとなるとやはり磁気でしょう。

円盤の中でコイルが輪っかになっているんですが、何かの方法であれを回転させるのでしょうね。つまり単極磁気の無秩序な自然のままの回転自体を人工的に起こさせるような装置を円盤は持っているということがまず考えら

れます。しかし詳しいことは私にもよくわかりません」

アインシュタインは宇宙人から教わった！

――円盤が人工重力場を持っていることは間違いないことでしょうね。

「はい、これは間違いありません。その重力場というのは付随現象で、その根本的なものにやはり磁気の操作があると思います。たとえば宇宙空間になぜ重力場を持った地球という星が丸い形で存在しているのかということ自体が不思議です。一体どこからエネルギーを得て回転し続けているのか、これも不思議です。その他天体に関するいろいろな現象には現代の科学でも未解決な謎が多いのですが、それからみますと創造主の法則や英知というものは巨大ですね」

――いやあ、それはもう人間の知恵で図り知れないものがありますからね。

「考えてみますと宇宙自体が永久機関ではないかと思うんです。宇宙は広がりつつあるといわれていますが、その広がり自体が私は永久機関であろうと思うんです。たとえば人間の魂にしても創造主の法則で作り出したものですから、やはり永久機関だろうと思います。ある場所へ行ったら別なものに変換されるけれども（注＝転生してさまざまの肉体を持つけれどもの意）、そのエネルギーの進行自体はリレーによって次々と伝えられてゆくわけですから、一種の永久機関だと思うんです。

そのように考えてみますと、もし宇宙自体が永久機関だとしますと、地球人が創造主的な方向に意識を変換させて、その姿勢で物事に取り組むならば、人為的に永久機関を作ることは可能だと思うんです。ヒナ型があるわけですから――。抽象的な話になりますが、やはり重要なのは意識改革ではないでしょうか。

以前に円盤、母船の動力部の話をしましたね。あれは六角形の集合物体の中の空間が光るんです。その六角の物自体がパーッと光るんじゃなくて、六角形の物の中のそれぞれの空間が光るんです。ハチの巣の中心部分の空間です。あれを見たときにハッとしました。たとえばセント・エルムの火とか、あの静電気をともなった空中発光現象がいろいろありますが、まだ原理はわからないでしょう。ああいう現象とからんでいるように思いますね。

近年話題になった事件で、フィラデルフィア事件というのがあります。あれはある艦船に強力な磁気をかけることによって、ある種の実験をやろうとしたら船が消えたというわけです。何分か後に船の姿がもどってきたけれども、乗っていた乗組員は発狂寸前になったとか、変な生物に会ったなどといわれています。アインシュタインがらみだったと聞いていますが、何かあったのでしょうね。

アインシュタインといえば、聞くところによると宇宙人とコンタクトしていたそうです。これは宇宙人から聞いたことですから間違いありません。

彼は相対性理論の特殊のほうを出すときに、すごいスランプにおちいって壁につきあたっていたんです。その壁が取れないと、あの理論は導き出せないんです。ところが彼が導き出さない限りあの理論は四十年遅れたはずなのです。

宇宙人はそれを読みとって、ある日非常に簡単な示唆を与えたそうです。夢で示唆を与えたのか、それとも直接に会って話したのかはわかりませんが、彼は夢で見たとは述べていませんから、たぶん宇宙人が直接会って示唆を与えたんだろうと思います。それによって急速に問題が解けたんです。しかしそれを教えたために宇宙人側にもいろいろ問題が起こったらしいですよ。直接の伝授ですからね。

宇宙人は最近は科学者にあまりヒントを与えないようです。宇宙人に言わせますと、地球人は力を持っているのに、それを充分に使わないだけだというのです」

自分の事は自分で解決せよというのだろう。これが真の進歩向上になるのだとアダムスキーも言っている。

円盤発進時の想念の応用

――円盤の推進原理ですが、アダムスキーによれば、円盤自体に人工重力場を発生させて完全な無重量状態にしておけば、あとはわずかな推力で光速に近いスピードで飛ぶのだということです。それはわかるのですが、その推力をどんな方法で与えているのか、これが全くわかりません。この真相はどうです？

「ええ、そこの問題です（しばらく言葉がとだえる）。いまいろいろ仮説が出ていますが、さまざまの側面を解明していると思うんです。イオンクラフトとか――。

こういう話があります。二枚の円板を距離をおいて重ねて、ベアリングで間を離します。そしてその二枚を互いに逆方向に高速で回転させると空中を飛ぶんです。その他いろいろな浮揚方法がとなえられていますが、それぞれ一面をとらえていますよ」

ここでGAP本部役員の遠藤昭則君の金星文字解説による円盤の推進原理の研究と、小型モーターの開発について話す。しかしまだ推力を与える方法までには至っていない。

「ははあ、そうですか。あとはスイッチですね（しばらく無言）。根本的には想念の力ですね。ですから念力の非常に強い人とタイアップして研究すれば早く解明できるかもしれません。

たとえば模型が浮かび上がった段階で、『一定方向に動け！』という強力

な念をもたせたら、物体にたいして想念による作用を起こさせます。空中に停止している実験用物体に、最初にちょっとでも力を与えればよいのです。内部から推力を与えることは物理的にはできませんが、想念的なやり方だったらできるんです。いまのところ、その手の超能力者をどこかから引っ張ってこないとだめでしょう」

――円盤はそんなふうに想念の力を応用しているわけですか。

「ええ、スターターの段階では想念の力が非常に重要なのです（注＝この件は本誌93号の連載第一回の記事を参照）。だから、いくつかのスクリーンの前で、最初は想念コントロールを二、三回くり返しながら最初のスイッチが入ります。なぜああやってスクリーンに自分の心をフィードバックしながらこまかくやるかといいますと、そこにテクニックがあるんです。あれほど高度に発達した宇宙人でもスクリーンを用いてフィードバックしながらやるわけです」

――機械的なエンジンのようなものはないんですか。

「いや、それはあるんです。ただスターターとして人間の想念が必要なんです。出発するときに――。あとは機械ですよ」

霊界や守護霊は波動の映像化

続いて心霊研究家などの話になり、いわゆる守護霊なるものが話題となる。もちろん我々は二人とも守護霊の存在を肯定する者ではないが、一見存在するように見えるメカニズムについて春川氏は語る。

「あの守護霊というのは人間の意識の中の最も波動的な部分です。それは一つの人格的なものなのでしょう。しかし最後の発想の違いで波動が霊と感じられるわけです。ですから守護霊に守られていると思い込んでいる人でも、うまく指導を受ければアダムスキー的な波動に気づくでしょうがね」

――一見守護霊のように思われるけれども、まるきり違うということですね。

「そうです。この前もある集まりに行ってみましたら、その人々はある新興宗教の信者で、霊とか竜神などの存在を信じているんです。これも本当は波動にたいして錯覚を起こしているんですがね。

竜神などの姿を見るという超能力者がいるんですが、あの場合も、細い神経をつかさどっている意識の波動が投影化して見えると、長細い物に見えるんです。その錯覚ではないかと思います」

――幽霊が見えるというのもその手ですか。

「ええ、これは明らかに波動感応です。感応して自分が映像化しているんです。つまり自分がテレビジョンになるわけです。そこまで気づかないんです。

以前、私の友達でコンピューター技師がいて、ある旅館に泊って幽霊を見たというんです。そのとき彼は正確に分析していまして、フスマの前に出たというんですが、最初は幽霊が完全に映像化してなくて、映像化する前にフスマの黒い色と白い色とが白黒写真のネガみたいに反転したというのです。つまり黒い部分が白くなり、白い部分が黒っぽくなったわけです。そしてその部分の中に幽霊が白く浮き出たということです。これは心霊現象よりも何か物理的なものじゃないかと話し合ったものです」

――幽霊写真はどうです？　よく幽霊が写ったりすることがありますが――。

「あれも写真のフィルムが波動的なものに敏感に感じやすいからでしょうね。心霊写真はいくつか見ましたし、私が撮影すると、その手の写真が写ることがあるんです。白いモヤみたいなものがかかったりして。

これもフィルムの感光剤がエネルギーに感じるのだと思います。念写的原理だと思われますね。念写の場合も、いったん波動に感応した能力者の想念がそれを増幅し、別質のエネルギーに変換してフィルムに感光させるわけです。

人間の想念は変換作用を持っているんです。念写も実験してみましたが、カラーが白黒になったり、白黒がカラーになったり、いろんな現象が起こるんです。ですから念写も強大なエネルギーを瞬間的に発生させる人間の作用だと思います。そこで、何がきっかけとなってエネルギーがパッと出るかといいますと、それが波動なのです。

だから現象の裏側まで追求する姿勢のある超能力者は最終的に生き残りますよ。ところが非常に心霊的なものにおちいっている人は現象の面白さだけを追っているのであって、それを追いかければ追いかけるほど混乱してくるんです。そのレベルで止まった超能力者は人格的にメチャメチャになるんです。

アダムスキーはそこの真理をちゃんと押さえていますね。彼自身もそうした超能力的な現象を体験していたと思うんです。そして彼はその裏までつかんだわけですね。だから彼は哲学関係の書物で厳然と書いたのでしょう」

――アダムスキーは相当な超能力者だったようです。テレパシー、遠隔透視、オーラ透視などの力があったそうですが、自分の書物では自分の能力のことをあまり書いていません。私はアメリカへ何度も行って、アダムスキーの弟子だった人たちからそのことを聞きましたがね。

続いて六月に来日したイスラエル人のアレックス・タナスというすごい超能力者の話になる。驚異的な実演をやるようだが、それほどの人でも何かの実験で自分の魂が体から脱出すると信

じているらしいが、実際はそうではないのだと春川氏は語る。ただし彼は日本の若い人の自殺多発現象を二年ぐらい前から予言していたが、それをくいとめて若い人たちに未来にたいする有益な想念を出してもらうためのきっかけとして来日したと宣言したので、ただのショーマン的超能力者ではなく、近来まれにみる立派な超能力者だと氏が説明する。

超能力ヤングが輩出する近未来

続いて編者がユリ・ゲラーを上まわるほどのすごい超能力者でイスラエルのロニー・マックスという人の話をしてから、春川氏がきわめて興味深い発言をした。

「私たちが具体的に超能力関係の動きに入ったのは一九七四年（昭和四十九年）から七七年（五十二年）にかけてのことです。この世代に入った超能力者は沢山いるんです。

それで一九八八年、つまりあと二年先にもいっきに若い超能力者が出てくるんです。いまその予備軍がかなり出てきているらしいんです。たぶん日本人で沢山出てくるでしょう」

――その人たちはこれから生まれるのではなくて、今まで自分の超能力に気づかないでいて急に気づくようになる人たちですか。

「そうです。急に気づくようになるんです」

――それと似たようなケースですが、日本で救世主が出現するというような予言みたいなものがありますが、これはどうです？

「私は救世主理論というのは、あるグループの作為的な操作があると思うんです。そのグループは東南アジアに一人出そうとしているんです。いろんな超能力者をあやつってノストラダムスの予言にからめてやっているわけです。フランスにノストラダムスの研究家がいて、この人が日本に救世主が出ると予言したんです。その予言が本物かどうかは、まだ直接の交流がないもんで波動を感知できない状態ですが、日本で立たせようとしている動きもないことはないんです。

いつだったか横浜で六歳ぐらいの女の子が狂人に刺されて死んだ事件がありましたが、その記事を見たとたんに、その女の子がものすごい超能力者だということが波動でわかったんです。その女の子がもし生きて大きくなれば将来、偉大な超能力者として世に出たかもしれません。心霊に狂った狂人に出刃包丁で一突きにされたということでした。

ですから理想的なケースは超能力を持つ少年少女が沢山出てくることです。

宇宙人によれば、私はそうした人たちを見守って、うまく歩けるようにするためのお膳立てをする任務を帯びた人間らしいんです。とにかく超能力少年少女たちが社会に公然と受け入れられるように仕向けることと、マスコミの体質もそのようになるように根回しすることにあるようです。それで私も名前を表面に出さないで、そうした超能力のある若い人たちの教育をやっているわけです。

幸いなことに今の若い人たちはそうした超能力的な精神的なものを非常に簡単に受け入れてくれますし、ある意味では一つのファッション化していますので助かります。流行が持続すると一つの文化になりますので、なんとかそこまでもってゆきたいと念願しているところです。

たしかにUFO問題が今はある程度市民権を獲得しつつありますように、超能力も次第に定着しつつあると思いますね。それからみますと多年この方面で活動してこられた久保田先生の功労は大きいと思います。先生の活動のベースの上に私などがこうしてお話できる状況が出てきたわけですからね。私もこれから大いに頑張るつもりです」

延々と続く春川氏の深遠なインフォメーションに圧倒されるばかりで興趣は尽きないが、連載五回にわたるこの記事により、氏の高潔な人柄とその宇宙的体験が尋常一様でないことは読者にも察知できたと思う。宇宙哲学的に言えば、この記事から（もっと具体的に言えば、ここに印刷されている文字群から）発する〝波動〟をキャッチして内容のレベルを感知されたことだろう。

ここでもう一度春川氏の人物像について記したい。

まず氏の雄弁ぶりには感歎のほかない。言葉を選びながらボソボソと話すタイプではなく、豊富な語彙と相俟って、一瀉千里、滔々と明快な言葉が流れ出る。もっと驚くのは抜群の記憶力。よくもこうまで覚えていられるものだと呆れるほどに人名や地名などの固有名詞がポンポン出てくる。

スペース・ピープル（友好的な異星人）から直接聞いた話と自分の意見との区別を必ずしも明確にしないが、氏が「宇宙人から聞いた」といちいち言わないのは、選ばれた人としての誇らしい態度を極力避けようとしているからだと思われる。

確かに氏はきわめて謙虚であって、喫茶店やレストランなどの支払いを当方が持つと、毎回ひどく恐縮して丁重な謝辞を述べるが、それは決して儀礼的なものではなく、誠意のこもった態度である。

氏はアルコールは全くやらない。したがって氏との会食はいつもアルコール抜きの食事であるから、楽面の会話となって話の崩れがない。ただしスペース・ピープルは地球人の飲酒を必ずしも咎めないという（注＝本誌94号23

頁を参照)。要は好みと量の問題だろう。

氏が非常に思いやり深い人であることは、あるとき氏の自宅での対談中、電話がかかって「あの人はいま大変苦しいときでしょうから、なんとかして助けてあげましょうよ」と応答していたときの音声で理解できた。それは心底からの同情と憐れみに満ちた声で、いまも脳裏に響いてくる。

何よりも驚嘆するのは氏のテレパシーの能力である。ある会員の原稿の内容について氏の意見を求めたところ、読む暇のない氏はテーブル上に置いた原稿の束に両手をあてて言った。

「この筆者の方はすでに亡くなっている年上の女性の問題に熱中していますね」

まさにそのとおりだった! 原稿から発する波動で感知するのである。これに類する氏の〝実演〟を何度もまのあたりにした編者は、これが本物の波動感知力かと舌を巻いたものだ。

氏は心霊現象そのものを否定するのではなく、その現象をすべて死者や生者の〝霊〟の仕業とする心霊家の説を否定し、現象自体は波動に対する体験者の錯覚だと言うのだが、これはアダムスキーの『生命の科学』に述べてある理論と一致する。アダムスキーも、心霊体験、特に霊界通信は霊媒の体内の細胞から来る印象(波動)であると説いている。現段階の科学で未解決な問題であるためにまだ決着がつかないけれども、来世紀になれば解決の糸口が出てくるだろう。

とまれ春川氏の出現はアダムスキー問題の信憑性を大きく浮上させた。そして私たちのGAP活動にこよなき激励と力を与えてくれた。一般社会の裏面でひそかに発生している、大衆の夢想もしないような出来事を〝事実〟として立証し、大衆に認識させる作業は、正直に言ってわれわれには荷が重すぎるし、難問が山積しているけれども、活動を続ける価値はあると確信する。

日航機事件について

――去年十一月にアメリカのアンカレッジ付近で日航機の機長が見たという巨大なUFOはどこから来たものですか。

「そうですね、あの件は波動的によくわかりませんが、ただ考えられるのはむかしニコラ・テスラという人がいましたでですね。あの方の開発したテスラ理論というのがあって、その理論は空中に磁気の塊を作って、それにミサイルなどを吸収して分解するという手段です。テスラは自分は金星人の生まれかわりだと自分の文章で書いていますが、独特な精神性を持った人です。

ところが彼の死後大量の文献が持ち去られています。某国が持って行ったのではないかといわれているんですが、そのあとその国の上空に光の玉が出るケースが非常に多くなったんです。ですから他の惑星から来たものか地球的なものか、いまちょっと波動的にわかりにくいんです。写真があれば鮮明にわかるんですがね」

(注=ニコラ・テスラは一八五六年から一九四三年まで在世したアメリカの電気工学科学者。エディソンの研究に協力した後、多相交流による回転磁場の中で誘導電動機の原理を発見し、テスラコイルと呼ばれる変圧器も開発した。セルビアの生まれで米国に帰化)

そこで編者はカバンの中から写真週刊誌エンマに掲載された寺内機長の大きな写真を出して見せた。

「ほほう、この写真を見るのは初めてです。図面も描いてありますね。これなら(波動で)わかります。これは別な太陽系から来たものですね。しかしこの機長の方もよく大胆に発表されましたですね。航空関係者は厳重に口止めされているんでしょうけれど。

今年はUFOの出現事件が多いと思いますよ。なにか十年周期みたいなものがあるようです。UFOフラップ(騒動)が七七年にあって今年の八七年にまた発生しそうです。地球人にたいする意識的な調整みたいなものだというのでしょうか。地球人が忘れかけた頃に出現をふやして目覚めさせるのでしょう」

後日、日航機長が目撃したUFOについてFAA(米連邦航空局)アラスカ支部はレーダーなどの分析では実体は存在しなかったと発表した。しかし米政府機関がUFO事件に関してズサンきわまりない公表をすることはむかしから定評がある。やはり何かを隠しているのだろうか。

宇宙は有限か無限か

――スペース・ピープルは宇宙が有限なのか無限なのか、その点をどういうふうに言っておられますか。

「それはこうです。われわれ地球人のレベルから見ると、地球人に感じ得る限界があるというのです。その感度の限界の外側には(注=宇宙の外側の意味ではない)地球人の知覚できないもっと広いものがあるというわけです。いくつかの基本的な、生命の内在する単位があるらしいですね。感じる広さの――。それによって、もっと大きいものがあるというのです。

スペース・ピープルもそれぞれに感じる段階の範囲があるのです。ただし地球人が感じている宇宙よりもスペース・ピープルの感じる宇宙のほうがはるかに大きいようですね。ですから彼らとしても、そこから先は未知なのでしょうけれども、その枠の中で計算すると基本的にはやはりかなり外側にずーっと広がっているということになるようです」

――そうすると無限ですか。

「うーん、そこはむずかしいところですね」と春川氏は笑う。

――宇宙がもし無限であって、果てがないということになれば、三次元空間の概念が成り立たなくなって、空間とはいったい何かということになります。あるいは宇宙の遠い果てに巨大なコンクリートの壁のようなものがあって、それが球状をなして包んでいるとすれば、その外側にまた別な球状の宇宙があり、そんな宇宙がハチの巣状につながっているとしても、やはり無限ということになりますが、ずばり有限か無限かについてスペース・ピープルはどのように言っておられますか。

「私もそれと同じような質問を出したことがあります。そうすると宇宙人は『あなたの感じる宇宙空間の中で勉強するようにあなたがたは生きているんです』と言っていました。ですから、それ以上の範囲を知ろうとすること自体が、本当の意味での、生命を進化させる意味での興味の対象からはずれているんですよ、と遠回しな言い方をしていましたね。

その発想でゆくと、宇宙はかなり外側に広がっていて、吸収する部分と拡散する部分が個々にあって、呼吸するような構造でもあるんです。ですから外側に広がってゆく部分が収縮したり大きくなったりを繰り返して、感じる範囲内の宇宙空間の呼吸の数がきまっていて、それぞれレベルが違うようです。

ですからたとえば遠く離れた銀河系にいる人間が他の銀河系へ行く場合は、それなりの肉体的な変調が必要になるようです。そこらへんのいろんな形での、いわば生命宇宙ともいうべきものの範疇が個々にきまっていて、そのようなカプセルが沢山集められた大きなフロシキみたいなものがあって――というすごい多重構造になっているようです」

――宇宙は膨張しているという説がありますが――。

「基本的には膨張と収縮を繰り返しています。つまり呼吸をしているという感じですね」

宇宙は波動の法則のあらわれ

「これは最近のあれですが、何かの物体が動いていても、実は物体の中自体に一種の波があるんだそうです。その波というのは現在の地球物理学的に検知できる波以外に、動いているハウリングがあるらしいですね。そのハウリングの中にもいくつか波長があって、その法則をもっと深く追求してゆくと磁気的なものがわかってくるらしいんです。その関係が、そこから生み出す意識の部分で感じる波動ですね。

ですから宇宙自体もその波動の法則からはずれていないんです。何もないキャンバスがあって、そこに波線を描くように波動があるというかたちではなくて、宇宙自体が波動の法則のあらわれなんです。人間自体もそのあらわれです。同じ型の連続体です」

――そうすると、たとえば私なら私が即宇宙そのものであり、宇宙とは私であると言えますね。

「それは言えますね。ですから、それを意識レベルで主観的にとらえるといいますか、テレパシックにとらえることができるはずなんです。

ですから宇宙の果てがどうなっているかということも、その答は人間の内部にあるはずです。それを感じる機関もちゃんとあるはずです。それがわかると自分の範囲も広くなるでしょう。

宇宙には壁みたいなものがあるのを母船内のスクリーンで見せられたことがあります。壁といいますか、光る綿を集めたような弾力性のある壁がありまして、そこにいくつかの小さな光る球がバーンバーンとぶつかっては、はね返る光景でした。そのうち、光の球のいくつかがそれをぶち抜いて外側へ出て行くんです。

これは何だろうなあと思って見ていましたら、『これが果てなのだ』と宇宙人が言っていました。ある循環を繰り返した魂が成長過程を超えて違うレベルに参入する瞬間だというのです。面白い光景でした」

――それは何かを象徴的にあらわしたものでしょうね。

「ええ、そうだと思います。現実的な形のものではないと思いますね。非常に面白い象徴です。

いろいろ面白い象徴があります。たとえば円盤の飛行原理ですが、あれを考えていたときに、やはり母船のスクリーンの中に、谷間みたいな所があって、その谷間へ円盤が降りてくる光景のビジョンを見たんです。ところが円盤はそこへクルクルッと回りながら降りてくるんです。そういう所では皿まわしのような施回を何度か繰り返しながら降りるんですが、それ自体に磁気的な意味があるんです。そういう盆地的な所に降りるのにクルクルと回るんです。学者がその光景を見れば意味がわかるかもしれません」

時間について

――時間についてはどうです？　時間というものは存在するのかしないのか、または時間の永遠性については？

「そうですね、時間というものは相対的なものだと宇宙人は言っていました。要するに私たちは空間を把握するのに縦、横、高さという考え方の軸があって、それにもう一つ意識という軸があります。この軸が変調されると時間のとらえ方が全然変わってくるというんです。

時間自体にも一つのエネルギーがあ

って、そのエネルギーの調節バルブみたいなものも意識の中にあるらしいんです。そうすると、地球では同じ波動をずっと保っていますから、意識レベルでも、ここだけは変わらないという部分をお互いに持っているわけです。そして同質結集の法則によって、その枠の中では時間のとらえ方は大体にこれぐらいだという地球時間が生じてきます。

ところが他の惑星へ行って、多少ともその枠が広がれば、時間のコントロール範囲といいますか、時間のエネルギーの圧力が希薄になるんです。そうすると時間にたいする観念がもっと自由になります。

ですから、われわれ地球人は時間の進行を一日二十四時間ということで絶対的な節目を持っていますが、この感じ方の収縮はもっと激しくなるんです。われわれは楽しいときに時間を短く感じ、マイナスの感情を起こしたときに時間を長く感じますが、それ自体はかなり物理的なものらしいんです。そういう意味では時間というのは一つのエネルギーなのでしょうね。そのような観念は宇宙人からよく教えられましたね。

母船内のスクリーンで見せられたいくつかのパターンサンプルのなかで、植物が種子から成長して枯れるまでの光景がありました。それはバイオフィードバック的なのですが、見るこちらが非常に不安定な感情になってくると、その植物の盛衰が激しく見えるんです。パーッと早く枯れるんです。

ところが安定してくると植物も非常に安定し、ある意識を持つと花の咲く時間が非常に長かったり、実が大きくなるビジョンになったり、それぞれ違うんです。私は一時間ばかり自分の時間の感じ方をそのスクリーンの前で試してみましたが、いろいろな自分の思い出を浮かべてみて、その思い出なりのいろいろな感情をサンプルとして出して、そのパターンの装置にぶっつけてみたんです。するとその植物の育ち方が微妙に変わるんです。実の色が変わってきたり、芽が出たらすぐ枯れるとか——。フィルムの早まわしみたいな状態です。

これは感情の出し方、または想念波動の出し方によって時間自体が変化するわけです。しかも他の生命、たとえば私たち地球では人間以外に別な生命があるわけですが、その生命の時間にも人間の意識が影響を与えるということの象徴だと思うんです。

そういう感じ方をしたら次のカリキュラムにパッと移してくれます。次へ移れたということは正解を出したからで、正解が出なければ同じことばかりやらされるか、またはスクリーンが中断した状態になって終わりになります。だから時間の感じ方はやはり相対的なものだと思いますね」

意識の法則が最重要

——いまのアメリカのニューサイエンスは良い方向に行っているんでしょうね。

「ええ、そう思います。統一場理論にせまろうとしていろんな角度から斬り込みを始めていますし、結構直感的な発想も出ていますね。いままでは物理学の人たちだけが時間の問題に取り組むという状態でしたが、いまは生物学やいろんな分野から研究者が出ていますからね。最終的には心理学もからまないと具合が悪いでしょうね。

ですから観察されるものは人間の四つの感覚器官という表面的なものだけでとらえようとしていますからね。それを基準にしてとらえようとするうちはどうもダメだと思いますね。

だから意識に関する法則性をみつけないと基本的にはむつかしいでしょう。すべての分野は精神研究によって閉ざされた封印が解かれると思うんです。

ヨハネの黙示録にある七つの封印を解くというのは、そういうような意味もあるんじゃないかと思いますね」

——地球の自転軸も意識の変化によって変わるといわれていますね。

「ええ、自転軸は人間の意識のバロメーターみたいなものですからね。あの自転軸がよろめくということは意識自体にどういうエネルギーが加わるか、人間からどんな想念が出されるかによって物理的に変わってくるんです。

だから地軸がよろめくから人間が危いんじゃなくて、人間がよろめくから地軸が危くなるわけです」

春川氏は結局アダムスキー哲学と同じ性質の宇宙的な思想を展開してきたのである。氏は十数回にわたって編者と会見し、食事を共にしながら、毎回長時間にわたりコンタクトの体験、世界の裏面にひそむ事実等の秘話を語った。その談話のすべてはテープに録音してあり、ぼう大な量に達している。本誌に公開した記事はほんの一部分にすぎないが、五回にわたって連載した世にも稀な体験記は一応これで打ち切ることにする。

読者は大体に別な惑星、特に金星の偉大な文明とそこに住む偉大な発達をとげた人々、宇宙船などの実態が把握できたと思う。この記事こそはアダムスキーの体験の傍証として世界で比類なきものと確信する。春川氏に衷心より感謝する次第である。

この記事はいずれ一本にまとめて補筆の上、単行本として他の出版社から刊行する予定である。時期は未定なるも今年中には実現すると思われる。その場合は本誌に広告を掲載するのであらためてお読みいただきたい（編者）。

投稿欄 ユーコン広場

ア氏の著書を精読しよう

仙台　笠原弘可

重ねてのお心配りの電話をいただき恐縮し、また心から御礼を申し上げる次第です。

私自身、今回の事、更に会社の民営化等を通して感じていますことは、要は徹底的に自分が変化しなければ駄目だということです。身辺に起こるあらゆる状況は自分が創り出し、また引き寄せていることですから、誰の責任でもありません。幸い長年先生のもとで宇宙哲学を学ばせていただいているお陰で、最悪の状態になることはないのですが、今後は宇宙的な飛躍をしなければ今生の目的が達成できません。

最近痛感しますのは、アダムスキー氏の著書を充分に読まない会員はやはり中途で挫折したり別な方向へ行ってしまうということです。本当に宇宙的活動をやろうという人は、ア氏の著書への強い関心が永続するはずです。今後の仙台支部運営の根幹として、これから集う方へは「ア氏の著書の精読」「久保田先生の解説聴取」をすすめるつもりです。

今回も色々と御指導にあずかり勉強させていただきました。益々GAP活動に力を入れていく所存ですのでよろしくお願い致します。GAPの発展をお祈り申し上げます。

〈筆者は仙台支部代表〉

信念をもってGAP活動を

鳥取県　上田幸男

五月とはいえ連日暑い日が続いておりますが、いかがおすごしでしょうか。三月の松山支部大会で先生が紹介された「ポストンクラブ」という本を読んでみましたが、やはり素晴らしい本でした。

実は松山支部大会が終わって何日かたった四月のある日、だんだんと衝動が高まってきまして、春川正一氏がA氏であることがわかりました。そして氏がポストンクラブの代表であることを知り、書店に頼んで「ポストンクラブ」を手に入れたのです。

記事はA氏で始まって久保田先生で終わるという構成で、「何か意味がありそうだな」という気もしましたが、他の記事も心霊的・神秘的なものは全くなく素晴らしいの一言でした。「数年後にUFOと超能力の本格的ブームが起こる」とUコンの中に載っていましたが、その根拠がわかったような気がします。

ポストンクラブはまだスタッフが少ないということですが、その中で潜在意識について記事を書かれた角慎作氏という方は、岡山県の美作(みまさか)の出身ということで（美作は岡山の北東部で、私の所から列車で一時間位の所）、近くにそんな素晴らしい方がおられたということで、私も大いに刺激されて、GAP活動で何か大きなことをやってやろうと決意を新たにしています。

さてそのGAP活動についてですが、先生もご存知のように仲間がいないということであまり目立った活動はできていません。しかし何とかして仲間を集めようと思い、先日送って頂いたUコンのバックナンバーを新聞紙上で呼びかけて無料で譲るということをしています。今までに二回行いましたが、連絡がきたのは各回一人ずつで、しかもこちらからお送りした後に一度お礼の手紙を頂いただけで、その後何の連絡もありません。おそらくアダムスキー哲学を理解できなかったのでしょう。やはり山陰地方は昔からの古い習慣が強く根づいている所ですから、いくら静かで平和的だといっても、古いカラをいつまでも破ることができないのでしょう。

とはいえまだ山陰地方ではGAP活動は始まったばかりですから、気落ちせずに不屈の信念と忍耐力でがんばっていこうと思っております。もちろん気落ちしそうになることもありますが、そのたびに私は「宇宙からの訪問者」の中のファーコンの言葉、「私達は失望なるものを知りません。ずっと昔、私達は信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力などを学びました。昨日失われたゴールを明日は勝ちとることができます」を思い出すようにしています。

最近も妹に頼んで妹の通っている高校にUコン93、94、95号を寄贈しました。いずれはUコンを毎回、そしてアダムスキー全集なども寄贈しようと思っています。また他の高校や大学、図書館などに寄贈して、少しでも多くの方々に有益な本を読んでもらいたいと思っています。

そこで一つ先生に質問させて頂きたいのですが、これらの教育機関に本を寄贈する際、手紙で依頼するだけでもよいのでしょうか。それとも直接そこへうかがってお願いをするべきなのでしょうか。つまらない質問かもしれませんが、どうか良いアドバイスをお願い致します。

またこれはお願いなのですが、これから献本活動を続けていく過程において、その寄贈された本を読んでGAP会員になりたいという方が出てくるかもしれません。ですからその時は御面倒でも私にお知らせ頂けないでしょうか。何卒よろしくお願い申し上げます。

GAP賛歌

福岡市　田中信代

松山支部大会では素晴らしいご講演をありがとうございました。テープと違ってやはり先生の姿を前にしてナマの声を聞くのは迫力があって心にビンビン響いてくるものです。また喫茶店での会話もとても楽しいものでした。

私は先生を心から尊敬しているのですが、だからといって悟り澄ましておられるのではなく、意外な一面も持っていらっしゃるのには安心し嬉しく思いました。豪快で包容力があってユーモアも解するお人柄はとても魅力的です。GAPに入って本当によかったなと思います。伊藤さんをはじめ、松山支部の方々のお心尽くしにも感激しました。

九州の人間は何というか気性が荒く、根はお人好しでやさしいのですが、その表現がヘタという気がします。だからこそ表面的な言動にまどわされず、その人の本当に良い所を見るようにしなくてはならないんですよね。

月例会のことでいろいろ言ってしまいましたが、一つにはGAPの何だか溶け込めないような気がしていたものですが、松山支部大会に参加して、いろんな人がいるんだな、その人をありのままに受け入れてあげればいいんだなと悟りました。そしてまず自分から明るく楽しい雰囲気を作っていくように努力すべきだと決心しました。

私もどちらかというと周囲の雰囲気に影響されやすいので、もっとパワフルになって何事もどんどんプラスの方に変えるマジックを持ちたいと思います。いろんな意味で松山支部大会は実りの多いものでした。本当にありがとうございました。今年は残念ながら海外旅行には参加できませんが、来年はぜひ行きたいと思います。それまでに英会話の方もまた勉強し直そうと思っています。これからも益々がんばって下さい。

知らせる運動の一端を果たす

鹿児島市　曽我部くみ子

先日開催されました静岡支部大会に参加させて頂き、有意義な連休を過ごすことが出来ました事をとても感謝しています。全てに宇宙的な波動というものを肌で感じる事が出来ました。

私は市内観光は初めての体験だったのですが、私達の住んでいる惑星地球を少しでも理解するいい機会なのだと認識する事も出来ました。私なりにいろんな発見のある大会とな

りました。

久保田先生をはじめ静岡支部代表の野口さん、高梨さんの御講演に感動しました。頭で理解するのではなくて意識が理解しているという感じでした。とても楽しかった支部大会が無事に終わり、最後は静岡駅の改札口で会員の方々が笑顔で手を振って見送って下さった光景がとても印象に残りました。初めてお会いする方々なのにとても親しみを覚え、全身が嬉しさでいっぱいになりました。帰りの列車の中でしばらくボーッと余韻にひたっていました。

波動がいい時はいいもので、列車の中で前の席に居合わせた方がとても温和な方でした。最初はたわいもない世間話をしていたのですが、話が進むにつれてその方がクリスチャン（シスター）であることが次第にわかってきました。するとその方が突然UFOに関する話をされたのです。上京なさる時の列車の中で超能力とかUFOとかを研究なさっている方と席が一緒になったそうです。

そのような事から御自身もUFOは娘さんの時分に（現在五十二歳くらいの方）目撃された事があるという話をされました。コーラスの練習の帰り道で、まわり一面は田んぼだらけの人家のない、まっくらな場所だったので、怖くなって走って逃げて帰ったということでした。その当時はUFOとかいう認識はなかったようですが、後になっていろんな情報から、自分が見たものはUFOだったのだと確信したという話でした。そのような事なので、とてもきさくで話しやすい方でした。聖書の中にもUFOの事が述べてありますねと頂いておられました。

私は嬉しくなって手許のUコン97号を早速お見せしました。ところどころ熱心に読んでおられました。別れぎわに「とても興味深い話、楽しかったです」とおっしゃって下さいました。私なりに「知らせる運動」の第一歩であったように思いました。静岡支部大会での野口さんの御講演の〝連鎖反応〟の事が印象にありましたので、私のようなものでも人に影響を与えることが出来たのだと嬉しくなりました。行く時と帰る時の私はまるで別人のようでした。非常に緩慢ではありますが、私なりに成長しているのだと確信しました。これからもよろしく御指導のほどをお願い致します。

素晴らしかった青森・秋田合同支部大会

青森県　中根　豊

六月二十一日の青森・秋田合同支部大会におきましては大変御苦労様でした。五年ぶりの支部大会ということで何かと不手際なことがありましたが、どうぞお許し頂きたいと存じます。お忙しい中、遠路はるばる大勢の会員の方々に出席頂き、両支部一同心より感謝しております。

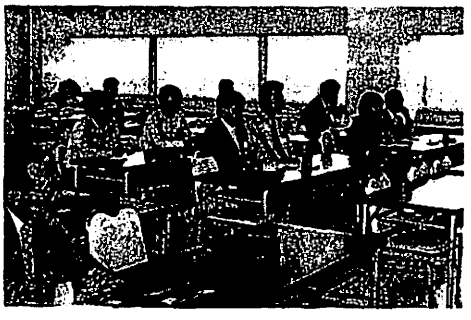
また久し振りに直接拝聴できました久保田先生の御講演は大変素晴らしく、心から感動したしだいです。「信念をもって自己を向上させ、真実を少しでも多くの方に知って頂けるよう、もっと積極的に日常から変えていかなくては」と心新たにしたところです。本当に力強い御講演をありがとうございました。

翌日の十和田湖観光はいかがでしたでしょうか。前日のどしゃぶりの雨とは打って変わってお天気にも恵まれ、自然の雄大さと美しさを満喫して頂けたことと存じます。八甲田山、十和田湖はエネルギーの集中点ということで、UFO目撃の声を期待していたのですが、そちらの方は今一つ盛り上がりに欠けたようで少し残念でした。

ただ函館の坂野さんから十和田湖遊覧船上で黒い物体を目撃されたとのお話をうかがいました。ただしUFOか鳥か確認できなかったそうです。私自身も八甲田山をバックに記念撮影をした湯の台で、八甲田山と反対方向にどんよりと灰色に垂れこめた雲の中に、ひときわ白く光る小さな雲を見て、何かしら不思議な気がしました。そこから奥入瀬（おいらせ）渓流に向かう途中、やはり太陽の左側に気になる小さな雲があり、これは夕日に照らされたような色でした。また十和田湖から空港へ向かって山を下っている時にも、車の中から太陽の左側に同じく夕焼け雲のような小さな雲を見かけました。気象学に詳しくないので、ごく普通にありうる現象なのかもしれませんが、手持ちの本ではよくわからず、いまだにあの雲が気になっております。

この大会では本当に多くのことを学ばせて頂きました。久保田先生、出席して下さいました方々、また合同支部大会をこころよく引き受けて下さり、積極的に大会の運営にあたられました秋田支部の皆様、青森支部の方々に心よりお礼を申し上げます。また全国各地の会員の皆様から激励の想念を送って頂き、支当に有難く存じます。これからもどうぞよろしく御指導頂きますようお願い申し上げます。

◀講演中の久保田会長


◀熱心な参会者

UFOと超能力のSIG誕生！

千葉県　植木淳一

日本最大のパソコン通信（PC-VAN：NEC：約四万人）にUFOのコーナーを開設。GAP活動にぜひご利用ください。詳細は植木淳一（☎〇四七四―七七―〇二〇〇）まで。

テレホンサービスを開始

栃木県　渡辺克明

日本GAP栃木支部は「知らせる運動」の一端としてNTTと提携してテレホンサービスを開始することになりました。これは全国どこからでも☎〇二八九―六二―〇〇〇〇へダイヤルをまわせばUFO問題に関する女性の解説の声が聞こえてくるという仕組みになっており、今年九月一日より百三十日間電話による放送を続ける予定です。電話は昼夜をとわずかけることができます。主催は栃木支部で、原稿一本分（約十分間）を連続十日間放送し、全部で十三本を放送します。

原稿は私が書き、それを栃木支部会員の稲見雅子と高村由美子がナレーターとして朗読したテープが流されるという趣向です。聴く人は一般大衆で、特に若い男女が多いと思われますから、アダムスキー問題だけでなく、UFOの入門的な事柄も広く加えて関心をそそるように工夫しました。十日ごとに変わる題名は次のとおりです。

(1)UFOとは何か
(2)古典に見るUFO飛来
(3)古代遺跡と宇宙人の謎
(4)UFOはどこから飛（44頁へ続く）

第9回静岡支部大会

●昭和六十二年五月四日（祝）
●静岡市　静岡ステーションホテル
●出席者　百名

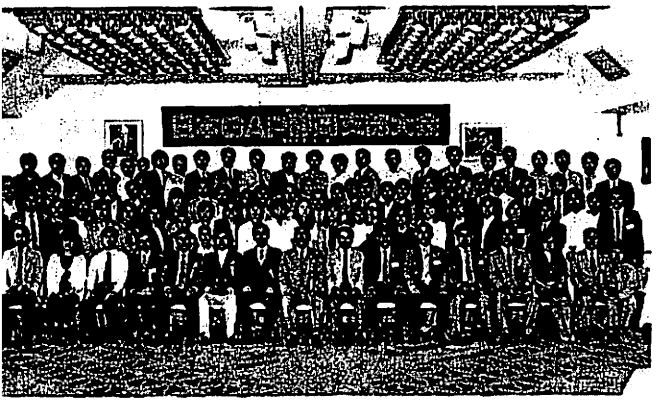
支部設立十周年、支部報発行百号記念として開催された今年の支部大会は、北海道や九州と全国から熱心な会員の皆様が多数参加された。大会は脇氏の司会で始まり、会員の体験講演として高梨和明氏は「ミラクルワード・ミラクルイメージ・宇宙の意識」、野口敏治は「実践アダムスキー哲学」、そしてメインの久保田会長の講演は「宇宙的人間になるにはどうしたらよいか」と三者三様の持ち味を出しての大変聞きごたえのある講演内容であった。

夕食会では皆さんと、おおいに親睦を深め合い、今年は十周年を記念して中嶋順子さん作詞作曲による支部のテーマソング「コズミック・フィーリング」の発表があった。

翌日は六十名が大型観光バスに乗り込み、静岡市内観光に出掛けた。ホテルを出発してまもなく、バスの進行方向前方に左から右に移動する白銀色に輝くUFOが出現。このUFOはバスの右側にも移動し、多くの方々が目撃した。最初の見学場所の浅間神社でもバスの中で見たものと同じ型のUFOが神殿の左側から右に光りながら移動して行くのを多くの方々が目撃した。このUFOを山梨県の清水氏がビデオに見事にキャッチした。久保田会長も写真にとられた。その後の駿府城跡でも何人かがUFOを目撃した。そして登呂遺跡、県立美術館と回り、大変楽しく思い出に多る一日であった。

今年の大会は新しい静岡支部の出発の日でもあった。「今までと同じ事をしていたのでは進歩はない。大変化する時が来た。各個人も一大変化をさせるのは今だ！」と強力な印象を感じた大会で、大変意義深い大会となった。お世話になった久保田会長を始めご出席いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

（野口敏治）



第1回青森・秋田合同支部大会

●昭和六十二年六月二十一日（日）
●青森市　青森県観光物産館（アスパム）
●出席者　二十三名

会場のアスパムはむつ湾を一望のもとに見渡せる、目の前を青函連絡船が出入港する大三角形のビル。この六階会議室で大会が行われた。朝方は小雨の降る天気だったが、五年ぶりに来訪された久保田先生の熱気溢れる大講演の頃にはすっかり天気も回復し、美しい山々が展望されるようになった。

講演は「驚異的なアダムスキー問題」と題して行われた。日本GAPの活動は世界的にみても素晴らしい事であり、われわれはレッスンを通して自分自身の内部に無限の英知と能力が満ちているのだというフィーリングを常に持ち、〝自分は大宇宙なのだ〟との自覚を得ることによって、人間の持っている恐怖心をなくして大安心の境地をきづくためには荒行をも辞せずというほどの気持を持つようにしなければならない。ただ漠然と普通の人々と同じような生活をくり返していてもだめだ、とのお話に全員が目の覚める思いで聞きいっていた。

記念写真の後、質疑応答で種々の質問があり、それを通して明快な御指導を頂き大会を終了。夕食会には久しぶりの出会いに話がはずみ、なごやかに談笑しながら楽しいひとときをすごし、知り合った喜びを高めた。

翌二十二日はだれもが一度は行きたがっていると思われる国立公園十和田湖へ行った。この日も初めは曇っていたが奥入瀬渓流を過ぎて十和田湖に着いたら空も水も青く澄み、遊覧船より新緑の山々を眺め、大空に目をむけてUFOの出現を期待したが目撃できず、これも何かの深い意味があるのかと思いつつ大変楽しい一日をすごした。

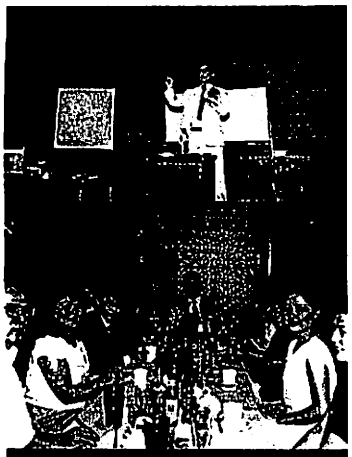
今回は隣の秋田支部と合同大会を初めて行い、同志が協力し合うことの素晴らしさを感じた。今後は会場を両県交互に移して行いたい。久保田先生と会員諸氏に感謝します。

（鈴木武男）

アダムスキー全集 読者感想発表会

主催 沖縄支部

●昭和六十二年六月七日（日）
●那覇市 中央公民館
●出席者 十八名



至上の宝冊よ　偉大な方々の志よ
万人の手にゆき渡れ　万人の心をとらえよ　万人に生命の歓喜を　万人に楽園を。

本土を遠く離れたこの沖縄の地でアダムスキー全集がかなり読まれている実状にかんがみて、このたび標記のような会合の開催に踏みきった（編注＝沖縄におけるア全集の普及は新里代表の貢献による）。

七日は快晴。午後一時すぎよりスタート。司会者挨拶に続いて参加者全員の感想発表があり、その後久保田先生の二時間に及ぶ大講演がスライド映写と共に行われた。UFO問題が地球全体に及ぼす意味やアダムスキー全集の「生命の科学」に関する解説が行われ、重要な話を全員が真剣に静聴した。隣の事務所の職員の方々も仕事をしているふりをして実は先生の講演に聴き耳を立てていたようだ。これを含めれば参加者は二十四名になる。そのあと二十分間の質疑応答が続いて五時に閉会となった。

これで沖縄支部もにぎやかになるだろう。最近は女性会員の増加が目立つ。バランスの法則からすれば男性メンバーをふやすための方法を真剣に考えねばならない。ただしGAP月例会の本筋にそった動機をもつ人だけだ。

久保田先生、お疲れさまでした。そして今回の先生の来沖のきっかけを作って下さったXさん、有難うございました。公民館の職員の皆様、祝電を下さった本部役員の方々、そして今回の催しをひそかに援助して下さったであろうスペース・ピープルの皆様、有難うございました。

（新里義雄）

編者付記

訪沖は今回で三度目だが沖縄支部がすっかり定着して趣味のサークルの域を超えた熱意ある集団に生長したことは喜ばしい。本土を遠く離れた地域差をもち、心霊的な伝統の残る風土のなかでGAP活動を推進するのは容易ではないようだが、支部代表・新里氏その他の有力会員のご奉仕により、この種の大会開催にこぎつけたことは特筆にあたいする。健闘を称えたい。

例によって人数の多寡は全く問題にせず、渾身の力をふりしぼって二時間の講演を行った。

南国のせいか、いったいに沖縄の人は悠然茫洋たる感があり、反応が鮮明に返ってこないけれども、あとで新里氏に聞くと、みな感動しているようだが表情をあらわさないのだという。ときたま来るよそ者には実態不明なるも、沖縄の人が遠慮しがちであることは確かだ。

大会終了後は東京の銀座通りに相当する国際通りのアメリカンレストランで夕食会が開催され、九名が参集。ここで楽しく歓談した。そのあとパピリオンというクラブで二次会を開き、クラシックギターの生演奏をバックに十二時すぎまで愉快に談笑。

翌八日は新里さん運転の車に石野君と私が同乗。まず浦添市の嘉数の高台にある「白い砂の家」へ行く。ここは無人喫茶店として名高く、コーヒーその他の飲食をした客は店内の箱へ適当な料金を入れればよいという。本土から来た観光客がデタラメをやるのではないかと案じて聞いてみたら、そうでもないということだった。

この家の造りはどうみても日本人の手になるものではない。すべてがアメリカ風だ。尋ねると、このあたりの民家はもと米軍将校の家族が住んだ住宅で、払い下げられたという。そういえば沖縄は米軍の影響下にあるせいか高度に文化的な面が目につく。

沖縄戦の激戦地だった嘉数高台公園から浦添市を展望。民家はすべて鉄筋コンクリートで、白亜やクリーム色の壁が並んで外国の風景を見るようだ。五年前も驚いたが、今や沖縄に木造家屋は存在しない。住宅はすべて水洗トイレ付きの豪勢な鉄筋コンクリートである。これは台風に対する防衛対策だという。日本で住宅が高度に発達している地方は沖縄と北海道だろう。

午後は北中城村字大城の重要文化財、中村家を見学。戦火をまぬがれた二百年前の旧家が残っている。

中城城跡へ寄る。五百三十年前に中部の豪族・護谷山按司護佐丸が築いた優美な石工技術を示すこの城で、勝連城主・阿麻和利の謀略により護佐丸一族は自害して果てた。本丸、二の丸、三の丸の敷地は広大で芝生が美しい。

夜はエグゾティックな沖縄民謡を鑑賞。これは世界の民俗音楽でメキシコ民謡についで私が愛好する音楽である。

数カ国に支配され権謀のドラマが渦巻いた非運の沖縄は太平洋戦争末期の地獄を経て新生した。あしきカルマは解消し、南海の楽園と化したこの島が永久にエデンの園であることを願うとともに、ご招待下さった沖縄支部の方々に深謝する次第である。

（久保田八郎）

集まって宇宙的フィーリングを拡大しよう!

〈予告〉62年度地方支部大会〈その3〉

	第5回 福岡支部大会	第8回 山形・仙台合同支部大会	第2回 長野支部大会
日時	10月4日（日） 午後1:00→5:00	11月1日（日） 午後1:00→5:00	11月22日（日） 午後1:00→5:00
会場	「チサンホテル博多」2Fホール ☎092-411-3211 福岡市博多区博多駅前2-8-11 博多駅より博多口（北）へ出て正面，徒歩約6分。	「滝の湯ホテル」2F端鶴の間 ☎0236-54-2211 山形県天童市山元1441 ●山形空港より車で15分 ●奥羽本線天童駅下車（特急にて山形駅の次）、天童駅より車で2分。 ●天童駅より山交バスで温泉西バス停下車。	「長野ステーションホテル」2F ☎0262-26-1295 長野市末広町1359 長野駅より駅前からアーチになっている善光寺表参道の通りを行き，駅から徒歩1～2分の所。右側。
参加費	¥2000（希望者のみ全員記念写真代¥800を別納。グランドキャビネ判。送料共）	左に同じ。	左に同じ。
内容	司会 吉岡寛人 1:00 支部代表挨拶 喜多正宜 1:10 講演「アダムスキーの真実性と彼の哲学」(スライド使用) 日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 全員記念撮影・休憩 3:00 全員自己紹介，意見発表，質疑応答 5:00 閉会 ※日本UFO研究界の大先駆者で国際的に活動を続けておられる久保田先生を囲んで徹底した話し合いの会にしたいと思います。豪快親切な九州男児が歓迎しますので多数ご参集下さい。	司会 柴田文子 1:00 支部代表挨拶 柴田光明 笠原弘可 1:15 講演「世界のUFO問題の意義」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30 全員記念撮影・休憩 3:00 全員自己紹介，意見発表，質疑応答 5:00 閉会 ※今回は山形・仙台両支部設立満10年を記念して山形県の名高いリゾート天童温泉で開催することにしました。豪華な大ホテルの会場で天童の湯の香りと久保田先生の雄弁を満喫して下さい。人情味豊かな東北人一同心からお待ちしています。	司会 中村公一 1:00 支部代表挨拶 博田文喜 1:05 会員による体験講演（氏名未定） 1:50 休憩 2:00 講演「アダムスキーとUFO問題の重要性について」日本GAP会長・久保田八郎先生 3:30 全員記念撮影・休憩 4:00 全員自己紹介，意見発表，質疑応答 5:00 閉会 ※昨年の松本市における第1回大会に続き，今回は長野市に会場を変えて気分一新を図ります。有名な善光寺のひざもとで先生の雄大な宇宙問題のお話を聞くのも忘れ得ぬ思い出になるでしょう。気軽においで下さい。
夕食会	大会終了後6:00より希望者による夕食会を同じホテルの別室で開催します。 会費¥5000	大会終了後6:00より希望者による夕食会を同じホテルの隣の間「祥鶴」で開催します。 会費¥5000	大会終了後6:00より同じホテルの同会場にて希望者による夕食会を開催します。 会費¥4500
宿泊	「チサンホテル博多」（大会会場と同じホテル）をお世話します。 シングル ¥5500（税サ込） ツイン ¥9900（ 〃 ）	「紀の川ホテル」をお世話します。 シングル ¥4200（税サ込）25室予約済 ツイン ¥8000（ 〃 ） 2室 〃 ※このホテルは大会会場のすぐ裏手。	「長野ステーションホテル」(大会会場と同じホテル)をお世話します。 シングル ¥5500（税サ込）20室予約済 ツイン ¥8800（ 〃 ） 5室 〃
申込	大会，夕食会，宿舎，観光の申込はハガキにいずれかを記して10月3日までに下記へお申込下さい(電話でも可)。 〒814福岡市城南区金山団地40-204 喜多正宜 ☎092-863-5438	大会，夕食会，宿舎，観光の申込はハガキにいずれかを記して10月末までに下記へお申込下さい（電話でも可)。 〒999-51山形県新庄市大字萩野82 柴田光明 ☎0233-25-3261	大会，夕食会，宿舎，観光の申込はハガキにいずれかを記して11月20日までに下記へお申込下さい(電話でも可)。 〒399-07長野県塩尻市広丘吉田948-4 博田文喜 ☎0263-58-8510
観光	大会翌日は希望者で福岡市内観光を行います。朝10:00ホテルを出発。貸切りバスで博多湾に浮かぶ市民憩いの島「能古島」へ渡り，秋の博多湾情緒を楽しむ予定です。午後4:00博多駅前で解散。 参加費¥3000（昼食代共）	大会翌日は希望者で舞鶴山公園，天童高原，寒河江(さがえ)ダム等を観光の予定です。 参加費¥3000（昼食代共）	大会翌日は希望者で名所旧跡を見学の予定です。朝9:00ホテルを出発，市内を周遊しながら善光寺を見学。昼食後，小布施町の北斉館を見学後リンゴ狩りを予定。長野駅で4:00頃解散。 参加費¥3000（昼食代共）
例会	10月の月例会は大会のため中止。	山形支部のみ11月の月例会は大会のため中止。 仙台支部は平常通り開催。	11月の月例会は大会のため中止。

(41)頁より)んで来るのか
(5)月は宇宙人の中継基地か。
(6)国連・イギリス上院議会UFO発言
(7)CIAはUFOを認めている
(8)UFO墜落事件
(9)宇宙人遭遇事件
(10)アダムスキー特集 I
(11) 〃 II
(12) 〃 III

(13)素晴らしき宇宙時代

次に右の内の「(10)アダムスキー特集I」の放送原稿を参考までに掲げましょう。

「ジョージ・アダムスキー特集の第I回目としまして、今回は、その驚異的体験を中心にお話ししましょう。

ジョージ・アダムスキーは一八九一年ポーランドに生まれ米国へ移住した、哲学者でありアマチュア天文家でもありました。彼は、大宇宙と人間との不離一体の関係を研究し、長年宇宙哲学を教える教師として生活していましたが、一九四六年、流星雨観測の際巨大な葉巻型UFOを目撃し、翌年二百機ほどのUFOの出現を見た時には、地球外知的生物の乗り物であると確信を持つようになりました。UFOに大いに関心を持ったアダムスキーは、軍の依頼もあって一九四八年から五二年までの実に五年間、六インチの反射望遠鏡でUFOの写真撮影に努力しました(以下略)」

以上のような説明が音楽をバックに美しい女性の声で流されます。会員の皆様もぜひお聴き下さい。お聴き下さった感想をGAP本部宛にお送り下されば幸いです。

〈筆者は栃木支部代表〉

ダニエル・ロス氏招待大講演

62年度 日本GAP総会

本年度の総会は本号より連載を開始した「UFO-宇宙からの完全な証拠」の著者ダニエル・ロス氏を日本へ招待して講演会を開催することになりました。氏はアメリカにおけるアダムスキー派の驍将としてUFO問題の啓蒙運動に専念し，高度な科学知識を駆使してアダムスキーの体験の真実性を立証しています。日本GAPに対する強力な支持者であるロス氏の本邦初講演をぜひお聴き下さい。役員一同心からお待ちしております。

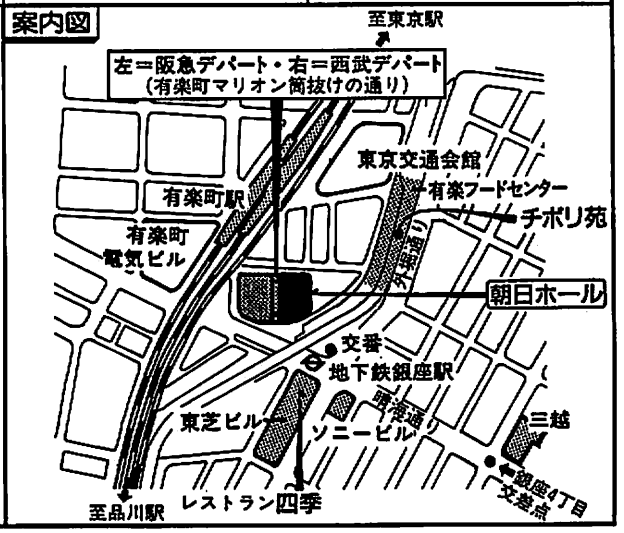
日本GAP東京本部役員代表　篠　芳史

	総　会	大夕食会	東京都内観光
日時	9月20日（日） 午後1:00→5:00	9月20日（日） 午後6:00→8:30	9月21日（月） 午前9:00→午後5:00
会場	**「有楽町朝日ホール」**（朝日新聞系） 東京都千代田区有楽町2-5-1，西武デパート11階。 ☎(03)284-0131 ＪＲ有楽町駅の銀座側下車。駅を背にして右方へ歩き，果物屋の前の小路を通り抜けると西武デパートと阪神デパートの間の通称「マリオン」と呼ばれる筒抜けの広い通路がある。その通路の左側の西武デパート入口横にエレベーターがあるので，そこから11階へ昇り，降りた右側に大ホールロビーの入口がある。有楽町駅より徒歩３分。	中央区有楽町数寄屋（すきや）橋交差点角の東芝ビル７階（１階は昔からある阪急デパート） **レストラン「四季」** ☎(03)575-3311 有楽町数寄屋橋交差点角まで行き，ソニービルの向かい側の東芝ビルの右手にまわるとエレベーターがあるので７階へ昇る。降りてから右手の低い階段を上がる。夕食会は立食形式。	団体用大型貸切バスで「東京ホテル浦島を9:00に出発。 定員45名。 雨天決行。 ※列車，飛行機等の都合により早目に引き上げる方には便宜を図りますから，出発前に田中氏宛お申し出下さい。
会費	¥3800（会場受付でご納入下さい。大夕食会の予約をされた方はその代金も併せてご納入下さい） 全員記念写真希望者は¥1200(送料共)を別途ご納入下さい。六ツ切カラー。	¥6500（総会会場受付でご納入下さい）	¥2700（当日バスの中で田中氏が集金します）昼食代別。
内容	1:00　司会者挨拶　篠　芳史 1:05　挨拶と講演「アダムスキーとＵＦＯ問題」 日本ＧＡＰ会長・久保田八郎（スライド使用） 2:00　休　憩 2:10　講演「宇宙開発で立証されたアダムスキーの主張」　ダニエル・ロス 通訳　脇（みかづき）民典 3:40　休　憩 4:00　質疑応答　ダニエル・ロス 通訳　ミチー・スガワラ （最後に花束贈呈・全員記念写真撮影） 5:00　閉　会 ※講演中の写真撮影（ストロボ共）とテープ録音は可なるも講演の著作権は日本ＧＡＰが所有。	6:00　司会者挨拶　篠　芳史 6:05　会長挨拶　久保田八郎 6:10　乾杯音頭　野口敏治 祝宴。余興。 8:30　閉　会 ※夕食会終了後，有楽フードセンター西館地下の「チボリ苑」にて11:00まで２次会開催予定。希望者は夕食会終了後，東芝ビル１階エレベーター前のロビーに集合。（注意＝昨年の２次会会場とは違い，銀座側フードセンターの「チボリ苑」☎564-0904）	9:00ホテルをバスで出発後→東京駅八重洲口→皇居前広場二重橋→銀座４丁目→東京タワー→原宿ファッション街→新宿超高層ビル→浅草→東京駅→ホテル浦島 ※この都内観光は重要な場所を重点的に見学し，その都度バスを降りてしばらく自由行動にするのが特長です。時間の都合で上記のコースを変更することもあります。 昼食代は¥1000程度。

9月20日夜の大夕食会，21日の都内観光，宿泊希望者は下記の要領でお申込下さい。

- ●大夕食会＝ハガキに「夕食会出席申込」と記入し下記の申込先へ９月18日までに（必着）お申込下さい。定員100名。
- ●都内観光＝９月10日までにハガキで下記へお申込下さい。定員（45名）に達しない場合は料金に多少の変動があります。
- ●宿　舎＝「東京ホテル浦島」をあっせんします。
  中央区晴海（はるみ）2-5-23。
  ☎(03)533-5331。
  シングル　¥ 6000（60室）
  ツイン　¥11000（15室）
  希望者はハガキに ①宿泊日 ②シングル・ツインの別 ③住所・氏名・電話番号を明記して下記へ９月15日までにお申込下さい。

■申込先＝上記の申込はすべて下記へ。
〒150 東京都渋谷区東3-24-9
サンイーストビル２F
ワールドセプトラベルKK
田中　正（宛）
☎(03)499-2461　夜間は田中自宅の(0474)77-4728へ。



ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳　全8巻　B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

人類の進化をにぎる秘密のカギとコンタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙的覚醒と目の当たりに示す最高の指針（UFOと宇宙哲学の研究者の必読書）です。

1 宇宙からの訪問者

三三八頁　二五〇〇円

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験記。一九五二年十一月二十日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会見した体験「空飛ぶ円盤は着陸した」を本書の第Ⅰ部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会見した実録を第Ⅱ部とした驚異的な書物。本全集の中心をなす最重要なもの。

2 UFO問題の真相

二六二頁　二五〇〇円

第1巻の補遺的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推進理論や、聖書とUFOとの関係を述べた箇所は重要である。第Ⅱ部はアダムスキーの世界講演旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの妨害が克明に描写されている。

3 UFOとアダムスキー

三五〇頁　二五〇〇円

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第Ⅰ部「死と空間を超えて」が圧巻。またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたぼう大な情報と書簡類を収録して第Ⅱ部とした。

4 宇宙哲学

一四八頁　一三〇〇円

人間のセンス・マインド（肉体の心）と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に理路整然と説く。この哲学は、人間の意識と物質との関係の解明と応用とをめざす21世紀の科学の最先端をゆくもので、アダムスキーの哲学的体系三書の中心となるもの。

5 テレパシー開発法

一九〇頁　一八〇〇円

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開発法を説明したもの。特に目・耳・鼻・口の四官をコントロールして、内部の意識から来るテレパシックな印象を感受する方法を詳しく解説し、他人と無言の会話を行う技術を述べた、類書の全く存在しないガイドブック。

6 生命の科学

二〇五頁　一八〇〇円

アダムスキーが他界する数年前に出した Science of Life と題する十二分冊の講座を和訳して一書にまとめたもの。アダムスキーの宇宙的哲学の総まとめ的な一大金字塔で、真実のテレパシーと心霊的な霊界通信の相違を明確にし、心霊現象への接近を警告する画期的な書。

7 アダムスキー論説集

三七〇頁　二五〇〇円

日本GAP機関誌に掲載されたのみで、単行本化されていなかったアダムスキーの論説や講演録等を網羅編さんしたもの。特に死去する直前の最後の講演が圧巻。第Ⅱ部にはアダムスキー研究家として名高い久保田八郎が敢度資来してアダムスキーの高弟たちとインタビューした記事を収録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

8 質疑応答集

二一六頁　二〇〇〇円

アダムスキーは一九五八年に質疑応答集を自費出版で頒布した。五分冊から成る小冊子で、全部で百問の質問と回答が収録してある。内容は現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な解答と示唆を与えるものとして驚くほど新鮮である。これで本全集はアダムスキーの重要な文献すべてを網羅した。

発行所宛直接注文の場合に限り、左記のように定価・送料をサービスいたします。（郵便振替または現金書留でご注文下さい）

☆一冊注文――送料無料。書籍代のみご送金下さい。
☆第一巻より第四巻まで一括注文（正価八八〇〇円）特別セット価格八〇〇〇円（送料共）
☆第五巻より第八巻まで一括注文（正価八一〇〇円）特別セット価格七三〇〇円（送料共）
☆第一巻より第八巻まで一括注文（正価一六九〇〇円）全巻セット価格一四七〇〇円（送料共）

文久書林　〒113 東京都文京区西片1-19-10　西片ハウス２Ｆ　☎(03)813-9561　振替/東京4-2521

英文版UFO contactee No.3刊行中

■60年７月に刊行したNo.１は世界のUFO研究界で絶賛を博しつつあり、長い伝統を誇るイギリスのUFO専門誌Flying Saucer Review誌、イギリスGAP機関誌ニューズレター32号、デンマークGAP機関誌ufo contactその他が記事を転載して激賞している。また多数の欧米UFO研究グループと機関誌や情報交換のルートを確立、日本GAPは名実共に東洋最大のUFOと宇宙哲学研究グループとして一躍脚光を浴びるに至った。

■第３号も久保田日本GAP会長が執筆した格調高い英文記事により、本誌93号に掲載した春川正一氏の「私は別な惑星へ行ってきた！」の連載第１回分を掲載。早くも海外UFO研究界で注目をあびている。会長みずからプロ用大型電子英文タイプライターを駆使して版下を作成。デザイン、レイアウトから１字１句に至るまで会長が熱意をこめて作ったこの国際的文献をぜひお読み下さい。英語学習用にも好適。

Ｂ５判　12頁　上質紙使用　￥300（送料￥170、３冊まで￥240、10冊まで￥350）注文は郵便振替で下記へ。切手代用も歓迎。

日本GAP　振替 東京4-35912

UFO contactee
UFOs & Cosmic Philosophy Services
A Young Japanese Man Visits Other Planets [PART I] by Hachiro Kubota
Sending Out His Thoughts to the Starry Sky

═昭和62年度═

❀❀❀❀❀ 日本GAP全国月例研究会案内 ❀❀❀❀❀

支部名	日時	会場	会費	内容
東京本部	毎月第2土曜日　午後1:00→6:00 ※8月のみ第1土曜日の1日に皇居北の丸公園の科学技術館6F会議室にて開催。 ※9月は諸会のため中止。	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。JR「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ。 連絡先＝日本GAP　☎03-651-0958	会場費 ¥500 セミナー 受講料 ¥1000 計¥1500	1:30→2:30 会員による体験講演。 2:30→4:00 久保田会長の「テレパシー開発法」講義と近況報告、テレパシー練習、休憩。 4:00→6:00 自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車「吹田駅」下車。 連絡先＝平塚和義　☎06-436-3478	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
新潟支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00 ※8月と9月のみ第4日曜日に変更。	長岡市今朝白1丁目「けさじろ荘」 ☎0258-33-7400。長岡駅東口より徒歩5分。無料駐車場あり。 連絡先＝星 富治夫　☎02579-2-5562	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
福岡支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00 ※10月は大会のため月例会は中止。	福岡市天神町5丁目1-23「福岡市民会館」3F国際会議控室 連絡先＝喜多正宜　☎092-863-5438	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日　午後1:00→4:30 ※8月より会場を変更。 ※10・11月は第1日曜日に変更。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141㈹。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先＝林　国宜　☎0586-45-6468	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・テレパシー練習・座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日　午後1:10→4:20 ※8月のみ16日(日)に変更。(会場:市民会館) ※9月より会場を右のように変更。	仙台市1番町4丁目「141(イチヨンイチ)ビル内5Fエル・パーク仙台セミナー室」 ☎022-268-8300。仙台駅よりバスで県庁市役所前下車、三越デパート隣。 連絡先＝笠原弘可　☎022-295-0725	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習。座談会。
山形支部	毎月第1日曜日　午後1:00→5:00 ※11月は大会のため月例会は中止。	山形市小白川町「社会福祉センター」 ☎0236-42-5181。山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。 連絡先＝柴田光明　☎0233-25-3261	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日　午後1:00→4:30	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先＝高野省志　☎011-822-8260	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
静岡支部	毎月第1日曜日 午前10:30→5:00 ※午前中は「生命の科学」の研究会。テキスト持参。	静岡市黒金町「静岡労政会館」5階会議室。 ☎0542-21-6280。静岡駅北口より徒歩5分。 連絡先＝野口敏治　☎0542-86-7729	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表。
旭川支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	旭川市6条通4丁目「勤労者福祉会館」2F小会議室。 ☎0166-26-1304。 連絡先＝川上三秀　☎0166-61-0044	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・質疑応答・テレパシー練習。
松山支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	奇数月：広島市広島駅ビル内「ステーションホテル」5F会議室。 偶数月：「松山市民会館」会議室。 連絡先＝伊藤達夫　☎0898-22-3060	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長と講義録音テープを公開。質疑応答・座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日　午後1:00→5:00	群馬県太田市「社会教育総合センター」3F。 連絡先＝久保寺恒一　店：☎0276-25-5958 自宅：☎0276-45-3544	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。座談会。
青森支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先＝田村嘉彦　☎0177-38-0416	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表等。
沖縄支部	毎月第3日曜日　午後1:00→6:00	那覇市寄宮1-2-1「那覇市民会館」1F　A会議室。 ☎0988-55-5081。与儀公園の隣。 連絡先＝新里義雄　☎0988-54-1623	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。質疑応答・想念観察とテレパシーの研究報告・自己紹介・座談会等。
秋田支部	毎月第2日曜日　午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先＝伊藤正治　☎0188-62-2831	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会。
神奈川支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	川崎市川崎区富士見2-5-2「川崎市立労働会館」4階4号室。☎044-222-4416。JR京浜急行「川崎駅」下車。市バス・よ原線・労働会館前。 連絡先＝大崎孝典　☎0492-65-0389	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。研究発表・座談会等。
茨城支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	水戸市梅香1-2「水戸市中央公民館」4F小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝清水勝一　☎0292-73-1903	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
長野支部	毎月第4日曜日　午後1:00→4:30 ※11月は大会のため月例会は中止。 ※8月22日(土)・23日(日)は山梨県清里高原で移動月例会。詳細は右の連絡先へ。	奇数月：塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。☎0263-54-1253。 偶数月：松本市県「あがたの森文化会館」2F。 ☎0263-32-1812。 連絡先＝博多文喜　☎0263-58-8510	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
和歌山支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先＝松口幸之助　☎0735-34-0605(呼・田中)	¥300	テキストとして「テレパシー開発法」と「宇宙からの訪問者」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・研究発表・座談会。
栃木支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	鹿沼市(市役所裏)「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西の方向へ徒歩1.5km。バスは小来川行に乗り、天神町で下車、徒歩5分。 連絡先＝渡辺克明　☎0289-62-3319	¥500	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。
長崎支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	長崎市魚の町5番1号「長崎市民会館」 ☎0958-25-1400。公会堂電停前。 連絡先＝元木和雄　☎0958-22-5521	¥200	テキストとして「テレパシー開発法」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。テレパシー練習・座談会・研究発表等。

★本誌バックナンバー(旧号)★

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文献である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそろえ下さい。下記以外の旧号も残っています。お問合せ下さい。

No.94 主要記事「テレパシーで飛来した真っ黒い円盤」堀江雄一/「八丈富士山麓でUFOを撮影」谷口英雄/「地球を救う愛の想念放射運動」山崎清美/「母船の周囲には人工大気層がある」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた./(連載第2回)春川正一

No.95 主要記事「茨城県千代田村のUFO」日本GAP茨城支部/「アダムスキー問題に対する考察」内田格男/「私のUFO目撃と不思議な体験」中嶋順子/「ジャンボジェットに並行して飛んだ円盤」久保田八郎/「私の別惑星訪問体験とアダムスキーの真実性」春川正一

No.96 主要記事「私のオーラ透視とテレパシー現象」清水南/「京都市上空にUFO5回出現」久保田八郎/「想念放射、透視、UFO目撃」遠藤昭則/「UFOと心霊は無関係」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた./(連載第3回)春川正一

No.97 主要記事「驚異の「生命の科学」と円盤大接近」伊藤達夫/「八王子市でUFOを撮影」降旗和彦/「別な惑星の偉大な人類と文明」G.アダムスキー/「私は別な惑星へ行ってきた./(連載第4回)春川正一

各¥700　バックナンバーに限り送料は不要

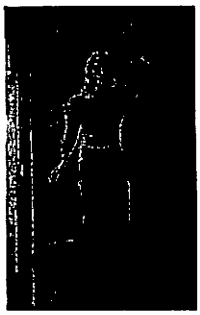
「テレパシー開発法」と「アダムスキー論説集」解説講義録音テープ

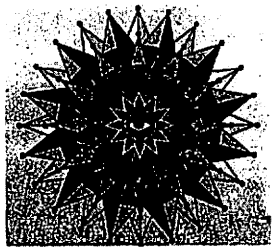
昭和62年2月より12月まで東京月例研究会で日本GAP会長・久保田八郎先生が新鮮雄大な構想のもとにアダムスキーの名著を解説する録音テープ。テレパシーを主体に人間を救う能力開発法を説いた名講義。GAP会員必聴の重要資料。月例会における近況報告も録音。

テープ1本(120分)　¥1300　送料¥200

※このテープは日本GAPでは取扱いませんので、××月分と記して必ず下記へご注文下さい(2月分より在庫)。

〒430 静岡県浜松市三島町577-1　小島国弘
☎0534-42-3507　振替 名古屋7-51065





①オーソン肖像写真　②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判・カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は"すべてを見透す眼"で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判・カラー写真)

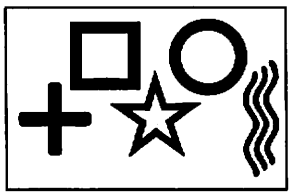
上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥600 送料¥120 ②¥300 送料¥60 一括注文の場合送料¥120

③ゼナーカード(テレパシー練習用)

アメリカで開発されて世界的に広まったテレパシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。美麗箱入り。

¥600 送料¥120

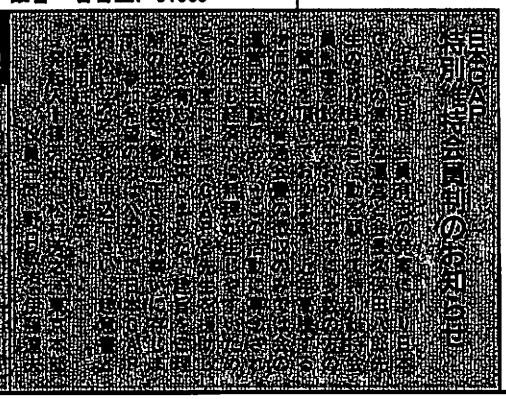


①+②+③の場合送料¥170

会員募集

日本GAPはUFO研究の大衆啓蒙、久保田八郎先生の新鮮雄大な構想のもとにアダムスキーの名著を解説して、地球に迫りくるわが国最大のUFOと宇宙からの救済の実態を、多数の会員と共に宇宙的視野から研究し、人類の目覚めを促すと共に、地球人類の進化向上に貢献することを目的としています。

日本GAP



新作 会員バッジ

ジョージ・アダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジと形、色共全く同様に複製した径18㎜の丸い優美なバッジです。琺瑯色地に金色のシンボルマークが浮彫りされており、縁も金色です。表面には透明樹脂がかけてありますがらキズがつかず、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏側が心棒ネジどめ式、女性用は裏側が安全ピン式です。ぜひお求め下さい。ご注文のさいは男性用・女性用の別を明記して郵便振替で日本GAPへご送金下さい。(無断複製を禁じます)

1個 ¥2000　送料4個まで ¥120

編集後記

◑アダムスキー派の驍将ダニエル・ロス氏の「UFO—宇宙からの完全な証拠」の連載が始まりました。氏は本誌88号に「米政府はUFO問題の真相を公開せよ」と題する素晴らしい記事を書きましたが、今度は米国内でア氏の個性と偉大さを立証するダイナマイト的一書を出しました。反響が楽しみです。

◑「私は別な惑星へ行ってきた./」は本号で完結しました。大センセーションを起こしたこの連載記事はいずれ単行本化して刊行されます。春川氏とは親交を続けていますから、いずれ別な機会に第二弾を発表することになるでしょう。なお右の記事の連載第一回分を掲載した93号は品切れでしたが、某所から約六十冊が出てきましたので注文に応じます。

◑その他本号は木星の衛星イオの大都市跡発見、UFO目撃、科学等の多彩な記事で構成したために八頁ふやして総頁を四十八頁としました。定価は据置きですから実質的な値下げです。運営は楽ではありませんが、わが国唯一のUFO専門誌としてより高度な内容を目指して頑張ります。

◑来たる九月二十日(日)、東京有楽町朝日ホールにおいて今年度日本GAP総会を開催します。今回は本号連載記事「UFO—宇宙からの完全な証拠」の筆者、ダニエル・ロス氏を招待して大講演を行います。多数ご出席下さい(詳細は本号45頁)。

◑UFO目撃、超能力開発、宇宙哲学実践等の原稿を募集します。ふるってお寄せ下さい。

◑本誌は約百名のボランティアにより全国主要書店に卸されています。この奉仕活動に参加を希望される方はハガキでお申込下さい。説明書をお送りします。(K)

日本GAP機関誌・季刊　秋季号
UFO contactee　98号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
☎03-651-0958
振替 東京4-35912
昭和六十二年七月二十日発行
定価七〇〇円・送料二〇〇円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

潜在脳力を開発し、願望実現を早める奇跡の音楽

●●アメリカで話題騒然の●●

●●●スピリチュアル音楽ライブラリーついに日本でも独占販売開始●●●

願望が次々に実現し始めた

この音楽を聴きだしてから……

アメリカで各界から熱狂的注目を浴びる常識を超えた奇跡の音楽

「スピリチュアル・ミュージック」、「ニューエイジ・ミュージック」と呼ばれる不思議な音楽が遂に日本へも上陸しました。このスピリチュアル音楽に関しては、日本でもニューサイエンス関係の書籍や一般の雑誌・新聞でしばしば紹介されているので既にご存知の方も多いことでしょう。今から十数年前にウェストコースト（米国西海岸）で湧き起こった、意識と物質を同一の次元でとらえようとするニューサイエンス運動、エコロジー思想等のニューエイジ革命の嵐の中から生まれ出たスピリチュアル音楽――。

この音楽の特徴をまとめると、

●作曲家、演奏者達が皆、30代前半から半ばと若く、瞑想愛好家の上、幽体離脱や超常現象を日常的に経験するなど、きわめて霊的意識が高い。

●今までの音楽のように単に曲を聴いて楽めるという点だけではなく（もちろん音楽的に非常に魅力に富んだ曲が多く充分に楽しめるが）意識を高め、潜在意識を刺激するという、「意識・無意識への作〜〜日まで行なわれています。

アメリカでは能力開発に、願望実現にと幅広く活用されている

アメリカでは、これらのスピリチュアル音楽の科学的研究、神秘主義的側面からの経験データに基づいて、応用面での研究・実験もさかんに行なわれています。現在のところ最も利用が進んでいるのは教育の分野で、サジェストペディア（超高速学習法）のバックミュージックとしてさかんにこのスピリチュアル音楽が利用されています。又、能力開発、霊性開発を目的とした瞑想教室では、スピリチュアル音楽はもう空気同然の必需品で、大脳の潜在脳力をめざめさせるのに著しい効果のあることが何千人の生徒達を使った実験でも実証されています。

又、成功を夢みるビジネス界のエリートの間でもスピリチュアル音楽はたいへんな人気で、脳力開発に、ストレスコントロールに、又、願望の早期実現のためにと、いろいろな使い方をされています。

米国のスピリチュアル音楽ベストヒット48曲・24巻を一堂に集大成

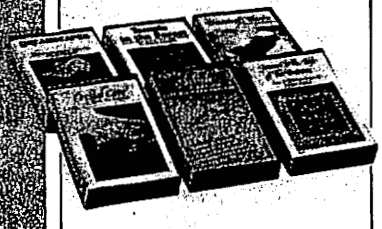
アメリカンライブラリー社では今アメリカで最も人気の高いスピリチュアル音楽のヒット曲、48曲（テープ24巻）の独占販売権を獲得し、「スピリチュアル・ヒットUSA」として日本の皆様に頒布会方式で通信販売いたしております。

「スピリチュアル・ヒットUSA」の頒布システムを説明しますと、初回から12ヶ月にわたって、毎月カセットテープ2巻が届けられ、支払いは毎月五、六〇〇円の送料二〇〇円。初回一二回目以降を問わず、商品到着後5日間の無料試聴期間がありますから、万一、曲が気に入らなければ自由に返品できます。（二巻のうち一巻のみの購入の考合は代金は半額の二、八〇〇円プラス送料）又、途中で購入をストップしたい場合は、所定のハガキ又は電話で通知すれば、その時点で購入を止められます。この「スピリチュアル・ヒットUSA」各巻には、瞑想ガイダンス、願望実現マニュアル、脳力開発マニュアルがついていますので、それぞれの目的に応じてこれらのマニュアルをご利用下さい。

第一回目の試聴のお申込みは、〒107 東京都港区南青山1－26－4 アメリカンライブラリー社UF⑦係 電話 東京03(479)5864 までハガキか電話で住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、「スピリチュアル・ヒットUSA」試聴希望とお申込み下さい。

「スピリチュアル・ヒットUSA」
ライブラリーの中の1曲ご紹介

曲　名：TEMPLE IN THE FOREST
作曲演奏：DAVID NAEGELE
曲の内容：アコースティックピアノ、シンセサイザー、エレクトリックピアノ、自然音で潜在意識の波動をあらわす森のリズムが形づくられる中を、"オーム"の神聖なマントラのバイブレーションが限りなく広がってゆく様をみごとに表現している。
瞑想用に、又直視力・創造力開発に最適の曲の一つ。



お急ぎの方はお電話で
東京 03(479)5864
受付時間 AM8～PM10(日・祭日も受付中)

想像以上の効果にびっくり!!

はじめのころは「何かおもしろい音楽だナ」っていう感じで、でも聞いていると心が落ちついてくるし、まあBGMとしちゃあ静かでいい曲ーくらいの印象しかなかったのですが、しばらくして色んな異常に気づきはじめました。低血圧で朝は二ガ手だったのが、すごく寝ざめがよくなって午前中の仕事のノリがよくなったとか、仕事上の判断が正確になり前みたくドジをやらなくなったとか。それにいちばんの異常は、女の女（特に美人）と話をするとどうも変なところで緊張してしまって話が上すべりしたりして、どうも恋下手だったんですが、それが最近じゃ前みたく変な気負いがなくなり、ほんとに気楽にストレートに話ができるようになったことです。おかげで、会社の女の子がみんなボクナ恋人に見えちゃうほど。何か会社へ行くのが楽しくなりました、ほんと。もちろん例の音楽は毎日かかさず聞いてます。次のテープが楽しみです。埼玉県 山口若和

最近、人とのつきあいが信じられないくらいうまくゆきます。

広島県 船越照政

こうなったらいいなあと思っていたことがもう立続けに三度も現実のものになってしまいました。

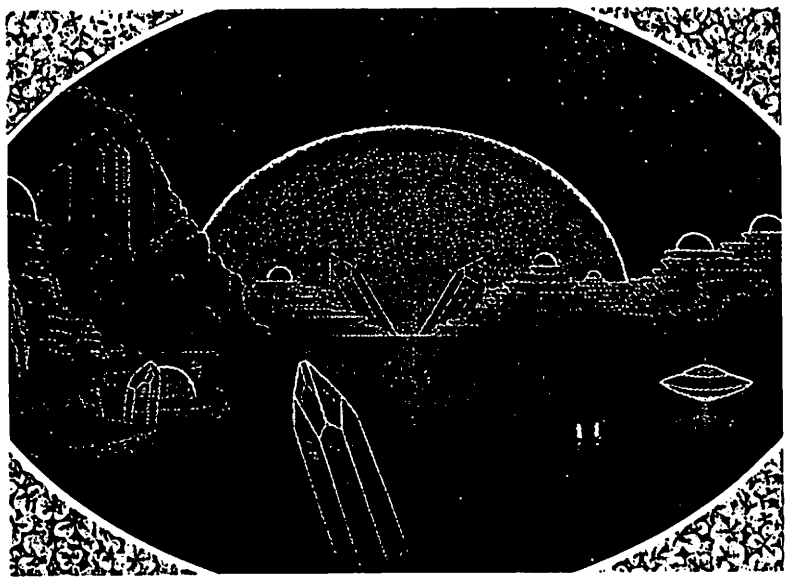
東京都 高見隆幸

☆ちょっと異次元体験してみませんか？☆

あなたを「宇宙人」にする宇宙波動音楽

宇宙波動を生み出す音の魔術師IASOSがあなたを大宇宙へご招待します！

今、アメリカで最も注目されている新時代音楽のクリエーターのひとりIASOS。——彼の"異次元宇宙音楽"の宇宙波動が、悩みや不幸の誘因である地球の低い波動の呪縛から、あなたを解放します。「ヤソス」の宇宙波動に乗って、あなたも「意識の宇宙遊泳」「宇宙人気分」を楽しんでみませんか？



あなたを変える宇宙波動音楽

聴いているだけで、思わず「宇宙船で月面旅行しているような」「UFOに乗せてもらっているような」気分になってしまう、とても不思議でファンタスティックな音楽が、アメリカからやってきました。

ギリシャ生まれの宇宙人・こと、アクエリアスサウンド界の異才、ヤソス」の作曲になる宇宙波動音楽がそれ。

人間の意識の波動を高め、ひいては、この地球自体の波動をも高めてしまおうという遠大な意図をもって作られた宇宙波動音楽。非常に宇宙的な響きを持っていると同時に、光速を超えた世界（すなわち異次元世界）の波動を聴く人の意識の中で起こさせるこの音楽は、まるでUFOから発射された流線のような神秘的な力を持っています。

アメリカでも、既視感誘導・アクエリアンエイジの若者を始め"本物"を理解できる多くの人々に親しまれています。一般の人々はもとより、NASA（アメリカ航空宇宙局）の教育センター、百科事典でおなじみのブリタニカ社、そして先駆的医療を先取りする未来の医療機関などでも、この音楽の持つ不思議な力が評価され公式採用されています。

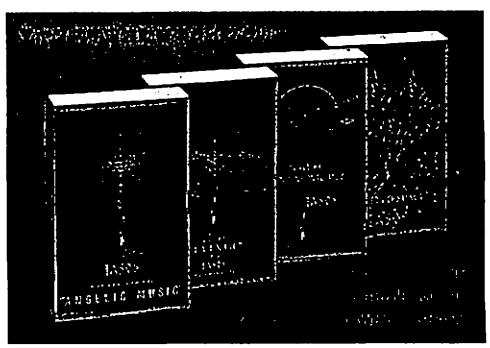
あなたの部屋が宇宙波動で満たされる

アポロ宇宙船に乗り込み大気圏外・月面を遊泳した宇宙飛行士が何人も口々に「神を見た」「本当の自分と出会った」と言い残して、退役後に牧師になったり、平和活動家になってしまった。この話は余りにも有名です。宇宙飛行士達が地球の大気圏を離れたとたん（つまり地磁気の波動の影響下から離れた時）"神を見た"と感じるような高い波動を感じたということは、今の地球大気圏内の波動レベルがいかに低いものであるかを、はからずも証明したということに外なりません。

実は、あなた自身、この地球のきわめて低い波動の影響下にあり、この低い波動に共振する意識の部分しか目醒めていないため、種々の不自由さ・悩み・不幸をかかえてしまっているのです。この地球の低い波動レベルの影響から意識を解放するため、古来からヨガを始めとする色々な行法そして既視法が開発されてきました。

ヤソスの宇宙波動音楽も同じように、この地球の低い波動から意識を解放し、「悩み・不安」などとは無縁の、人間本来の自由自在な至福に満ちた意識レベルを実現するために作られたものです。

うっとりとして音楽に心を合わせる、既視導入音楽として聴く、夜空をながめながら"宇宙人気分"で聴く、自分に合った方法でこの音楽に心を合わせることにより、あなたの部屋は宇宙波動で満たされ、あなたの意識は様々に今までの束縛から解放され、自由と喜びに満たされたものになってゆきます。



★IASOS（ヤソス）のプロフィール★

1947年ギリシャ生まれ。8才の時に両親とアメリカに渡る。コーネル大学で文化人類学を専攻するが、大学在学中における7回（延長瞑想体験および各種の神秘体験を経て宇宙意識にめざめ、宇宙意識の波動を持った音楽の創造をライフワークとすることを決意。現在も瞑想を通じているS.ハルパーンらの知恵を得、宇宙波動を思考させる音楽にも興味を示された"INTER-DIMENSIONAL MUSIC"（次元を超えた音楽）を始めとし発表一覧、全て有名となる

宇宙波動音楽アルバム（テープ4巻）を特別頒布中!!

今アメリカで話題のヤソス作曲の"宇宙波動音楽ライブラリー"のカセットテープアルバム（テープ4巻）を頒布会方式で特別頒布いたしております。

お申込み後、初回から4ヶ月にわたって毎月カセットテープ一巻が届けられ、お支払いは毎月テープ到着後に、3,500円の送料300円。

初回二回目以降を問わず、テープ到着後5日間の無料試聴期間を設けていますので、万一、曲が気に入らなければその時点で返品できます。又、途中でご購入を止めるのも自由です。

■一括購入もできます

テープ4巻を一度に購入したいという場合は、"一括購入希望"と明記の上お申込み下さい。テープ4巻をまとめてお届けし、お支払いは13,500円の送料500円（5日間無料試聴できます。一括購入申込みの場合は、4巻まとめてご購入あるいはご返品願います。）

お申込みは今すぐハガキ・電話で!!

お電話のお申込みは
03（479）6576
受付時間AM10～PM20

「宇宙波動音楽ライブラリー」試聴申込
●頒布会・一括の別
●住所
●氏名
●電話番号
●年齢
●職

〒107
東京都港区赤坂9-6-27
日本ニューエイジセンター
UFO⑦係

当センターは、"ヤソス"の音楽の日本における独占販売権を取得し、現在国内普及に努めております。"卸売り"、"販売代理店"をご希望の方は右記までご一報下さい。

〒107 東京都港区赤坂9-6-27
日本ニューエイジセンター
電話 東京03（479）6576

昭和62年7月30日発行 発行所 日本GAS 〒533東京都江戸川区本一色1-12-11 電話 東京(4)3591(2)

定価七〇〇円・送料200円